

船橋市 新基本計画に係る市民アンケート調査
報告書

船橋市
企画調整課

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査期間.....	1
3. 調査設計.....	1
4. 調査内容.....	1
5. 配布・回収結果.....	1
6. 居住地区区分.....	1
7. 報告書の見方および標本誤差.....	3
(1) 報告書の見方.....	3
(2) 標本誤差.....	4
II. 調査回答者の属性	5
(1) 性別.....	5
(2) 年齢.....	5
(3) 職業.....	6
(4) 居住地区.....	6
(5) 世帯状況.....	7
(6) 通勤・通学状況.....	8
(7) 居住年数.....	9
III. 調査結果	10
1. 船橋市での居住歴と今後の定住意向.....	10
(1) 今後の定住意向.....	10
(2) 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ.....	15
(3) 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ.....	20
2. 現状の船橋市のイメージと船橋市が目指すべきまちのイメージ.....	22
(1) 船橋市の良いイメージ.....	22
(2) 船橋市の悪いイメージ.....	25
(3) 船橋市が目指すべきまちのイメージ.....	28
(4) 船橋市の特筆すべき魅力やイメージについて（自由意見）.....	32
3. 船橋市の生活周辺環境への評価と、今後の取り組みの重要度.....	36
(1) 現在の生活周辺環境評価.....	37
(2) 以前と比較した生活周辺環境評価.....	43
(3) 生活周辺環境の位置づけ（総合評価）.....	49
(4) 今後の取り組みの重要度.....	60
(5) 満足度（現在の状況への評価）と重要度の関係.....	64

4. 船橋市の将来に向けて優先的に取り組むべき政策・施策.....	74
(1) 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点	74
(2) 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点.....	77
(3) 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点	81
(4) 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点	85
(5) 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点	89
(6) 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点	93
(7) 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点.....	97
(8) 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点	101
(9) 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点.....	105
(10) 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点	108
(11) 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと	112
(12) 将来の市街地の土地利用方策のあり方.....	116
(13) 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点	120
(14) 施策の優先度	124
5. 船橋市における今後の施設の必要性.....	128
(1) 市内において今後整備の必要性が高い施設.....	128
(2) 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設	136
6. 地域活動の取り組みについて.....	142
(1) 日頃から地域で取り組んでいる活動.....	142
(2) 今後地域で取り組みたいと思う活動.....	147
(3) 今後の地域活動への参加形態.....	151

<巻末資料>

- ・アンケート調査票

I. 調査概要

1. 調査目的

- ・本調査は、新しい基本計画の策定にあたり、広く船橋市民の政策ニーズや現在の政策に対する評価を把握し、基本計画の施策の方向性等を検討する上での基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査期間

- ・平成 21 年 9 月 15 日～9 月 30 日

3. 調査設計

- (1) 調査地域：船橋市全域
- (2) 調査対象：船橋市在住の満 15 歳以上の男女
- (3) 標本数：6,000 人
- (4) 標本抽出：住民基本台帳からの無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送配布、留置、郵送回収

4. 調査内容

- (1) 属性
- (2) 船橋市での居住歴と今後の定住意向
- (3) 現状の船橋市のイメージと船橋市が目指すべきまちの姿
- (4) 市政に対する満足度と、今後の取り組みの重要度
- (5) 船橋市の将来に向けて優先的に取り組むべき政策・施策
- (6) 船橋市における今後の施設の必要性
- (7) 地域活動の取り組みについて

5. 配布・回収結果

- | | |
|--------------------|------------|
| (1) 標本数（アンケート票配布数） | 6,000 サンプル |
| (2) 有効回収数 | 1,913 サンプル |
| (3) 回収率 | 31.9% |

6. 居住地区区分

- ・本調査での船橋市内の地区区分は、次頁に示す図表のとおりである。

図表I-1 地域区分図（10地区）



地区	該 当 町 丁 目
南部①	本町3丁目、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町
南部②	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台、本町（3丁目を除く）、南本町、海神、海神町、海神町東、海神町西、海神町南、南海神
西部①	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山、二子町、本中山
西部②	旭町、前貝塚町、行田町、行田、山手、北本町、丸山、藤原、上山町、馬込町
中部①	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町、高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台
中部②	高根台、芝山、新高根
東部①	前原東、前原西、中野木、三山、田喜野井、習志野
東部②	二宮、飯山満町、滝台町、滝台、薬円台、薬園台町、七林町、習志野台、西習志野
北部①	二和東、二和西、三咲町、三咲、南三咲、八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台、松が丘、大穴町、大穴南、大穴北
北部②	小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町、坪井町

7. 報告書の見方および標本誤差

(1) 報告書の見方

① 全般

- ・全ての集計表は、小数点第2位を四捨五入した。
- ・回答の比率（％）は、その設問の回答者数を基礎（n）として算出した。したがって、複数回答設問では、全ての比率の合計が100%にならないことがある。
- ・図、表中の数字で、その項目に該当する回答がまったくないものは「0.0」と示す。
- ・本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。実際の表現については、巻末の「アンケート調査票」参照のこと。

② クロス集計結果表の見方

- ・複数回答の設問に対するクロス集計結果については、下表のように上位3位を示している。ただし、1～3位までの間で順位が同率の場合は、「地区B」のように各選択肢を並列で、また3位以下が同率の場合は「地区C」のように第3位に同率の選択肢を並列で示している。

図表I-2 クロス集計結果の見方

	1位	2位	3位
地区A(n=〇〇)	スポーツ施設 16.5%	文化施設 15.1%	百貨店・スーパー等 12.9%
地区B(n=〇〇)	文化施設 公営住宅	16.0%	町会自治会館 14.9%
地区C(n=〇〇)	百貨店・スーパー等 17.6%	公営住宅 16.9%	町会自治会館 スポーツ施設 14.2%

1位と2位が同率のケース

3位と4位が同率のケース

(2) 標本誤差

- ・ 標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基礎 (n)、および②回答比率 (p) によって異なる。

$$S.E. = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

ただし、S.E.=標本誤差

N = 母集団数 (人)

n = サンプル数 (人)

p = 回答比率 (小数)

であり、この式は標本誤差を信頼度 95% で算出している。

注) 信頼度 95% : 100 回同じ調査を実施したときに、概ね 95 回まではこの精度が得られることを示す。

- ・ 上式をもとにした本調査の標本誤差 (サンプル誤差) は、下表のとおりである。

図表 I-3 今回調査の誤差率

サンプル数	回答比率				
	10%又は 90%	20%又は 80%	30%又は 70%	40%又は 60%	50%
1,913	±1.34%	±1.79%	±2.05%	±2.19%	±2.24%
1,500	±1.52%	±2.02%	±2.32%	±2.48%	±2.53%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.03%	±3.10%
500	±2.63%	±3.50%	±4.01%	±4.29%	±4.38%
250	±3.72%	±4.96%	±5.68%	±6.07%	±6.20%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%

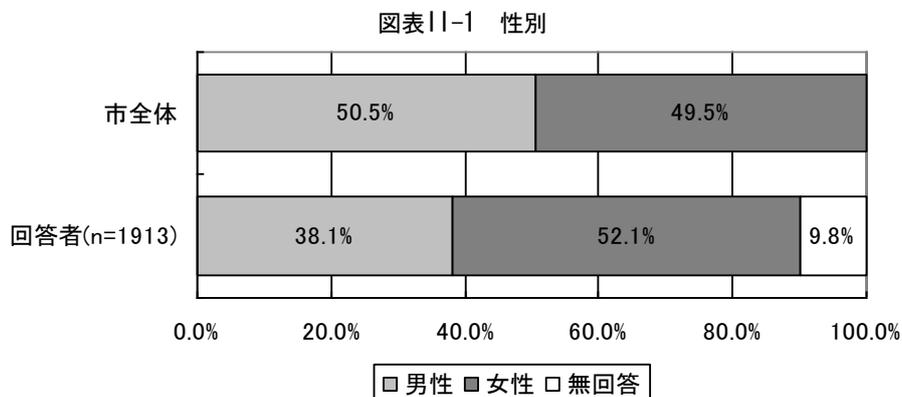
注) 表の見方 : 例えば、ある設問の回答者数が 1,913 人であり、その設問中のある選択肢の回答比率が 60% であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、最高でも ±2.19% 以内 (57.81~62.19%) であると見ることができる。

注 2) 母集団数は、住民基本台帳 (平成 21 年 4 月時点) における船橋市の 15 歳以上人口 509,512 人。

II. 調査回答者の属性

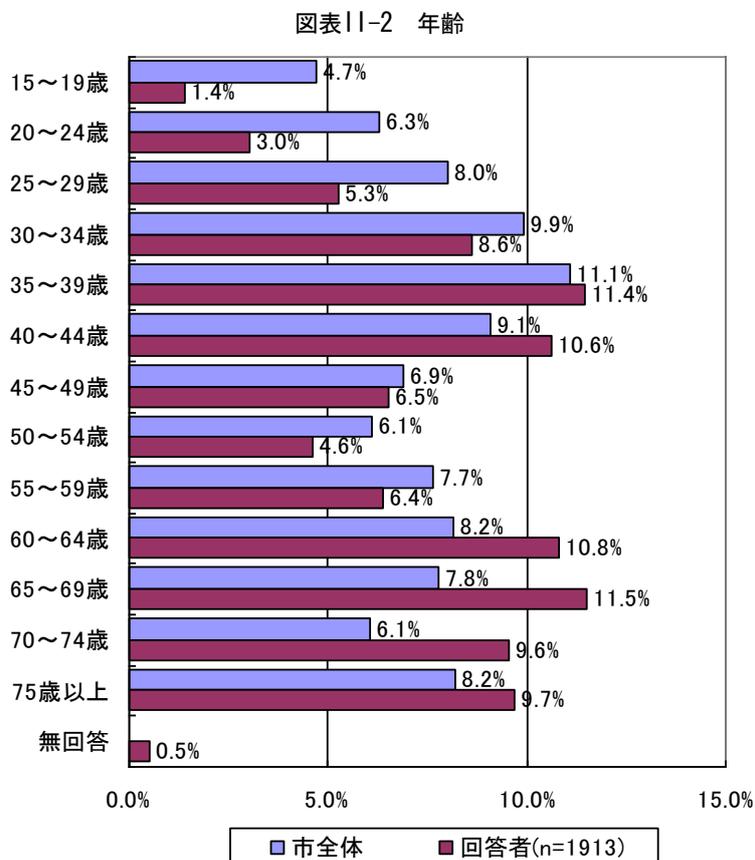
(1) 性別

- ・母集団（市全体）は男性・女性概ね同じ割合であるが、回答者は男性 38.1%、女性 52.1%と、女性の方が高い。



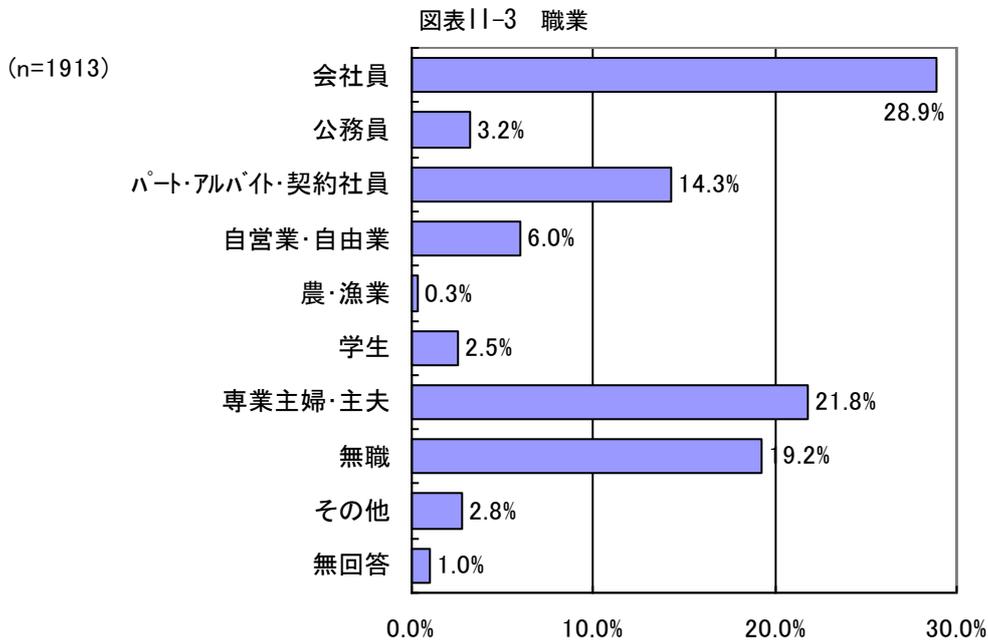
(2) 年齢

- ・母集団に比べると、15～19 歳、20～24 歳、25～29 歳の若年層の割合が特に低く、逆に、60～64 歳、65～69 歳、70～74 歳の高齢者層の割合が特に高い。



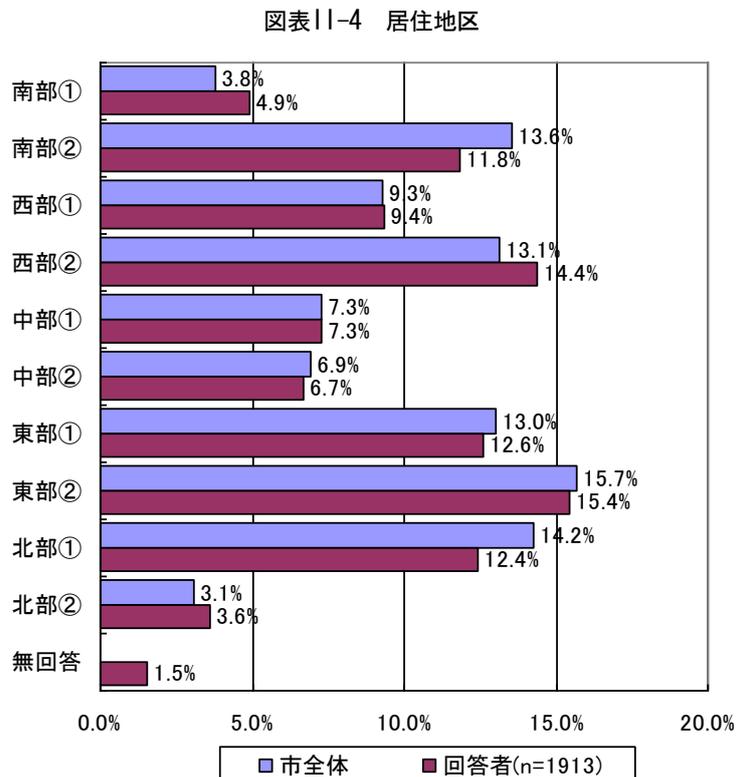
(3) 職業

・会社員（28.9%）が最も高く、次いで専業主婦・主夫（21.8%）、無職（19.2%）がそれぞれ2割前後となっている。



(4) 居住地区

・母集団に比べると、南部②（13.6%）、北部①（14.2%）などがやや高いが、概ね母集団の比率と同様である。地区別にみると、東部②（15.4%）、西部②（14.4%）、東部①（12.6%）などの割合が高く、中部②（6.7%）、南部①（4.9%）、北部②（3.6%）の割合は低い。

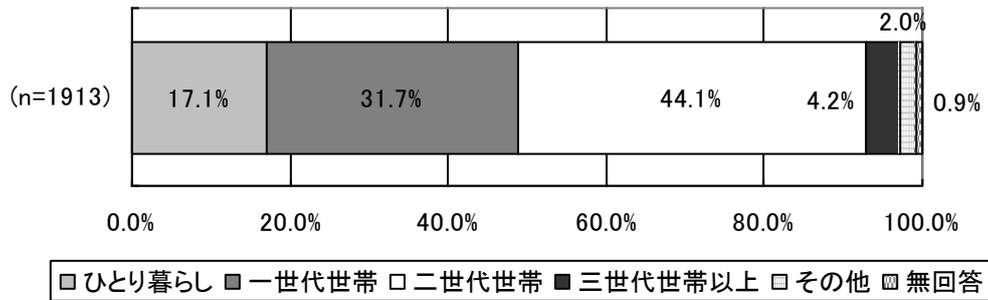


(5) 世帯状況

① 世帯構成

- ・二世帯世帯（44.1%）が最も高く、次いで一世代世帯（31.7%）、ひとり暮らし（17.1%）となっている。

図表11-5 世帯状況

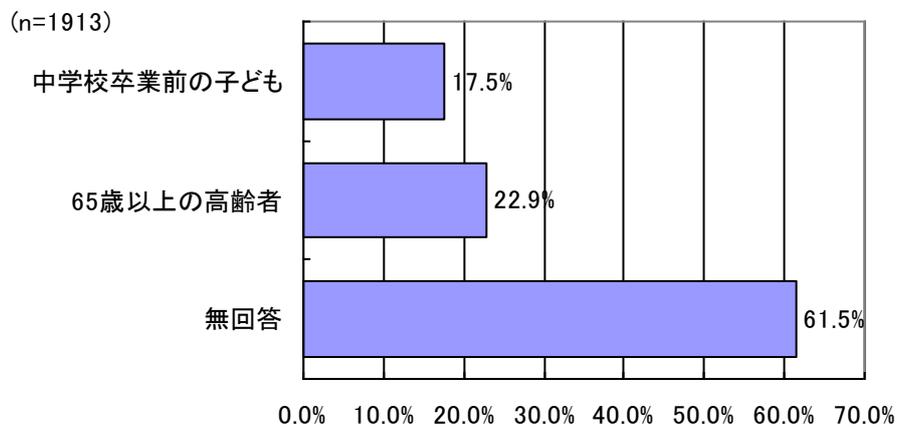


注) 一世代世帯：夫婦のみ、兄弟姉妹のみなど、二世帯世帯：親と子など、三世帯世帯以上：祖父母と親と子など。

② 中学校卒業前の子どもおよび65歳以上の高齢者の有無

- ・中学校卒業前の子どもがいる世帯は17.5%、65歳以上の高齢者がいる世帯は22.9%である。

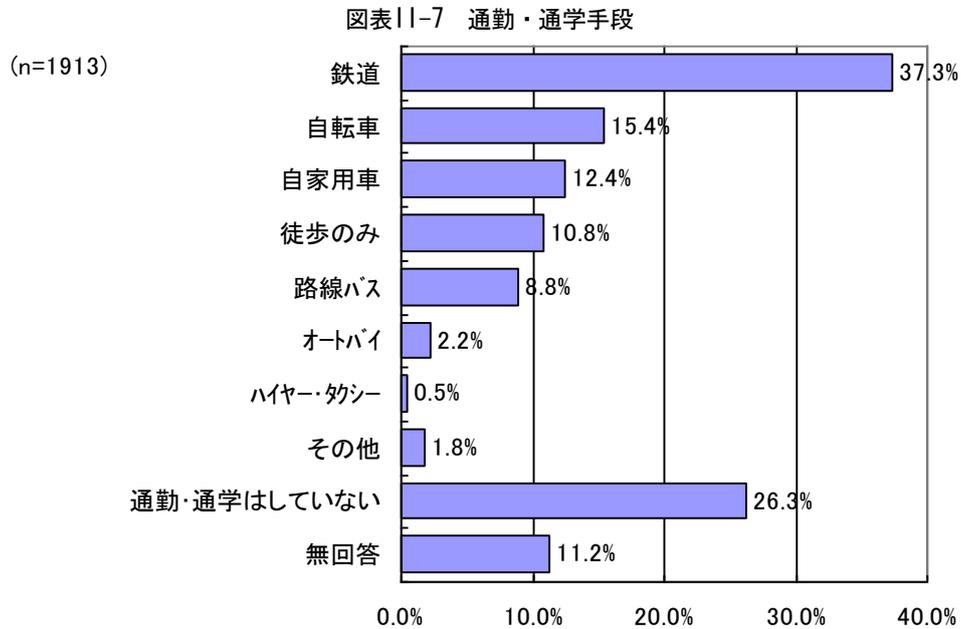
図表11-6 中学卒業前の子どもおよび65歳以上の高齢者の有無



(6) 通勤・通学状況

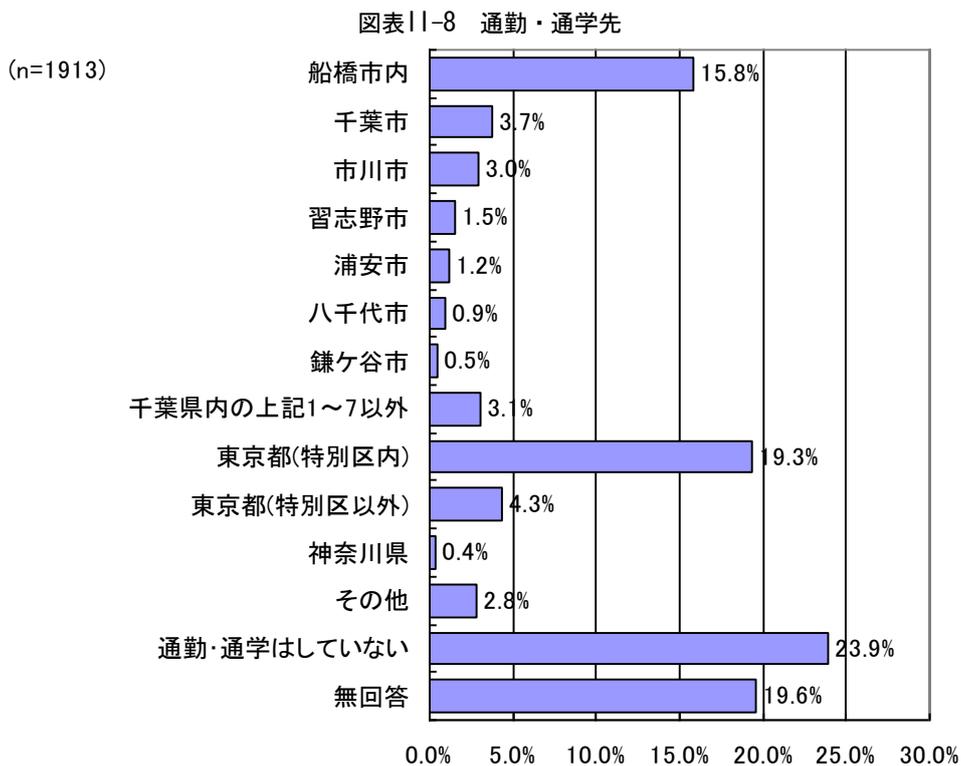
① 通勤・通学手段

・通勤・通学手段は、鉄道（37.3%）、自転車（15.4%）、自家用車（12.4%）の順となっている。



② 通勤・通学先

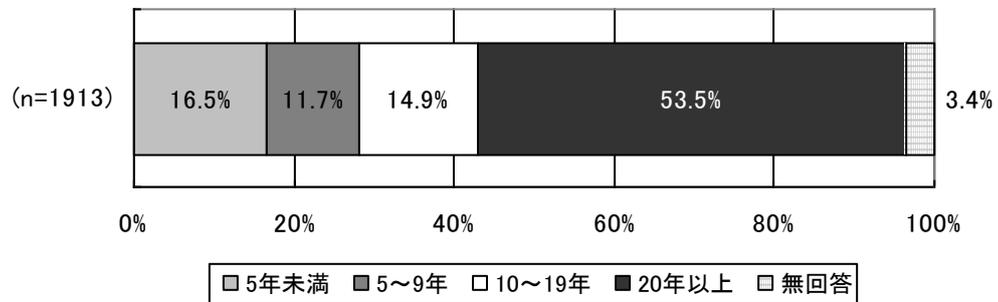
・通勤・通学先は、東京都(特別区内)（19.3%）が最も高く、次いで船橋市内（15.8%）、東京都(特別区以外)（4.3%）となっており、東京都への通勤・通学者が2割強を占めている。



(7) 居住年数

・居住年数は、20年以上（53.5%）が半数以上を占め最も高く、次いで5年未満（16.5%）、10～19年（14.9%）、5～9年（11.7%）となっている。

図表11-9 居住年数



III. 調査結果

1. 船橋市での居住歴と今後の定住意向

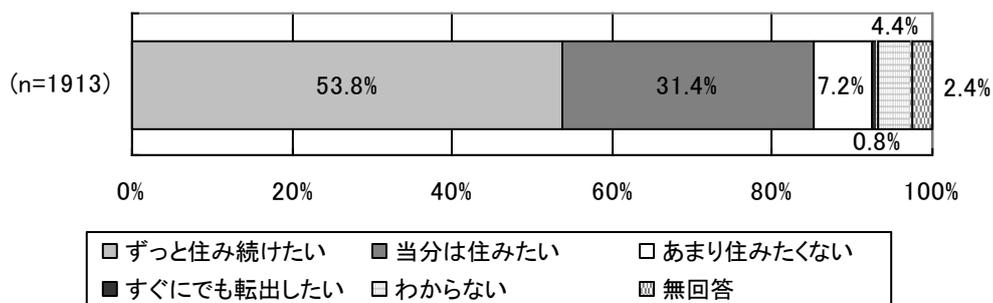
(1) 今後の定住意向

* 「ずっと住み続けたい」が半数、「当分は住みたい」と合わせると、定住意向が8割以上。

問1 あなたは船橋市に住み続けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- ・ 「ずっと住み続けたい」(53.8%)が最も高く、「当分は住みたい」(31.4%)と合わせると、8割以上が定住意向を有している。
- ・ 「あまり住みたくない」(7.2%)と「すぐにでも転出したい」(0.8%)を合わせると、転出意向は1割以下である。

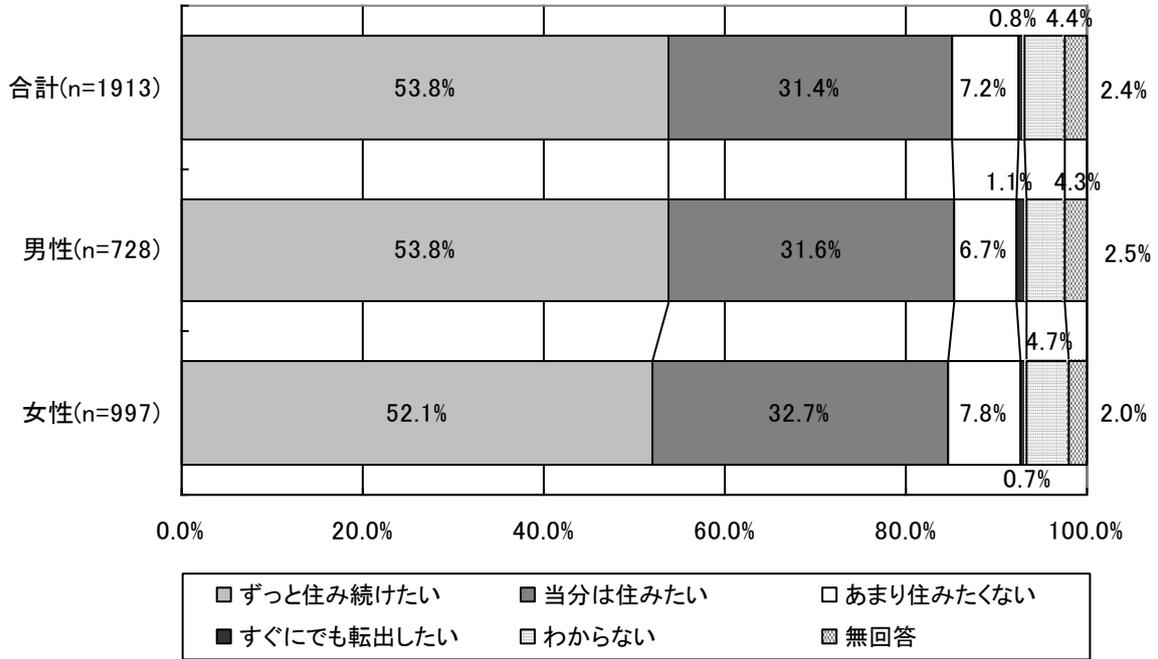
図表III-1 今後の定住意向



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と概ね同様の傾向を示している。

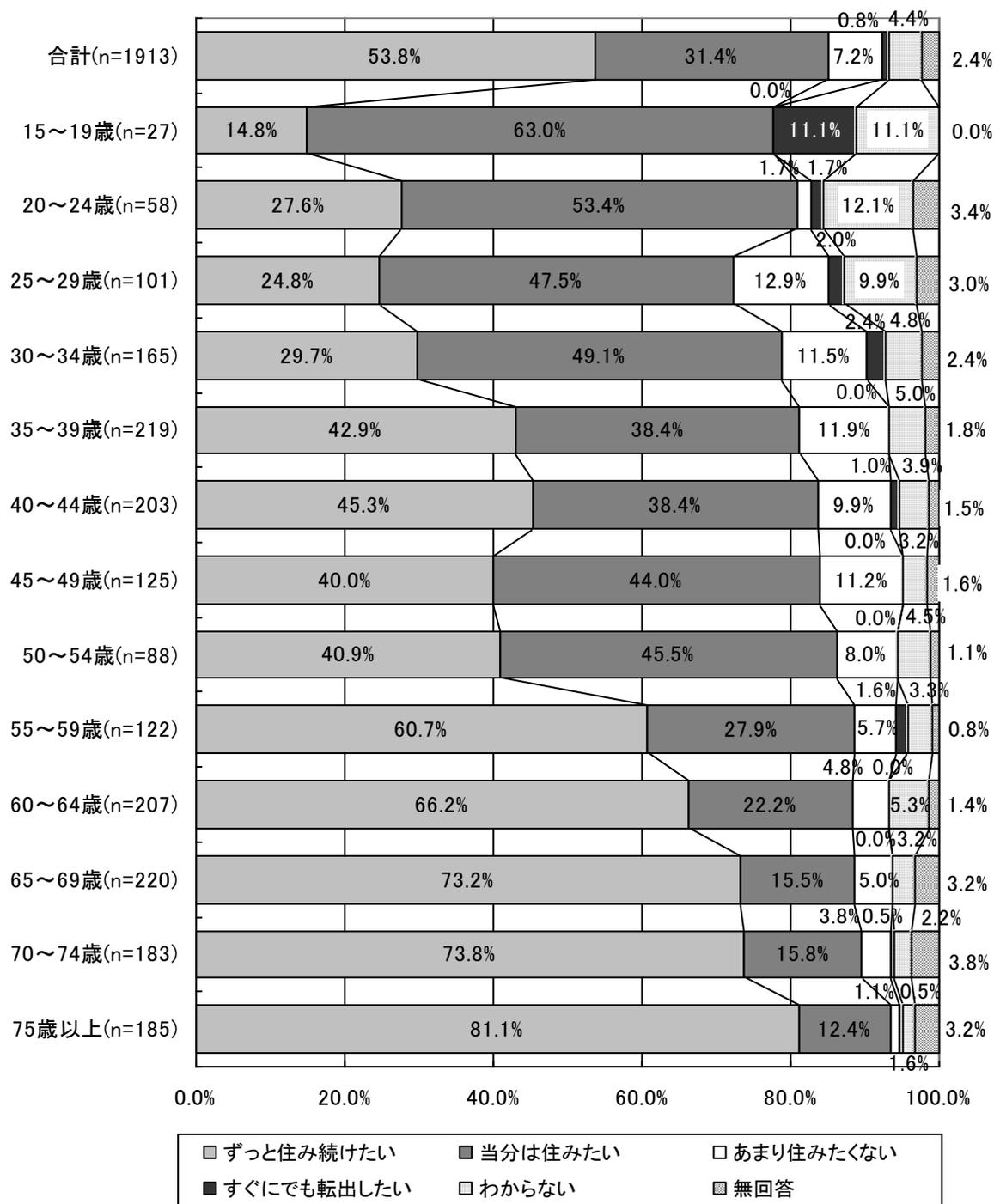
図表III-2 今後の定住意向（性別）



② 年齢別

- ・ 15～19歳では「ずっと住み続けたい」（14.8%）が低く、「すぐにでも転出したい」（11.1%）、「わからない」（11.1%）がそれぞれ約1割と高い。
- ・ また、20～34歳でも「ずっと住み続けたい」が回答者全体と比べて低く、「わからない」が1割前後など、若年層では相対的に定住意向が低いといえる。
- ・ 一方、55歳以上では、回答者全体よりも「ずっと住み続けたい」の割合が高い。年齢が高くなるほどその傾向は強く、75歳以上では81.1%と8割以上を占めている。

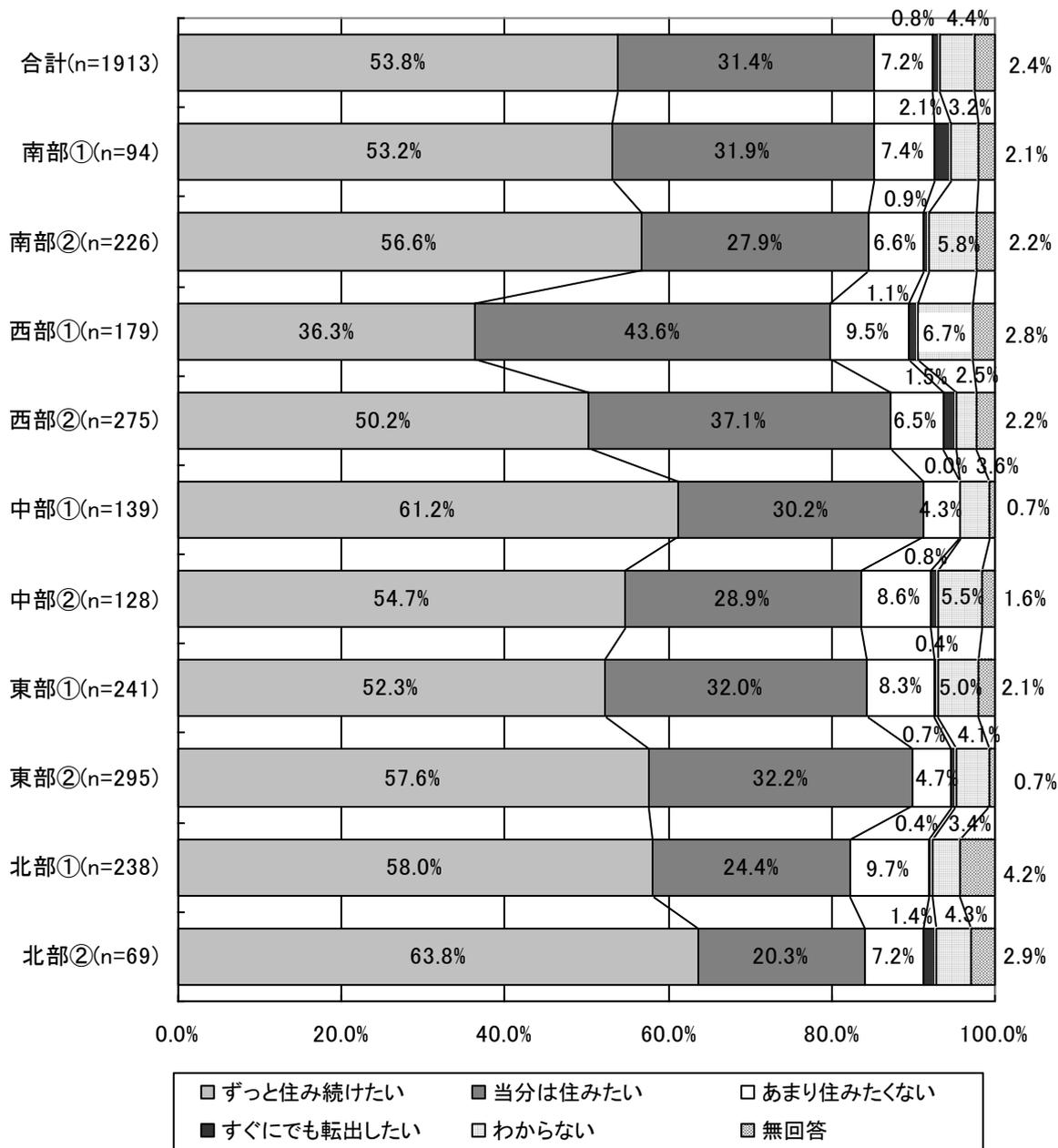
図表III-3 今後の定住意向（年齢別）



③ 地区別

- ・ 北部②（63.8%）、中部①（61.2%）では「ずっと住み続けたい」の割合がいずれも6割を超えており、他地区と比べても高い。
- ・ 一方、西部①では「ずっと住み続けたい」（36.3%）が他地区と比べても特に低く、「当分は住みたい」（43.6%）の割合が高い。

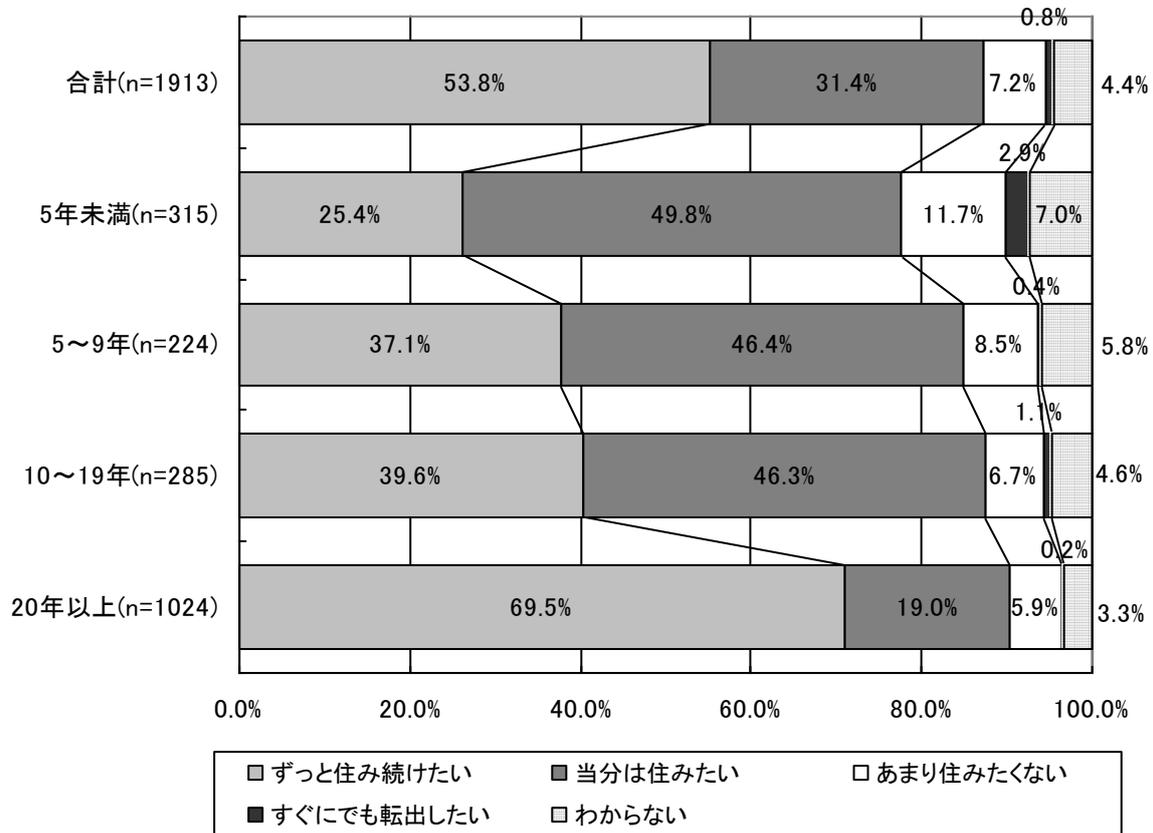
図表III-4 今後の定住意向（地区別）



④ 居住年数別

- ・ 「ずっと住みたい」単独でも、「ずっと住みたい」「当分は住みたい」の合計値でも、居住年数が長いほど回答者の割合は高くなっており、居住年数と定住意向との間に正の相関関係があることがうかがえる。

図表III-5 今後の定住意向（居住年数別）



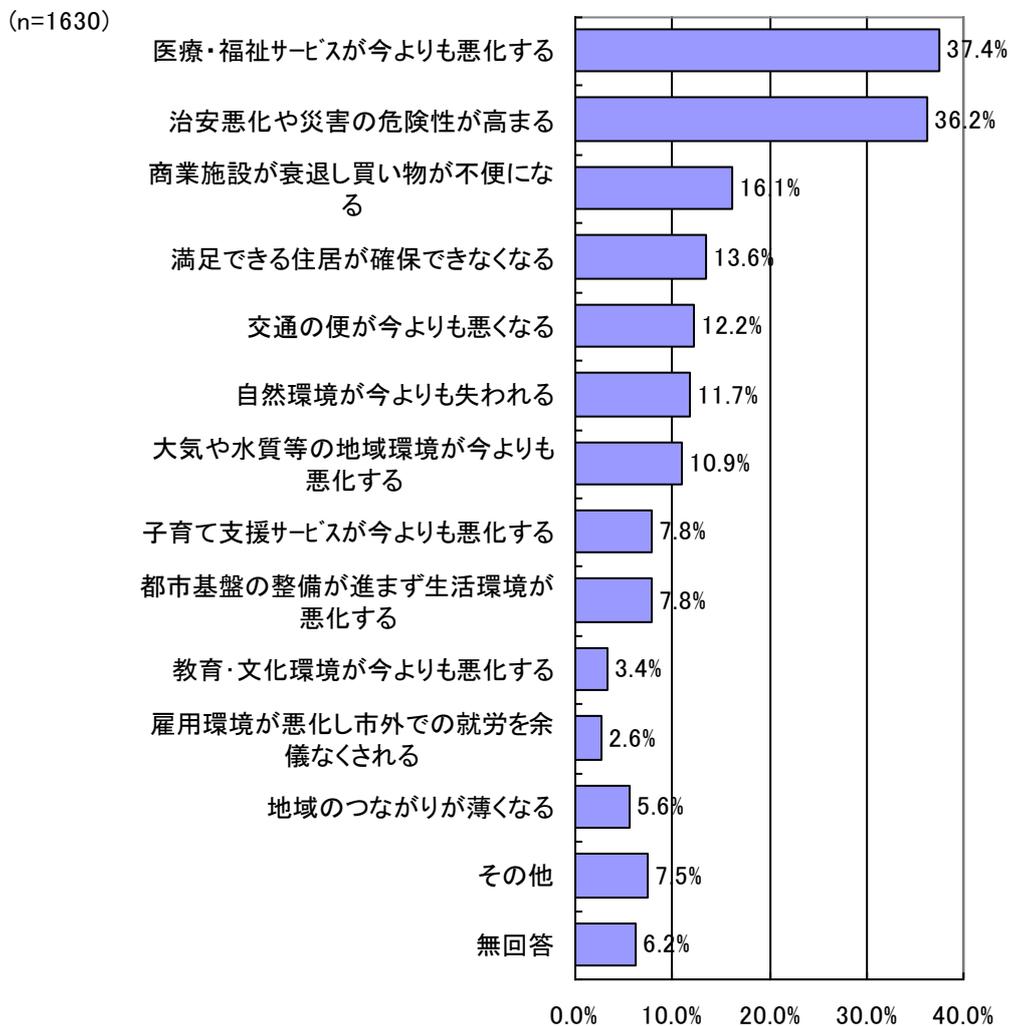
(2) 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ

* 「医療・福祉サービスが今よりも悪化する」、「治安悪化や災害の危険性が高まる」が4割弱。

問2 問1で「1. ずっと住み続けたい」、「2. 当分は住みたい」と回答した方におうかがいします。
船橋市に住み続けたいというあなたの意向が変わるとしたら、どのようなことがきっかけになるとお考えですか。あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

- ・ 「医療・福祉サービスが今よりも悪化する」(37.4%)、「治安悪化や災害の危険性が高まる」(36.2%)が他と比べても非常に高い。

図表111-6 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ



① 性別

- ・ 上位 3 位までにあげられている項目は回答者全体と同様である。
- ・ 男性は「医療・福祉サービスが今よりも悪化する」(37.5%) が第 1 位となっているのに対して、女性は、男性および回答者全体で 2 位であった「治安悪化や災害の危険性が高まる」(37.2%)が第 1 位となっている。

図表III-7 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=622)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 37.5%	治安悪化や災害の危険性が高まる 35.4%	商業施設が衰退し買い物 物が不便になる 15.4%
女性(n=845)	治安悪化や災害の危険性 が高まる 37.2%	医療・福祉サービスが今よ りも悪化する 36.3%	商業施設が衰退し買い 物が不便になる 16.4%

② 年齢別

- ・ 55 歳以上は「医療・福祉サービスが今よりも悪化する」が最も高く、回答者全体と同様の項目となっている。
- ・ 35～49 歳と 20～24 歳では「治安悪化や災害の危険性が高まる」が最も高い。
- ・ また、子育て世代に該当すると考えられる 30～34 歳では「子育て支援サービスが今よりも悪化する」が最も高い。
- ・ そのほか、25～29 歳では「商業施設が衰退し買い物が不便になる」、15～19 歳では「交通の便が今よりも悪くなる」がそれぞれ最も高く、29 歳以下の年齢階層では、これらの項目が上位にあげられている。

図表 III-8 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=21)	交通の便が今よりも悪くなる	商業施設が衰退し買い物が不便になる	大気や水質等の地域環境が今よりも悪化する 治安悪化や災害の危険性が高まる
	42.9%	33.3%	19.0%
20～24歳(n=47)	治安悪化や災害の危険性が高まる	商業施設が衰退し買い物が不便になる 交通の便が今よりも悪くなる	
	31.9%		25.5%
25～29歳(n=73)	商業施設が衰退し買い物が不便になる	治安悪化や災害の危険性が高まる	交通の便が今よりも悪くなる
	28.8%	27.4%	26.0%
30～34歳(n=130)	子育て支援サービスが今よりも悪化する	治安悪化や災害の危険性が高まる	医療・福祉サービスが今よりも悪化する
	34.6%	33.8%	18.5%
35～39歳(n=178)	治安悪化や災害の危険性が高まる	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	満足できる住居が確保できなくなる
	45.5%	19.7%	18.5%
40～44歳(n=170)	治安悪化や災害の危険性が高まる	大気や水質等の地域環境が今よりも悪化する	医療・福祉サービスが今よりも悪化する
	48.8%	22.9%	21.2%
45～49歳(n=105)	治安悪化や災害の危険性が高まる	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	満足できる住居が確保できなくなる
	41.9%	39.0%	16.2%
50～54歳(n=76)	治安悪化や災害の危険性が高まる	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	満足できる住居が確保できなくなる
	44.7%	27.6%	21.1%
55～59歳(n=108)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	治安悪化や災害の危険性が高まる	商業施設が衰退し買い物が不便になる
	50.9%	45.4%	16.7%
60～64歳(n=183)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	治安悪化や災害の危険性が高まる	自然環境が今よりも失われる
	49.7%	36.1%	17.5%
65～69歳(n=195)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	治安悪化や災害の危険性が高まる	商業施設が衰退し買い物が不便になる
	56.4%	29.7%	16.9%
70～74歳(n=164)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	治安悪化や災害の危険性が高まる	商業施設が衰退し買い物が不便になる
	50.0%	31.1%	18.3%
75歳以上(n=173)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する	治安悪化や災害の危険性が高まる	商業施設が衰退し買い物が不便になる
	57.2%	23.1%	14.5%

③ 地区別

- ・ 1位と2位の順位の入れ替えは見られるものの、多くの地域で回答者全体と同じ項目が上位3項目としてあげられている。
- ・ 北部①・②および西部②では、「自然環境が今よりも失われる」が3位となっているほか、東部②でも「大気や水質等の地域環境が今よりも悪化する」が3位となるなど、これら地域では自然・生活環境が地域の魅力となっていることがうかがえる。

図表III-9 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=80)	治安悪化や災害の危険性が高まる 36.3%	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 30.0%	商業施設が衰退し買い物不便になる 20.0%
南部②(n=191)	治安悪化や災害の危険性が高まる 41.4%	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 33.5%	商業施設が衰退し買い物不便になる 14.1%
西部①(n=143)	治安悪化や災害の危険性が高まる 38.5%	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 34.3%	商業施設が衰退し買い物不便になる 24.5%
西部②(n=240)	治安悪化や災害の危険性が高まる 35.8%	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 34.6%	自然環境が今よりも失われる 15.4%
中部①(n=127)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 34.6%	治安悪化や災害の危険性が高まる 31.5%	商業施設が衰退し買い物不便になる 18.9%
中部②(n=107)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 44.9%	治安悪化や災害の危険性が高まる 31.8%	商業施設が衰退し買い物不便になる 19.6%
東部①(n=203)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 36.5%	治安悪化や災害の危険性が高まる 33.5%	商業施設が衰退し買い物不便になる 16.3%
東部②(n=265)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 40.0%	治安悪化や災害の危険性が高まる 35.5%	大気や水質等の地域環境が今よりも悪化する 16.2%
北部①(n=196)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 44.4%	治安悪化や災害の危険性が高まる 39.8%	自然環境が今よりも失われる 16.3%
北部②(n=58)	医療・福祉サービスが今よりも悪化する 39.7%	治安悪化や災害の危険性が高まる 34.5%	自然環境が今よりも失われる 20.7%

④ 居住年数別

- ・ 上位3位までにあげられている項目については、居住年数によって大きな差は見られないが、20年以上の居住者では「医療・福祉サービスが今よりも悪化する」が最も高いのに対して、19年未満の居住者は「治安悪化や災害の危険性が高まる」が最も高く、年齢別傾向と似た傾向を示している。

図表III-10 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ（居住年数別）

	1位	2位	3位
5年未満(n=237)	治安悪化や災害の危険性が高まる 40.9%	商業施設が衰退し買い物 物が不便になる 20.3%	医療・福祉サービスが今よ りも悪化する 19.8%
5～9年(n=187)	治安悪化や災害の危険性 が高まる 41.7%	医療・福祉サービスが今よ りも悪化する 25.7%	商業施設が衰退し買い物 物が不便になる 16.0%
10～19年(n=245)	治安悪化や災害の危険性 が高まる 34.7%	医療・福祉サービスが今よ りも悪化する 31.8%	満足できる住居が確保 できなくなる 21.6%
20年以上(n=907)	医療・福祉サービスが今よ りも悪化する 45.3%	治安悪化や災害の危険性 が高まる 34.5%	商業施設が衰退し買い物 物が不便になる 15.2%

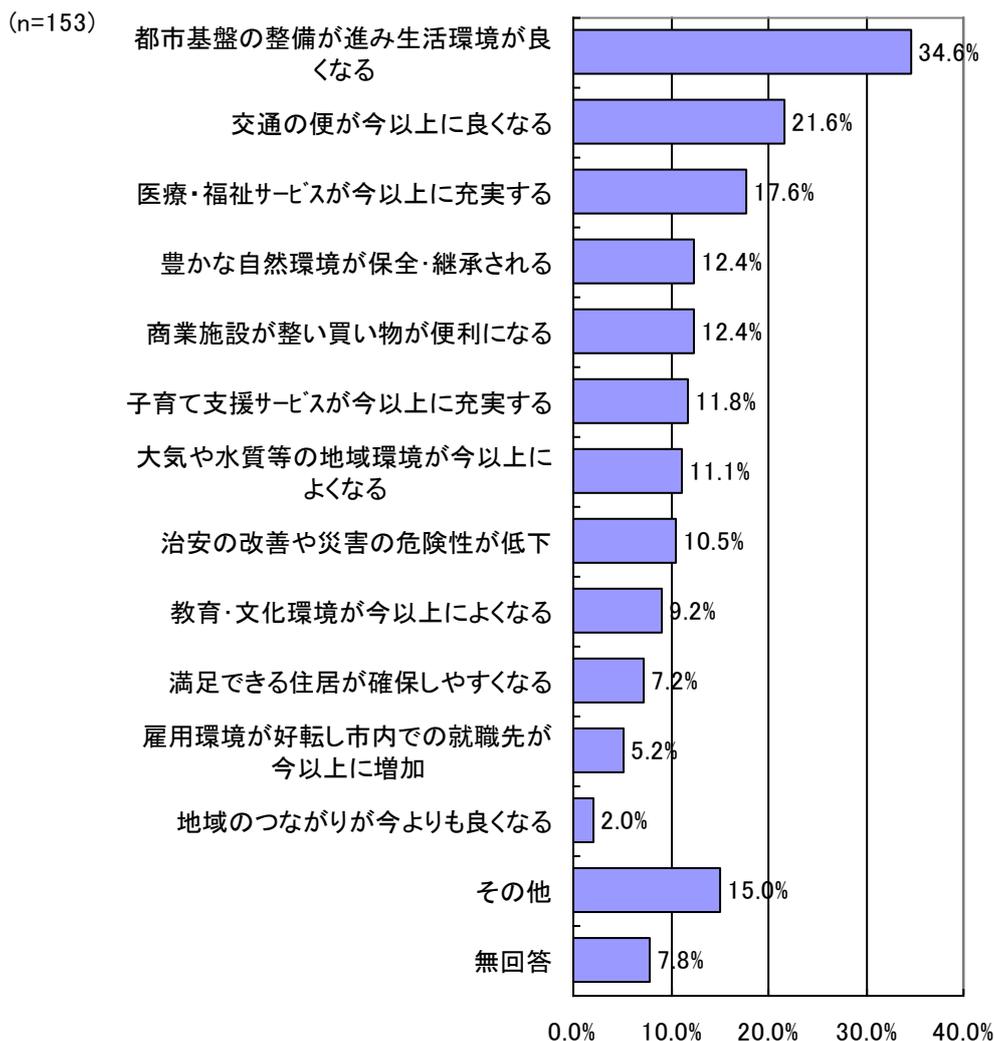
(3) 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ

* 「都市基盤の整備が進み生活環境が良くなる」が3割強、「交通の便が今以上に良くなる」が2割強。

問3 問1で「3. あまり住みたくない」、「4. すぐにでも転出したい」と回答した方におうかがいします。
市外に移りたいというあなたの意向が変わるとしたら、どのようなことがきっかけになるとお考えですか。あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

- ・ 「都市基盤の整備が進み生活環境が良くなる」(34.6%)が最も高く、次いで「交通の便が今以上に良くなる」(21.6%)、「医療・福祉サービスが今以上に充実する」(17.6%)となっている。
- ・ また、「その他」(24件)の記述内容は、市政に関する意見(住民税の値下げ・住民サービスの充実等)が8件、生活環境に関する意見(ごみ、タバコ・ギャンブル等)が4件などとなっている。

図表III-11 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ



① 性別

- ・ 1位および2位については回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 第3位の項目については、女性は回答者全体と同様だが、男性では回答者全体では第8位であった「治安の改善や災害の危険性が低下」（17.5%）があげられている。

図表III-12 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=57)	都市基盤の整備が進み 生活環境が良くなる 35.1%	交通の便が今以上に良くなる 19.3%	治安の改善や災害の危険性が低下 17.5%
女性(n=85)	都市基盤の整備が進み 生活環境が良くなる 35.3%	交通の便が今以上に良くなる 24.7%	医療・福祉サービスが今以上に充実する 21.2%

② 居住年数別

- ・ 9年以下居住者は「都市基盤の整備が進み生活環境が良くなる」が最も高く、回答者全体と同様である。
- ・ 一方、10～19年では「医療・福祉サービスが今以上に充実する」（40.9%）が、20年以上居住者では「交通の便が今以上に良くなる」（27.4%）が最も高い。

図表III-13 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ（居住年数別）

	1位	2位	3位
5年未満(n=46)	都市基盤の整備が進み 生活環境が良くなる 47.8%	子育て支援サービスが今以上に充実する 交通の便が今以上に良くなる 21.7%	
5～9年(n=20)	都市基盤の整備が進み 生活環境が良くなる 65.0%	大気や水質等の地域環境が今以上によくなる 35.0%	交通の便が今以上に良くなる 25.0%
10～19年(n=22)	医療・福祉サービスが今以上に充実する 40.9%	都市基盤の整備が進み 生活環境が良くなる 31.8%	その他 22.7%
20年以上(n=62)	交通の便が今以上に良くなる 27.4%	医療・福祉サービスが今以上に充実する 豊かな自然環境が保全・継承される その他	21.0%

注) 本設問は回答者数が少なく、「年齢別」および「地区別」の分析結果は統計的意義をもつ数字とにならないため、掲載していない。

2. 現状の船橋市のイメージと船橋市が目指すべきまちのイメージ

(1) 船橋市の良いイメージ

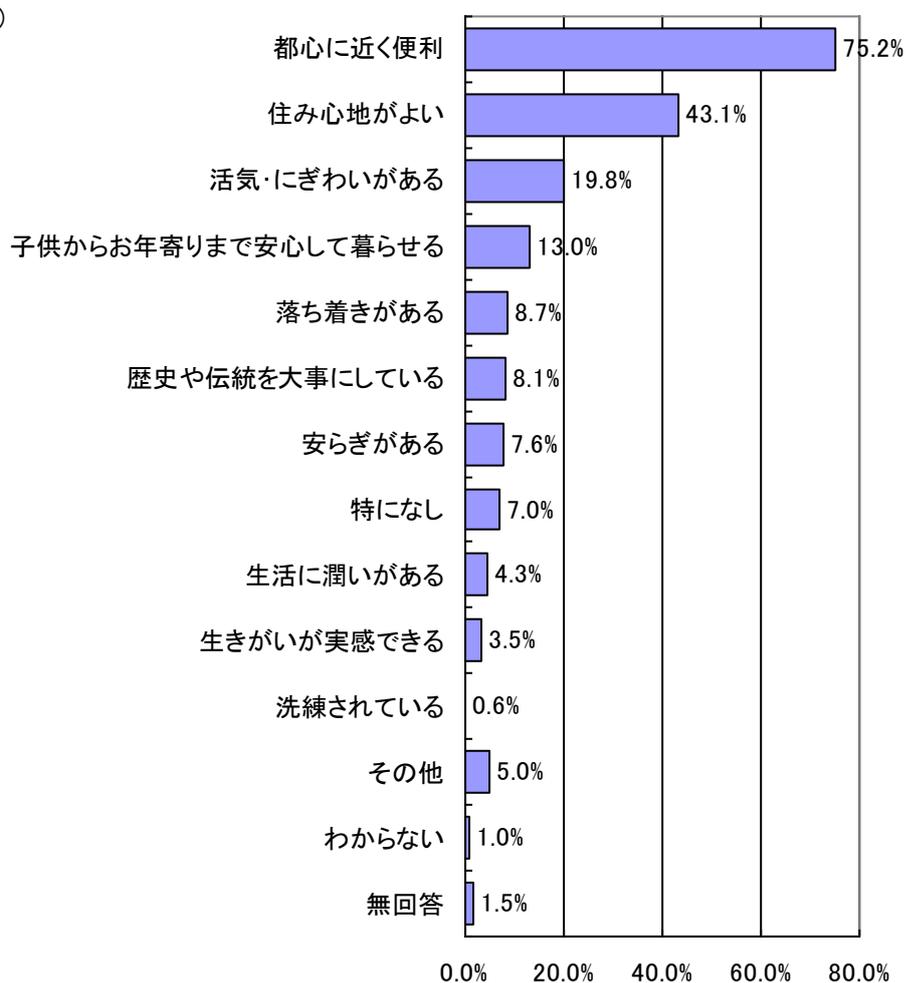
* 「都心に近く便利」が8割弱、「住み心地がよい」が4割強。

問4 あなたが思い浮かべる、船橋市の良いイメージはどれですか。次の中から、あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。
 ※あなたがお住まいの地域に限らず、市全体についてのイメージをご回答ください。

- ・ 「都心に近く便利」が75.2%と最も高く、次いで「住み心地がよい」(43.1%)となっており、これら2項目が他と比べて突出して高い。

図表III-14 船橋市の良いイメージ

(n=1913)



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体の傾向と同様である。

図表III-15 船橋市の良いイメージ（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	76.6%	44.0%	19.5%
女性(n=997)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	75.1%	43.0%	20.1%

② 年齢別

- ・ ほぼ全ての年齢階層で、回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 第3位の項目についてみると、55～59歳および70歳以上で「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」があげられている。

図表III-16 船橋市の良いイメージ（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	66.7%	59.3%	22.2%
20～24歳(n=58)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	79.3%	41.4%	25.9%
25～29歳(n=101)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	76.2%	38.6%	25.7%
30～34歳(n=165)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	82.4%	31.5%	27.9%
35～39歳(n=219)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	72.1%	43.8%	26.5%
40～44歳(n=203)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	75.4%	31.5%	18.7%
45～49歳(n=125)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	80.8%	38.4%	21.6%
50～54歳(n=88)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	77.3%	38.6%	28.4%
55～59歳(n=122)	都心に近く便利	住み心地がよい	子供からお年寄りまで安心して暮らせる 活気・にぎわいがある
	78.7%	49.2%	12.3%
60～64歳(n=207)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	75.4%	38.6%	18.8%
65～69歳(n=220)	都心に近く便利	住み心地がよい	活気・にぎわいがある
	79.5%	45.9%	19.5%
70～74歳(n=183)	都心に近く便利	住み心地がよい	子供からお年寄りまで安心して暮らせる
	69.4%	53.6%	19.1%
75歳以上(n=185)	都心に近く便利	住み心地がよい	子供からお年寄りまで安心して暮らせる
	65.9%	58.9%	15.7%

③ 地区別

- ・ ほぼ全ての地区で回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 第3位の項目についてみると、中部②、北部②で「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」があげられており、北部①では「落ち着きがある」（14.3%）となっている。

図表III-17 船橋市の良いイメージ（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	都心に近く便利 85.1%	住み心地がよい 35.1%	活気・にぎわいがある 27.7%
南部②(n=226)	都心に近く便利 84.5%	住み心地がよい 41.2%	活気・にぎわいがある 28.3%
西部①(n=179)	都心に近く便利 85.5%	住み心地がよい 31.8%	活気・にぎわいがある 17.3%
西部②(n=275)	都心に近く便利 79.3%	住み心地がよい 40.4%	活気・にぎわいがある 20.4%
中部①(n=139)	都心に近く便利 77.0%	住み心地がよい 55.4%	活気・にぎわいがある 22.3%
中部②(n=128)	都心に近く便利 74.2%	住み心地がよい 46.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 21.9%
東部①(n=241)	都心に近く便利 76.8%	住み心地がよい 36.9%	活気・にぎわいがある 26.1%
東部②(n=295)	都心に近く便利 77.3%	住み心地がよい 49.2%	活気・にぎわいがある 20.3%
北部①(n=238)	都心に近く便利 53.8%	住み心地がよい 49.6%	落ち着きがある 14.3%
北部②(n=69)	都心に近く便利 52.2%	住み心地がよい 43.5%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 17.4%

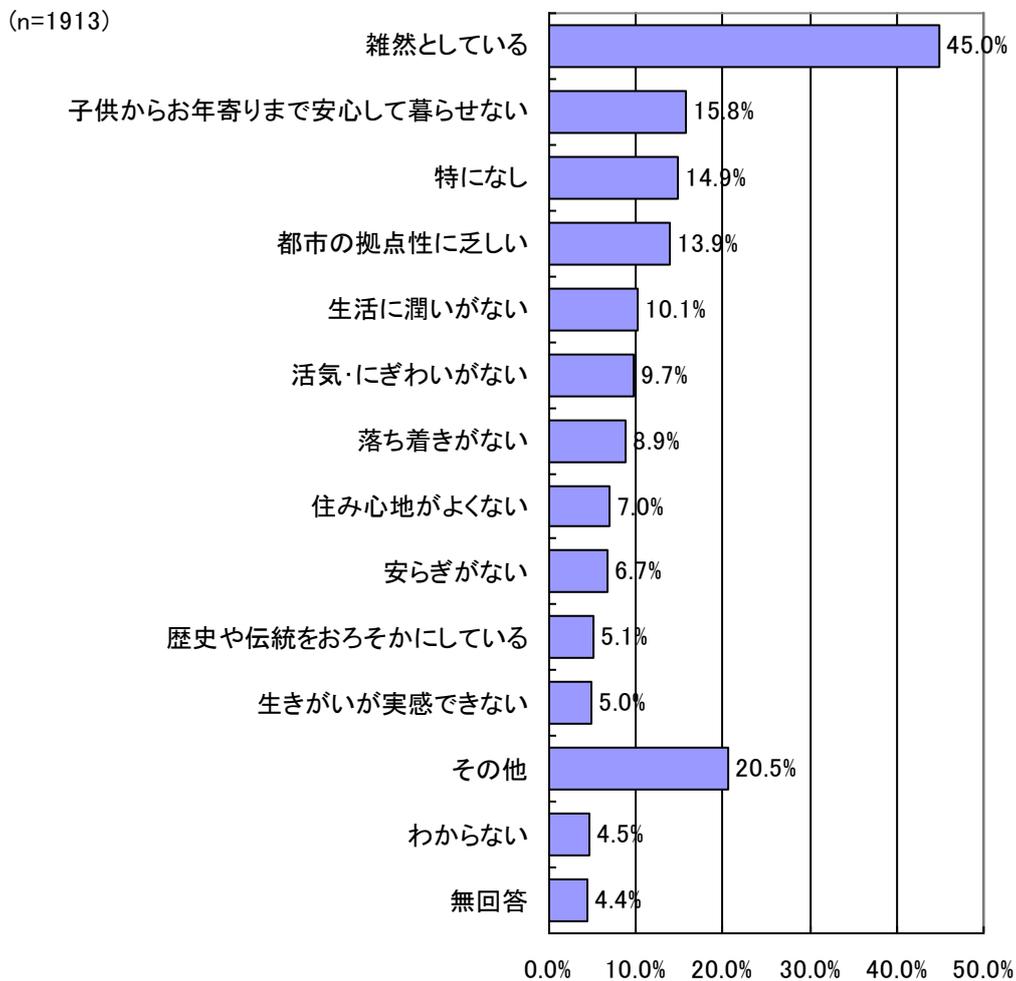
(2) 船橋市の悪いイメージ

*「雑然としている」が45.0%で突出して高い。

問5 あなたが思い浮かべる、船橋市の悪いイメージ（改善すべきところ）はどれですか。次の中から、あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。
※あなたがお住まいの地域に限らず、市全体についてのイメージをご回答ください。

- ・ 「雑然としている」が45.0%で突出して高い。また「その他」も20.5%となっている。
- ・ 次いで「子どもからお年寄りまで安心して暮らせない」（15.8%）となっている。
- ・ 「その他」（428件）の記述内容をみると、道路整備（道路、歩道が狭い・渋滞が多い等）に関する意見が211件と最も多く、次いで、生活環境（ごみ、タバコ・まちの汚れ等）に関する意見が36件、治安の悪さに関する意見が22件などとなっている。

図表III-18 船橋市の悪いイメージ



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と同様に「雑然としている」が突出して高い。
- ・ 第3位については男性が「都市の拠点性に乏しい」（16.1%）、女性が「子どもからお年寄りまで安心して暮らせない」（18.4%）である。

図表III-19 船橋市の悪いイメージ（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	雑然としている 48.6%	その他 21.4%	都市の拠点性に乏しい 16.1%
女性(n=997)	雑然としている 43.8%	その他 21.5%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 18.4%

② 年齢別

- ・ 各年齢階層とも回答者全体と同様、「雑然としている」が最も高く、その他の項目も回答者全体と概ね同様の傾向を示している。
- ・ 50～69歳では「都市の拠点性に乏しい」が第2位と高くなっている。

図表III-20 船橋市の悪いイメージ（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	雑然としている 特になし 22.2%		生活に潤いが無い 18.5%
20～24歳(n=58)	雑然としている 29.3%	その他 24.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 17.2%
25～29歳(n=101)	雑然としている 36.6%	その他 31.7%	落ち着きがない 14.9%
30～34歳(n=165)	雑然としている 48.5%	その他 26.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 24.8%
35～39歳(n=219)	雑然としている 46.6%	その他 36.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 17.8%
40～44歳(n=203)	雑然としている 51.7%	その他 25.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 21.7%
45～49歳(n=125)	雑然としている 49.6%	その他 29.6%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 17.6%
50～54歳(n=88)	雑然としている 50.0%	都市の拠点性に乏しい 21.6%	その他 19.3%
55～59歳(n=122)	雑然としている 47.5%	都市の拠点性に乏しい 17.2%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 16.4%
60～64歳(n=207)	雑然としている 55.6%	都市の拠点性に乏しい 18.8%	その他 14.5%
65～69歳(n=220)	雑然としている 49.1%	都市の拠点性に乏しい 23.2%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせない 15.9%
70～74歳(n=183)	雑然としている 38.8%	特になし 23.0%	活気・にぎわいが無い 15.8%
75歳以上(n=185)	雑然としている 29.2%	特になし 28.1%	都市の拠点性に乏しい 14.6%

③ 地区別

- ・ 概ね回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 第2位の項目についてみると、西部②では「子どもからお年寄りまで安心して暮らせない」(18.9%)、北部②では「都市の拠点性に乏しい」(29.0%)、中部①と北部①では「特になし」があげられている。

図表111-21 船橋市の悪いイメージ (地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	雑然としている 48.9%	その他 24.5%	子供からお年寄りまで安心して暮らせない 17.0%
南部②(n=226)	雑然としている 40.3%	その他 20.8%	子供からお年寄りまで安心して暮らせない 16.8%
西部①(n=179)	雑然としている 59.2%	その他 26.3%	子供からお年寄りまで安心して暮らせない 16.2%
西部②(n=275)	雑然としている 51.3%	子供からお年寄りまで安心して暮らせない 18.9%	その他 17.5%
中部①(n=139)	雑然としている 38.8%	特になし 19.4%	その他 18.0%
中部②(n=128)	雑然としている 45.3%	その他 19.5%	特になし 17.2%
東部①(n=241)	雑然としている 47.3%	その他 22.8%	子供からお年寄りまで安心して暮らせない 17.8%
東部②(n=295)	雑然としている 43.1%	その他 22.0%	特になし 16.3%
北部①(n=238)	雑然としている 37.0%	特になし 21.8%	都市の拠点性に乏しい その他 15.5%
北部②(n=69)	雑然としている 40.6%	都市の拠点性に乏しい 29.0%	その他 27.5%

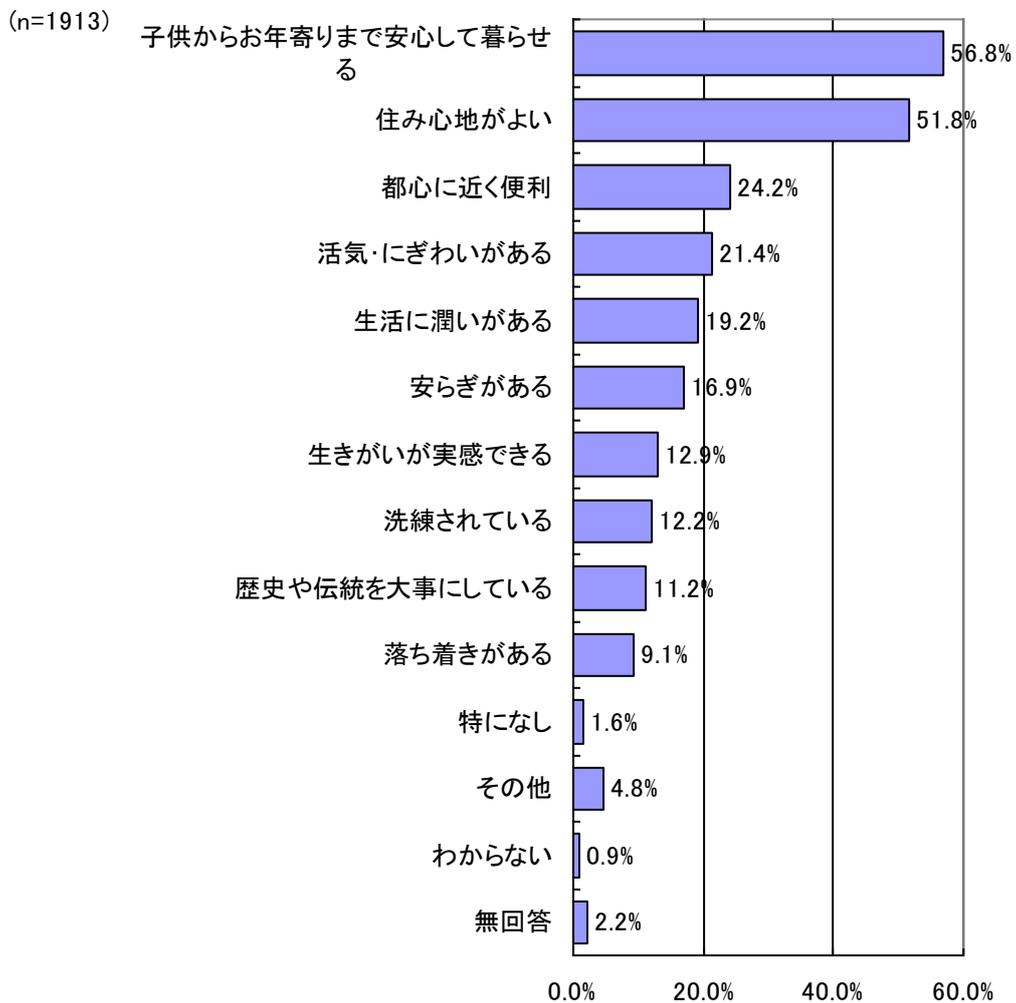
(3) 船橋市が目指すべきまちのイメージ

* 「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」と「住み心地がよい」が5割以上。

問6 今後、船橋市が目指すべきまちのイメージとして、あなたが最もふさわしいと思うものはどれですか。次の中から、あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。
※あなたが住まいの地域に限らず、市全体についてのイメージをご回答ください。

- ・ 「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」(56.8%)が最も高く、次いで「住み心地がよい」(51.8%)であり、これら2項目が他と比べて突出して高い。
- ・ 次いで「都心に近く便利」(24.2%)、「活気・にぎわいがある」(21.4%)が2割以上である。

図表III-22 船橋市が目指すべきまちのイメージ



① 性別

- ・ 上位3位にあげられている項目は、男女ともに回答者全体と同様である。
- ・ 男性は「住み心地がよい」(54.1%)が最も高く、女性は「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」(61.7%)が最も高い。

図表III-23 船橋市が目指すべきまちのイメージ(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	住み心地がよい 54.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 51.9%	都心に近く便利 23.9%
女性(n=997)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 61.7%	住み心地がよい 51.8%	都心に近く便利 23.4%

② 年齢別

- ・ 上位2位にあげられている項目は回答者全体と同様である。20歳代と60～64歳では、「住み心地がよい」が最も高く、回答者全体の順位と入れ替わっている。
- ・ 第3位については20～39歳と50歳代で「活気・にぎわいがある」があげられている。一方、40歳代では「生活に潤いがある」、65～69歳では「生きがい実感できる」があげられている。

図表III-24 船橋市が目指すべきまちのイメージ（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 44.4%	住み心地がよい 生活に潤いがある 29.6%	
20～24歳(n=58)	住み心地がよい 55.2%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 50.0%	活気・にぎわいがある 25.9%
25～29歳(n=101)	住み心地がよい 50.5%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 49.5%	活気・にぎわいがある 31.7%
30～34歳(n=165)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 66.7%	住み心地がよい 58.8%	活気・にぎわいがある 23.0%
35～39歳(n=219)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 63.5%	住み心地がよい 61.2%	活気・にぎわいがある 20.1%
40～44歳(n=203)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 64.5%	住み心地がよい 58.1%	生活に潤いがある 25.6%
45～49歳(n=125)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 61.6%	住み心地がよい 50.4%	生活に潤いがある 30.4%
50～54歳(n=88)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 47.7%	住み心地がよい 46.6%	生活に潤いがある 活気・にぎわいがある 26.1%
55～59歳(n=122)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 60.7%	住み心地がよい 46.7%	活気・にぎわいがある 27.9%
60～64歳(n=207)	住み心地がよい 55.1%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 51.7%	都心に近く便利 24.6%
65～69歳(n=220)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 57.3%	住み心地がよい 45.0%	生きがい実感できる 28.2%
70～74歳(n=183)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 54.6%	住み心地がよい 48.1%	都心に近く便利 29.0%
75歳以上(n=185)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 47.0%	住み心地がよい 45.4%	都心に近く便利 42.2%

③ 地区別

- ・ 上位2位にあげられている項目は回答者全体と同様である。西部①と中部②で、「住み心地がよい」が最も高く、回答者全体の順位と入れ替わっている。
- ・ 第3位の項目は、北部①が「生活に潤いがある」(21.8%)であるほかは、「都心に近く便利」もしくは「活気・にぎわいがある」である。

図表111-25 船橋市が目指すべきまちのイメージ(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 50.0%	住み心地がよい 46.8%	都心に近く便利 33.0%
南部②(n=226)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 58.4%	住み心地がよい 52.7%	都心に近く便利 26.5%
西部①(n=179)	住み心地がよい 55.9%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 50.3%	都心に近く便利 34.1%
西部②(n=275)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 52.7%	住み心地がよい 50.9%	都心に近く便利 24.7%
中部①(n=139)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 59.7%	住み心地がよい 48.2%	都心に近く便利 23.7%
中部②(n=128)	住み心地がよい 56.3%	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 53.1%	都心に近く便利 25.0%
東部①(n=241)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 61.0%	住み心地がよい 55.6%	活気・にぎわいがある 22.8%
東部②(n=295)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 63.4%	住み心地がよい 49.8%	活気・にぎわいがある 25.1%
北部①(n=238)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 55.9%	住み心地がよい 49.2%	生活に潤いがある 21.8%
北部②(n=69)	子供からお年寄りまで 安心して暮らせる 59.4%	住み心地がよい 53.6%	活気・にぎわいがある 都心に近く便利 21.7%

(4) 船橋市の特筆すべき魅力やイメージについて（自由意見）

*都心への近さ・交通利便性についての意見が最も多く、次いで自然環境や、商業施設の充実等。

問7 船橋市について、あなたが感じる特筆すべき魅力やイメージがあれば、以下にご自由にお書きください。

- ・ 船橋市の特筆すべき魅力やイメージについての自由意見への回答者は 303 人、意見数は 470 件となった。それぞれの意見を分類し、まとめたものは下表である。なお、1人で複数の意見を回答している場合は、それぞれ1件として数えている。
- ・ 記述内容の傾向をみると、都心への近さ・交通利便性についての意見が最も多く 106 件、次いで自然環境（緑の多さ、海・農村地域の存在）に関する意見が 80 件、商業施設の充実に関する意見が 56 件となっている。

図表III-26 自由意見の分類結果

項目	件数	構成比(%)
1 都心への近さ・交通利便性	106	22.6%
2 にぎわい・活気	11	2.3%
3 大都市	6	1.3%
4 医療・高齢者福祉	16	3.4%
5 子育て・教育	6	1.3%
6 自然環境	80	17.0%
7 防災・防犯	10	2.1%
8 スポーツ	23	4.9%
9 歴史・文化	24	5.1%
10 商業施設	56	11.9%
11 農業・漁業	14	3.0%
12 住み心地	38	8.1%
13 車が不要	4	0.9%
14 まちの多様性	6	1.3%
15 駅前整備	15	3.2%
16 公共施設整備	5	1.1%
17 市政	9	1.9%
18 コミュニティ・地域活動	10	2.1%
19 競馬場・オートレース	13	2.8%
20 その他	18	3.8%
合計	470	100.0%

<自由意見の抜粋>

① 都心への近さ・交通利便性

- ・ 都心に近くて便利。
- ・ 交通の便が良く、都心で働く人のベッドタウン。
- ・ 成田空港、羽田空港、東京駅へのアクセスが便利。

② にぎわい・活気

- ・ 活気がある。
- ・ 大型マンション等がどんどん建設されている。昼夜問わず活気があふれている。

③ 大都市

- ・ 海があり、人口が多く、スポーツ振興に力を入れており、千葉県内でも都市的なイメージがある都市。
- ・ 人が集まりやすい都市だと思う。

④ 医療・高齢者福祉

- ・ 医療施設が他より充実。
- ・ 医療センターがあり安心できる。(緊急時、総合診療)
- ・ 高齢者の福祉事業が充実している事を感じています。

⑤ 子育て・教育

- ・ 子育てしやすい環境が整っている事。
- ・ 教育に対しての取り組みがよいと思う。

⑥ 自然環境

- ・ 自然や畑などが残っていること。
- ・ 海があることは魅力です。
- ・ 都会的雰囲気もあれば田舎風な自然もある。

⑦ 防災・防犯

- ・ 台風や災害の被害が少なくてすみやすい。
- ・ 比較的犯罪も少なく平和で安全な町だと思っている。

⑧ スポーツ

- ・ スポーツ制定都市。
- ・ 市立船橋高校のようにスポーツが盛んに感じる。

⑨ 歴史・文化

- ・ 市民まつりでの、ばか面踊りなど、船橋の伝統を守っている。しかし、一部の感じがするので、もっと広くやって欲しい。
- ・ 無料のきららホールでの「よりみちライブ」、各公民館で行われる上質のコンサート等とても良いと思っています。
- ・ 音楽がトップクラス。演劇のレベルが高い。

⑩ 商業施設

- ・ ららぽーとやイケアがあって買い物が便利。
- ・ 船橋の魅力は津田沼駅前を含め、デパートや大きな商業施設が数多くあること。都内へ出なくても、ある程度のものは地元でそろろう。

⑪ 農業・漁業

- ・ 梨園、いちご畑、野菜畑など新鮮な農産物が豊富。
- ・ 漁港の町であることをもっとアピールすべきだと思います。あさりや、すずき、のりなどとれることもあまり知られていないと思います。

⑫ 住み心地

- ・ 船橋市は税金もちょっと高いようですが、色々な面において住み良いと思います。船橋市は住み良いと、他の方から引っ越してくると話しに聞いています。これからも住み良い市にしてください。
- ・ 都心に近く便利なわりには、地方都市のもつ落ち着きや安らぎがある。

⑬ 車が不要

- ・ 自家用車なしでも、どこにでも気軽に行ける利便性に魅力を感じている。
- ・ 車に乗れなくても徒歩、電車を使えば買い物、病院に行ける。

⑭ 多様性

- ・ 色々なところがある。牧地、農地、都市、商店。
- ・ 海あり、林あり、古い町並みあり、新しい町あり、商店街あり、オフィス街を整備したり、沢山の要素（素晴らしい市の魅力）を備えている町で成り立っている。

⑮ 駅前整備

- ・ 駅周辺が再開発され、とても栄えてきている。
- ・ JR 船橋駅周辺は、一定程度整備されており、何かと便利である。

⑩ 公共施設整備

- ・ 特筆すべきところは、船橋アリーナやフェイス、スクエア 21 等公共施設が充実しているところと、医療センター等医療福祉に対する取り組みのほか自治体より優れており、恵まれた環境であると思います。
- ・ 千葉県の中では、公民館、児童ホームが全体的に数も多く、使い勝手もよく、恵まれている。

⑪ 市政への満足

- ・ 行政の窓口は、夜間・休日も開いており、前に住んでいた自治体よりも便利である。
- ・ My Fun a や広報ふなばしにて情報発信が積極的にされている。

⑫ コミュニティ・地域活動

- ・ 町内会などの地区のコミュニティ（小市民的きずな）がしっかりしている。
- ・ 公民館が多く、魅力ある企画が多くうれしい。
- ・ 市の行政サービスが行き届いており、公民館運営も、地域に密接して活動しやすい。

⑬ 競馬場・オートレース

- ・ 競艇場や競馬場があり、財政が豊かなイメージ。
- ・ 競馬等のギャンブル、ららぽーとデパートなど、娯楽施設が多い。充実している。

3. 船橋市の生活周辺環境への評価と、今後の取り組みの重要度

問8 あなたが生活する上で、次のそれぞれの項目について、どのようにお感じになっていますか。A欄（現在の状況）、B欄（以前と比べて）のあてはまるところに1つずつ○をつけてください。※B欄の「以前と比べて」は5年以前と比べて、それ以降に市内に住んだ方は転入当時と比べて。

また、それぞれの項目について、今後その取り組みを進めることの重要度について、C欄（重要度）のあてはまるところに1つずつ○をつけてください。※「特に重要」は、「他の施策を遅らせてでも優先的に取り組むべきと思うもの」を指します。

なお、わからない場合には、空欄にしてください。

図表III-27 船橋市の生活周辺環境への評価 回答票のイメージ（一部）

分野	番号	項目	A.現在の状況			B.以前と比べて			C.重要度		
			良い	ふつう	悪い	良くなった	変わらない	悪くなった	特に重要	重要	重要でない
	0	(例)		○				○		○	
I 健康・福祉	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境									
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境									
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス									
	4	障害者にとっての生活しやすさ									
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境									
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ									
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況									
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況									
	9	生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況									

(1) 現在の生活周辺環境評価

① 現在の状況が良い項目

*全体では「鉄道・バスなど公共交通の利便性」が現在の状況が良いと評価された割合が最も高く、地区別では「まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況」、「魅力的な商業施設等の集積の状況」、「ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況」、「まちの中にみどりや公園が豊かにある状況」などが最も高い地区も見られる。

- ・回答者全体では、現在の状況が良いと評価された割合は「鉄道・バスなど公共交通の利便性」(19.71%)が最も高く、次いで「ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況」(16.10%)、「各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境」(15.58%)の順となっている。
- ・地区別では、南部①では「まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況」と「魅力的な商業施設等の集積の状況」、中部①では「まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況」、中部②および北部①では「ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況」、北部②では「まちの中にみどりや公園が豊かにある状況」が、回答者全体と異なり最も高い。
- ・その他の地区では、回答者全体と同様に「鉄道・バスなど公共交通の利便性」が最も高い。

図表III-28 現在の状況が良い項目 上位10項目(回答者全体)

順位	現在の状況が良い項目(上位10項目)	割合
1位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	19.71%
2位	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	16.10%
3位	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	15.58%
4位	16 下水道の整備環境	14.95%
5位	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	14.32%
6位	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	14.17%
7位	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	12.70%
8位	26 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	11.50%
9位	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	11.13%
10位	19 消防体制・救急体制の状況	10.14%

図表III-29 現在の状況が良い項目 地区別上位3項目

地区	現在の状況が「良い」項目		
	1位	2位	3位
南部①(n=94)	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性
	33 魅力的な商業施設等の集積の状況		24.5%
南部②(n=226)	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	33 魅力的な商業施設等の集積の状況
	25.7%	18.1%	
西部①(n=179)	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	16 下水道の整備環境
	22.3%	14.5%	10.6%
西部②(n=275)	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況
	17.5%	15.6%	13.8%
中部①(n=139)	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	16 下水道の整備環境
	22.3%		20.9%
中部②(n=128)	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	16 下水道の整備環境	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境
	21.9%	18.0%	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性
東部①(n=241)	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	16 下水道の整備環境	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境
	23.7%	19.9%	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況
東部②(n=295)	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	16 下水道の整備環境	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況
	19.7%	18.0%	17.3%
北部①(n=238)	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	16 下水道の整備環境
	25.2%	20.6%	16.8%
北部②(n=69)	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	20 まちの美化の状況	10 自然と調和したまちづくりの状況
	42.0%	17.4%	11 親しみのある水辺の整備状況
			19 消防体制・救急体制の状況
			15.9%

② 現在の状況が悪い項目

*全体では「身近な道路の安全さや快適さ」が現在の状況が悪いと評価された割合が最も高く、地区別でも、北部②を除く全ての地区でこの項目の割合が最も高い。

- ・回答者全体では、現在の状況が悪いと評価された割合は「身近な道路の安全さや快適さ」（49.97%）が最も高く、次いで「都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況」（29.95%）、「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」（27.34%）の順となっており、道路を中心に交通環境に関する項目が上位にあげられている。
- ・地区別では、北部②では「鉄道・バスなど公共交通の利便性」が、回答者全体と異なり最も高くなっている以外は、全ての地区で回答者全体と同様に「身近な道路の安全さや快適さ」が最も高くなっており、この項目に対する市民の不満が高いことがうかがえる。

図表III-30 現在の状況が悪い項目 上位10項目（回答者全体）

順位	現在の状況が悪い項目(上位10項目)	割合
1位	42 身近な道路の安全さや快適さ	49.97%
2位	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	29.95%
3位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	27.34%
4位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	26.71%
5位	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	26.19%
6位	40 良好な景観・街並みが保存されている状況	24.93%
7位	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	23.31%
8位	20 まちの美化の状況	21.96%
9位	10 自然と調和したまちづくりの状況	21.69%
10位	05 高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	20.28%

図表III-31 現在の状況が悪い項目 地区別上位3項目

地区	現在の状況が「悪い」項目		
	1位	2位	3位
南部①(n=94)	42 身近な道路の安全さや快適さ	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況 43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	
	54.3%		42.6%
南部②(n=226)	42 身近な道路の安全さや快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況
	44.2%	37.2%	30.5%
西部①(n=179)	42 身近な道路の安全さや快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境 20 まちの美化の状況 45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	
	57.0%		31.8%
西部②(n=275)	42 身近な道路の安全さや快適さ	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	16 下水道の整備環境
	59.3%	37.5%	36.0%
中部①(n=139)	42 身近な道路の安全さや快適さ	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況
	49.6%	36.0%	30.2%
中部②(n=128)	42 身近な道路の安全さや快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	36 安心して働くことができる雇用・労働環境 43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況 45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況
	46.9%	28.9%	28.1%
東部①(n=241)	42 身近な道路の安全さや快適さ	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況 45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況
	51.9%	29.9%	27.8%
東部②(n=295)	42 身近な道路の安全さや快適さ	36 安心して働くことができる雇用・労働環境 43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	
	47.8%		28.8%
北部①(n=238)	42 身近な道路の安全さや快適さ	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	36 安心して働くことができる雇用・労働環境
	48.3%	29.0%	26.5%
北部②(n=69)	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	42 身近な道路の安全さや快適さ	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出
	42.0%	36.2%	33.3%

図表III-32 現在の生活周辺環境評価 回答率一覧 (n=1913)

分野	番号	市の取り組み	良い	ふつう	悪い	無回答
I 健康・福祉	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	15.6%	64.7%	9.7%	10.0%
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	11.1%	64.1%	14.6%	10.1%
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス	3.5%	48.9%	12.1%	35.5%
	4	障害者にとっての生活しやすさ	2.9%	38.7%	19.2%	39.1%
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	3.6%	53.4%	20.3%	22.7%
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ	2.3%	44.6%	11.6%	41.5%
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況	3.6%	51.2%	11.0%	34.2%
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況	2.0%	45.6%	16.0%	36.4%
	9	生活保護受給者に対する相談・指導體制の充実状況	1.5%	40.2%	5.9%	52.4%
II 自然環境・生活環境	10	自然と調和したまちづくりの状況	6.8%	54.3%	21.7%	17.3%
	11	親しみのある水辺の整備状況	6.2%	48.9%	19.2%	25.6%
	12	まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	12.7%	50.6%	23.3%	13.4%
	13	公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	4.5%	56.0%	17.6%	21.9%
	14	省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況	2.2%	48.7%	19.7%	29.4%
	15	ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況	16.1%	53.0%	16.4%	14.5%
	16	下水道の整備環境	15.0%	50.1%	17.9%	17.0%
	17	災害に対して十分な備えがある環境	2.2%	53.3%	17.2%	27.3%
	18	犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	4.0%	53.5%	26.7%	15.7%
	19	消防体制・救急体制の状況	10.1%	60.0%	6.0%	23.9%
	20	まちの美化の状況	5.5%	55.0%	22.0%	17.5%
	21	市内における墓地の整備状況	5.1%	49.6%	8.0%	37.3%
	22	良好な住まいの供給状況	3.1%	55.2%	9.0%	32.7%

分野	番号	市の取り組み	良い	ふつう	悪い	無回答
Ⅲ文化・教育・生涯学習	23	だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	6.8%	58.1%	9.1%	25.9%
	24	地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境	7.0%	53.2%	12.2%	27.6%
	25	ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況	3.6%	53.2%	8.0%	35.3%
	26	だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	11.5%	49.8%	15.8%	22.9%
	27	家庭における親・子の育ちを支える地域環境	2.6%	50.8%	11.9%	34.7%
	28	主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境	2.7%	49.6%	10.2%	37.5%
	29	青少年の健全な育成を支える地域環境	2.0%	48.5%	13.0%	36.5%
	30	多様な国籍の人との交流や共生の状況	2.1%	45.3%	10.9%	41.7%
	31	世界平和に対する市民意識の状況	1.4%	47.8%	11.9%	38.8%
Ⅳ産業振興	32	まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	14.3%	52.8%	8.4%	24.4%
	33	魅力的な商業施設等の集積の状況	14.2%	44.9%	13.3%	27.6%
	34	地域工業の高度化や活性化の状況	1.4%	43.8%	10.0%	44.9%
	35	元気で競争力のある中小企業が活動している状況	0.7%	37.6%	19.2%	42.4%
	36	安心して働くことができる雇用・労働環境	0.7%	36.3%	26.2%	36.8%
	37	市民に親しまれる都市型農業が発展している状況	3.7%	40.1%	14.6%	41.6%
	38	活気があり安定的な漁業が行われている状況	1.7%	36.2%	13.9%	48.3%
	39	消費者の利益がまもられている状況	1.2%	47.2%	13.7%	38.0%
Ⅴまちづくり	40	良好な景観・街並みが保存されている状況	3.8%	46.6%	24.9%	24.6%
	41	魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況	6.6%	43.4%	13.4%	36.5%
	42	身近な道路の安全さや快適さ	3.2%	31.7%	50.0%	15.1%
	43	都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	4.0%	39.5%	30.0%	26.6%
	44	鉄道・バスなど公共交通の利便性	19.7%	47.9%	17.1%	15.2%
	45	バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	6.3%	42.5%	27.3%	23.9%
	46	各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	9.5%	50.0%	18.5%	22.0%
Ⅵ市民参加	47	市のまちづくりに参加・参画する場や機会の充実度	3.2%	50.8%	12.0%	34.0%
	48	町会・自治会やボランティアなどコミュニティ活動の活発さ	8.3%	52.3%	12.8%	26.6%
	49	あらゆる分野に男女が平等に参画し、協働できる環境	2.7%	49.4%	9.1%	38.8%
	50	ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	9.2%	49.8%	9.5%	31.6%

(2) 以前と比較した生活周辺環境評価

① 以前と比べて良くなった項目

*全体では「下水道の整備環境」が以前と比較して良くなったと評価された割合が最も高く、地区別では「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」、「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」などが最も高い地区も見られる。

- ・回答者全体では、以前と比べて良くなったと評価された割合は「下水道の整備環境」(23.11%)が最も高く、次いで「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」(21.22%)、「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」(17.62%)の順となっている。
- ・地区別では、南部①および北部②では「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」、西部②では「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」が、回答者全体と異なり最も高い。
- ・その他の地区では、回答者全体と同様に「下水道の整備環境」が最も高い。

図表III-33 以前と比べて良くなった項目 上位10項目 (回答者全体)

順位	以前と比べて良くなった項目(上位10項目)	割合
1位	16 下水道の整備環境	23.11%
2位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	21.22%
3位	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	17.62%
4位	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	16.05%
5位	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	15.58%
6位	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	15.32%
7位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	14.01%
8位	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	13.64%
9位	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	10.19%
10位	20 まちの美化の状況	9.78%

図表III-34 以前と比べて良くなった項目 地区別上位3項目

地区	以前と比べて良くなった項目		
	1位	2位	3位
南部①(n=94)	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性
	18.1%	14.9%	13.8%
南部②(n=226)	16 下水道の整備環境	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況
	19.0%	18.1%	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性 16.8%
西部①(n=179)	16 下水道の整備環境	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	33 魅力的な商業施設等の集積の状況
	17.3%	15.6%	14.0%
西部②(n=275)	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況
	22.2%	18.9%	16.7%
中部①(n=139)	16 下水道の整備環境	11 親しみのある水辺の整備状況	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性
	30.9%		22.3%
中部②(n=128)	16 下水道の整備環境	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性
	24.2%	21.9%	19.5%
東部①(n=241)	16 下水道の整備環境	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況
	36.5%	24.1%	18.7%
東部②(n=295)	16 下水道の整備環境	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出
	27.1%	26.1%	23.1%
北部①(n=238)	16 下水道の整備環境	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況
	27.3%	23.5%	23.1%
北部②(n=69)	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	20 まちの美化の状況	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況
	18.8%	17.4%	45 ハリアフリーに配慮した交通施設の整備状況 15.9%

② 以前と比べて悪くなった項目

*全体では「安心して働くことができる雇用・労働環境」が以前と比較して悪くなったと評価された割合が最も高く、地区別では「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」が最も高い地区も見られる。

- ・回答者全体では、以前と比べて悪くなったと評価された割合は「安心して働くことができる雇用・労働環境」（21.96%）が最も高く、次いで「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」（20.70%）、「身近な道路の安全さや快適さ」（15.32%）の順となっている。
- ・地区別では、南部②および西部①、中部②、東部①では「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」が、回答者全体と異なり最も高い。
- ・その他の地区では、回答者全体と同様に「安心して働くことができる雇用・労働環境」が最も高い。

図表III-35 以前と比べて悪くなった項目 上位10項目（回答者全体）

順位	以前と比べて悪くなった項目(上位10項目)	割合
1位	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	21.96%
2位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	20.70%
3位	42 身近な道路の安全さや快適さ	15.32%
4位	35 元気で競争力のある中小企業が活動している状況	14.48%
5位	40 良好な景観・街並みが保存されている状況	11.87%
6位	10 自然と調和したまちづくりの状況	10.09%
7位	38 活気があり安定的な漁業が行われている状況	9.83%
8位	37 市民に親しまれる都市型農業が発展している状況	9.67%
8位	39 消費者の利益がまもられている状況	9.67%
10位	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	9.36%

図表III-36 以前と比べて悪くなった項目 地区別上位3項目

地区	以前と比べて悪くなった項目		
	1位	2位	3位
南部①(n=94)	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況
	18.1%	14.9%	12.8%
南部②(n=226)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	35 元気で競争力のある中小企業が活動している状況
	23.0%	19.5%	13.7%
西部①(n=179)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	42 身近な道路の安全さや快適さ
	21.2%		18.4%
西部②(n=275)	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	42 身近な道路の安全さや快適さ
	24.4%	22.9%	18.9%
中部①(n=139)	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	42 身近な道路の安全さや快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境
	22.3%	20.1%	18.7%
中部②(n=128)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	35 元気で競争力のある中小企業が活動している状況
	25.8%	18.0%	14.1%
東部①(n=241)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	42 身近な道路の安全さや快適さ
	19.9%	17.4%	16.6%
東部②(n=295)	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	35 元気で競争力のある中小企業が活動している状況	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境
	25.8%	20.0%	19.7%
北部①(n=238)	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	42 身近な道路の安全さや快適さ
	27.3%	21.4%	16.0%
北部②(n=69)	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	35 元気で競争力のある中小企業が活動している状況
	26.1%	20.3%	18.8%

図表III-37 以前と比較した生活周辺環境評価 回答率一覧 (n=1913)

分野	番号	市の取り組み	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
I 健康・福祉	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	15.6%	57.6%	9.3%	17.6%
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	8.8%	66.6%	7.2%	17.4%
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス	6.0%	51.5%	2.6%	39.9%
	4	障害者にとっての生活しやすさ	6.5%	47.4%	3.1%	43.0%
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	6.4%	57.0%	6.7%	29.8%
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ	4.3%	45.0%	4.9%	45.9%
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況	3.5%	53.3%	3.8%	39.4%
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況	3.2%	50.0%	5.5%	41.2%
	9	生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況	1.6%	40.9%	2.2%	55.3%
II 自然環境・生活環境	10	自然と調和したまちづくりの状況	8.2%	57.4%	10.1%	24.3%
	11	親しみのある水辺の整備状況	9.7%	53.9%	5.2%	31.2%
	12	まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	10.2%	59.9%	9.2%	20.8%
	13	公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	5.5%	59.6%	7.0%	27.9%
	14	省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況	5.0%	56.7%	4.0%	34.4%
	15	ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況	16.0%	57.5%	4.0%	22.4%
	16	下水道の整備環境	23.1%	50.8%	3.0%	23.1%
	17	災害に対して十分な備えがある環境	3.8%	60.7%	2.7%	32.8%
	18	犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	3.2%	53.6%	20.7%	22.5%
	19	消防体制・救急体制の状況	8.1%	58.8%	3.2%	30.0%
	20	まちの美化の状況	9.8%	58.4%	7.5%	24.3%
	21	市内における墓地の整備状況	5.1%	50.7%	2.1%	42.1%
	22	良好な住まいの供給状況	4.2%	54.4%	3.7%	37.8%

分野	番号	市の取り組み	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
Ⅲ文化・教育・生涯学習	23	だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	8.3%	57.3%	1.6%	32.8%
	24	地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境	7.0%	58.1%	1.1%	33.9%
	25	ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況	2.9%	55.0%	1.7%	40.5%
	26	だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	9.0%	56.9%	3.7%	30.4%
	27	家庭における親・子の育ちを支える地域環境	3.6%	51.3%	4.9%	40.2%
	28	主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境	3.1%	48.9%	5.4%	42.6%
	29	青少年の健全な育成を支える地域環境	2.6%	50.1%	5.5%	41.7%
	30	多様な国籍の人との交流や共生の状況	3.5%	46.7%	3.1%	46.7%
	31	世界平和に対する市民意識の状況	2.0%	51.8%	2.3%	43.9%
Ⅳ産業振興	32	まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	8.1%	55.6%	4.8%	31.5%
	33	魅力的な商業施設等の集積の状況	13.6%	45.4%	7.4%	33.6%
	34	地域工業の高度化や活性化の状況	1.2%	44.1%	6.0%	48.8%
	35	元気で競争力のある中小企業が活動している状況	0.8%	38.2%	14.5%	46.5%
	36	安心して働くことができる雇用・労働環境	1.0%	35.8%	22.0%	41.2%
	37	市民に親しまれる都市型農業が発展している状況	2.7%	42.1%	9.7%	45.5%
	38	活気があり安定的な漁業が行われている状況	1.0%	36.9%	9.8%	52.3%
	39	消費者の利益がまもられている状況	1.7%	46.1%	9.7%	42.6%
Ⅴまちづくり	40	良好な景観・街並みが保存されている状況	6.2%	50.7%	11.9%	31.3%
	41	魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況	7.8%	46.9%	4.0%	41.3%
	42	身近な道路の安全さや快適さ	8.1%	54.5%	15.3%	22.1%
	43	都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	6.7%	51.6%	9.4%	32.4%
	44	鉄道・バスなど公共交通の利便性	14.0%	56.7%	6.4%	22.9%
	45	バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	21.2%	44.3%	5.2%	29.3%
	46	各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	15.3%	48.1%	8.4%	28.1%
Ⅵ市民参加	47	市のまちづくりに参加・参画する場や機会の充実度	4.4%	54.7%	1.6%	39.4%
	48	町会・自治会やボランティアなどコミュニティ活動の活発さ	7.4%	56.2%	3.5%	32.9%
	49	あらゆる分野に男女が平等に参画し、協働できる環境	4.4%	50.5%	1.7%	43.4%
	50	ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	17.6%	43.7%	2.0%	36.6%

(3) 生活周辺環境の位置づけ（総合評価）

① 分析の方法

- ・「現在の状況」と「以前との比較」の回答結果を組み合わせ、生活周辺環境の各項目の位置づけを明らかにする。
- ・具体的には、各項目の評価結果を数値化した上で、二つの評価結果の組み合わせにより、「以前より良くなり現状に満足している(I)」、「以前より悪くなったが現状には満足している(II)」、「以前より良くなったが現状には未だ不満である(III)」、「以前より悪くなり現状に不満である(IV)」に分類して分析を行った。

<数値化の方法>

以前との比較については、「良くなった」1点、「変わらない」0点、「悪くなった」-1点とし、現在の状況については、「良い」1点、「ふつう」0点、「悪い」-1点として、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。

図表III-38 総合評価の分類類型

	パターン	以前との比較	現在の満足度
I	以前より良くなり現状に満足している	+	+
II	以前より悪くなったが現状には満足している	-	+
III	以前より良くなったが現状には未だ不満である	+	-
IV	以前より悪くなり現状に不満である	-	-

② 「現在の状況」の評価（数値化）結果の上位項目

- ・現在の状況の評価を数値化した結果は、「各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境」（5.91）及び「まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況」（5.91）が最も高く、次いで「消防体制・救急体制の状況」（4.13）、「鉄道・バスなど公共交通の利便性」（2.56）、「魅力的な商業施設等の集積の状況」（0.84）の順となっている。
- ・評価を数値化した結果がプラスの項目はこの5項目のみで、これら以外はマイナスとなっている。

図表III-39 「現在の状況」の数値化結果（上位10項目）

順位	「現在の状況」の数値化結果(上位10項目)	割合
1位	1 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	5.91
1位	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	5.91
3位	19 消防体制・救急体制の状況	4.13
4位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	2.56
5位	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	0.84
6位	15 ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況	-0.26
6位	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	-0.26
8位	23 だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	-2.30
9位	21 市内における墓地の整備状況	-2.93
10位	16 下水道の整備環境	-2.98

注) 「良い」1点、「ふつう」0点、「悪い」-1点として、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。

③ 「以前との比較」の評価（数値化）結果の上位項目

- ・以前との比較の評価を数値化した結果は、「下水道の整備環境」（20.13）が最も高く、次いで「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」（16.00）、「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」（15.58）、「ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況」（12.02）、「鉄道・バスなど公共交通の利便性」（7.63）の順となっている。

図表III-40 「以前との比較」の数値化結果（上位10項目）

順位	「以前との比較」の数値化結果(上位10項目)	割合
1位	16 下水道の整備環境	20.13
2位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	16.00
3位	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	15.58
4位	15 ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況	12.02
5位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	7.63
6位	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	6.90
7位	23 だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	6.69
8位	1 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	6.33
9位	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	6.22
10位	24 地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境	5.85

注) 「良くなった」1点、「変わらない」0点、「悪くなった」-1点として、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。

図表III-41 総合評価結果一覧

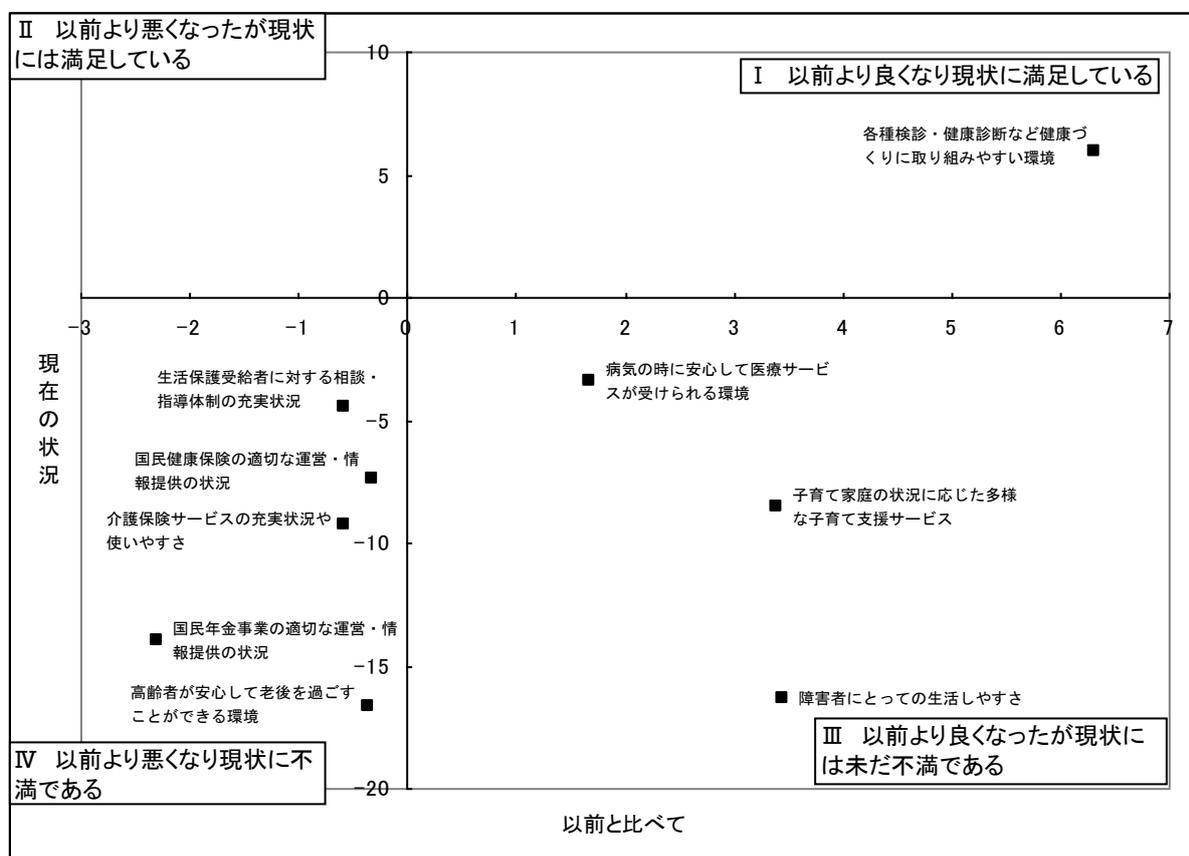
分野	番号	市の取り組み	以前と比べて	現在の状況	分類
I 健康・福祉	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	6.3	5.9	I
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	1.7	-3.5	III
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス	3.4	-8.6	III
	4	障害者にとっての生活しやすさ	3.5	-16.3	III
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	-0.4	-16.7	IV
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ	-0.6	-9.3	IV
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況	-0.3	-7.4	IV
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況	-2.3	-14.0	IV
	9	生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況	-0.6	-4.4	IV
II 自然環境・生活環境	10	自然と調和したまちづくりの状況	-1.9	-14.9	IV
	11	親しみのある水辺の整備状況	4.4	-13.0	III
	12	まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	1.0	-10.6	III
	13	公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	-1.4	-13.1	IV
	14	省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況	1.0	-17.4	III
	15	ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況	12.0	-0.3	III
	16	下水道の整備環境	20.1	-3.0	III
	17	災害に対して十分な備えがある環境	1.1	-15.0	III
	18	犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	-17.5	-22.7	IV
	19	消防体制・救急体制の状況	4.9	4.1	I
	20	まちの美化の状況	2.2	-16.4	III
	21	市内における墓地の整備状況	3.0	-2.9	III
	22	良好な住まいの供給状況	0.5	-5.9	III

分野	番号	市の取り組み	以前と比べて	現在の状況	分類
Ⅲ文化・教育・生涯学習	23	だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	6.7	-2.3	Ⅲ
	24	地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境	5.9	-5.2	Ⅲ
	25	ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況	1.2	-4.4	Ⅲ
	26	だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	5.4	-4.3	Ⅲ
	27	家庭における親・子の育ちを支える地域環境	-1.3	-9.3	Ⅳ
	28	主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境	-2.3	-7.6	Ⅳ
	29	青少年の健全な育成を支える地域環境	-2.9	-11.0	Ⅳ
	30	多様な国籍の人との交流や共生の状況	0.4	-8.7	Ⅲ
	31	世界平和に対する市民意識の状況	-0.3	-10.5	Ⅳ
Ⅳ産業振興	32	まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	3.3	5.9	I
	33	魅力的な商業施設等の集積の状況	6.2	0.8	I
	34	地域工業の高度化や活性化の状況	-4.8	-8.7	Ⅳ
	35	元気で競争力のある中小企業が活動している状況	-13.7	-18.5	Ⅳ
	36	安心して働くことができる雇用・労働環境	-21.0	-25.5	Ⅳ
	37	市民に親しまれる都市型農業が発展している状況	-7.0	-10.9	Ⅳ
	38	活気があり安定的な漁業が行われている状況	-8.8	-12.2	Ⅳ
	39	消費者の利益がまもられている状況	-8.0	-12.5	Ⅳ
Ⅴまちづくり	40	良好な景観・街並みが保存されている状況	-5.6	-21.1	Ⅳ
	41	魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況	3.8	-6.8	Ⅲ
	42	身近な道路の安全さや快適さ	-7.2	-46.7	Ⅳ
	43	都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	-2.7	-26.0	Ⅳ
	44	鉄道・バスなど公共交通の利便性	7.6	2.6	I
	45	バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	16.0	-21.1	Ⅲ
	46	各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	6.9	-9.0	Ⅲ
Ⅵ市民参加	47	市のまちづくりに参加・参画する場や機会の充実度	2.8	-8.8	Ⅲ
	48	町会・自治会やボランティアなどコミュニティ活動の活発さ	3.9	-4.5	Ⅲ
	49	あらゆる分野に男女が平等に参画し、協働できる環境	2.7	-6.5	Ⅲ
	50	ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	15.6	-0.3	Ⅲ

④ 健康・福祉

- ・特に注意すべき項目と考えられる『以前より悪くなり現状に不満である（Ⅳ）』に分類される項目として、「高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境」、「介護保険サービスの充実状況や使いやすさ」、「国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況」、「国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況」、「生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況」があげられる。
- ・また、改善が見られるものの引き続き注意が必要な項目と考えられる『以前より良くなったが現状には未だ不満である（Ⅲ）』に分類される項目として、「病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境」、「子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス」、「障害者にとっての生活しやすさ」があげられる。

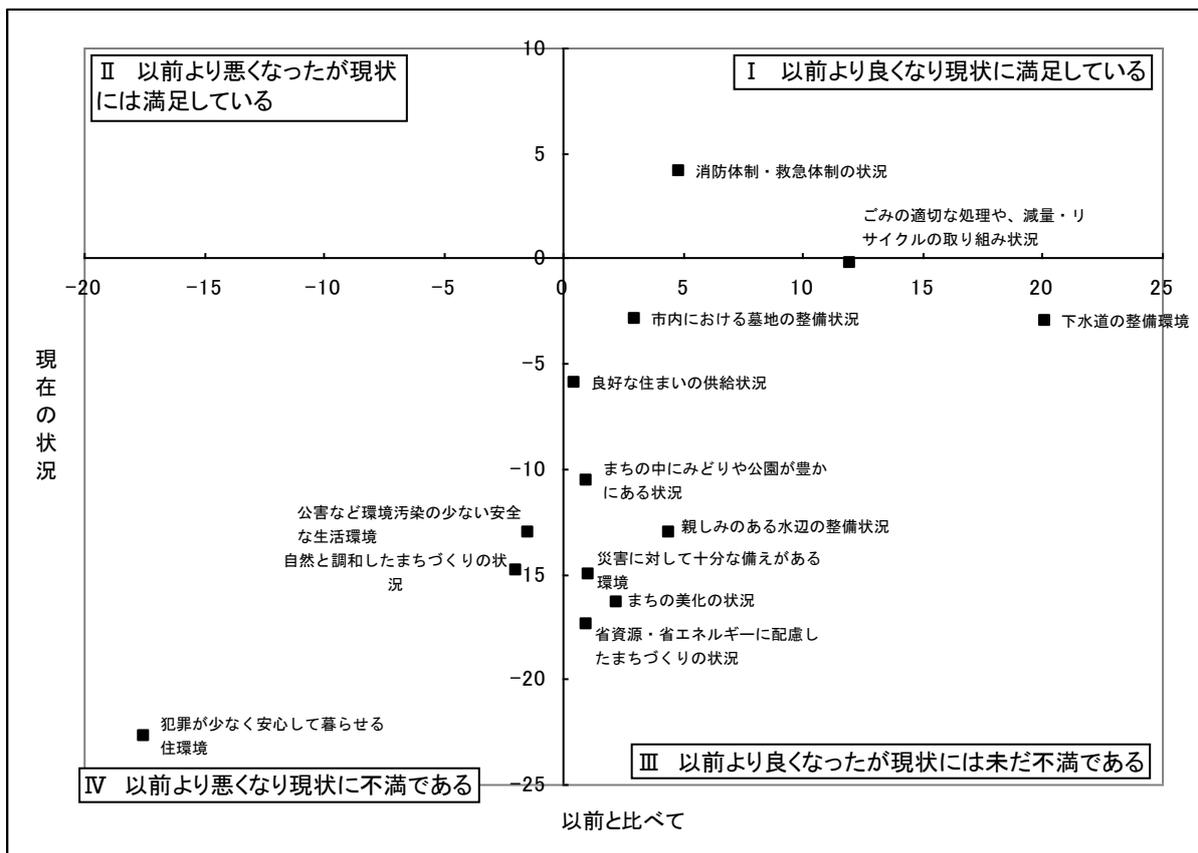
図表111-42 健康・福祉の総合評価



⑤ 自然環境・生活環境

- ・特に注意すべき項目と考えられる『以前より悪くなり現状に不満である（Ⅳ）』に分類される項目として、「自然と調和したまちづくりの状況」、「公害など環境汚染の少ない安全な生活環境」、「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」があげられ、「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」は、現状の不満と以前より悪くなった度合いの両方が特に高い。
- ・また、改善が見られるものの引き続き注意が必要な項目と考えられる『以前より良くなったが現状には未だ不満である（Ⅲ）』に分類される項目として、「親しみのある水辺の整備状況」、「まちの中にみどりや公園が豊かにある状況」、「省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況」、「ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況」、「下水道の整備環境」、「災害に対して十分な備えがある環境」、「まちの美化の状況」、「市内における墓地の整備状況」、「良好な住まいの供給状況」など、当分野の大部分の項目がこの分類に位置づけられている。

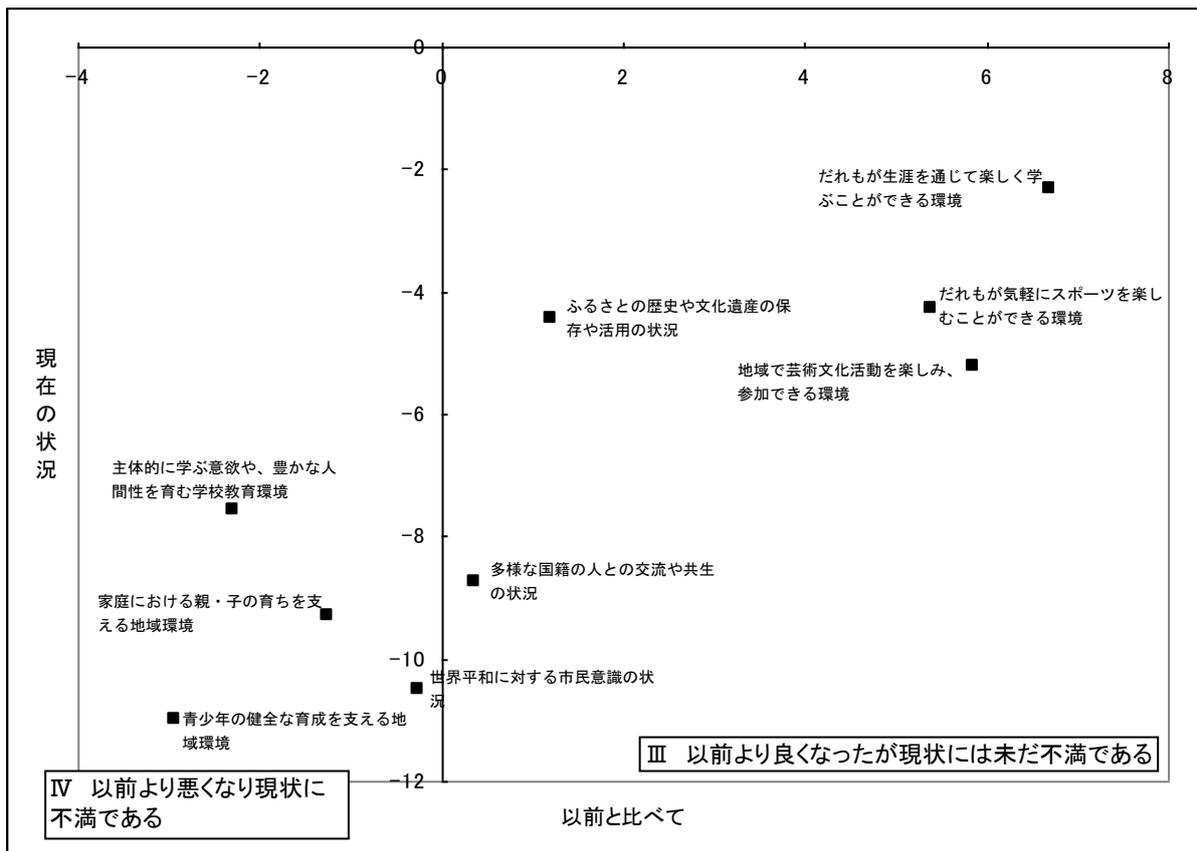
図表III-43 自然環境・生活環境の総合評価



⑥ 文化・教育・生涯学習

- ・当分野はⅠ、Ⅱに分類される項目がなく、全ての項目で現状への満足度がマイナスとなっている。
- ・特に注意すべき項目と考えられる『以前より悪くなり現状に不満である(Ⅳ)』に分類される項目として、「家庭における親・子の育ちを支える地域環境」、「主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境」、「青少年の健全な育成を支える地域環境」、「世界平和に対する市民意識の状況」があげられ、「青少年の健全な育成を支える地域環境」は、現状の不満と以前より悪くなった度合いの両方が特に高い。
- ・また、改善が見られるものの引き続き注意が必要な項目と考えられる『以前より良くなったが現状には未だ不満である(Ⅲ)』に分類される項目として、「だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境」、「地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境」、「ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況」、「だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境」、「多様な国籍の人との交流や共生の状況」があげられる。

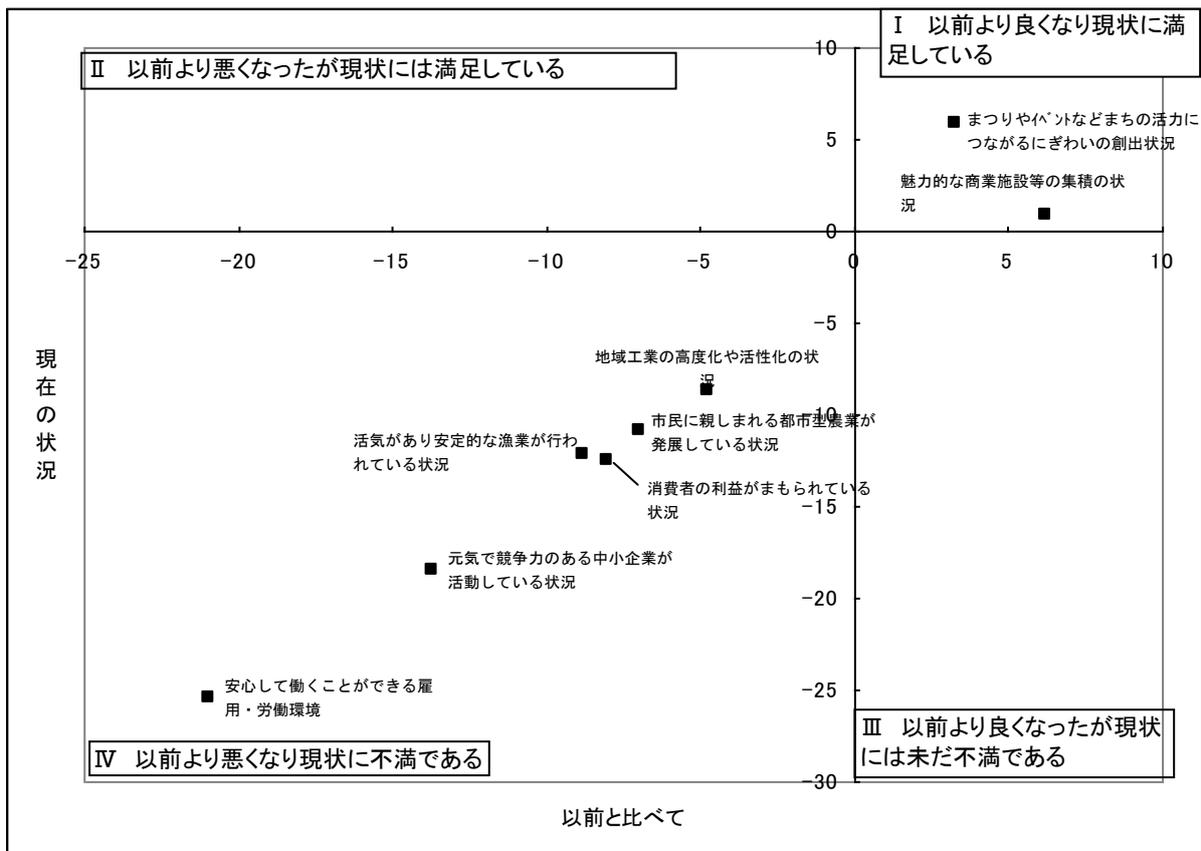
図表III-44 文化・教育・生涯学習の総合評価



⑦ 産業振興

・特に注意すべき項目と考えられる『以前より悪くなり現状に不満である（IV）』に分類される項目として、「地域工業の高度化や活性化の状況」、「元気で競争力のある中小企業が活動している状況」、「安心して働くことができる雇用・労働環境」、「市民に親しまれる都市型農業が発展している状況」、「活気があり安定的な漁業が行われている状況」、「消費者の利益がまもられている状況」があげられ、「安心して働くことができる雇用・労働環境」は、現状の不満と以前より悪くなった度合いの両方が特に高い。

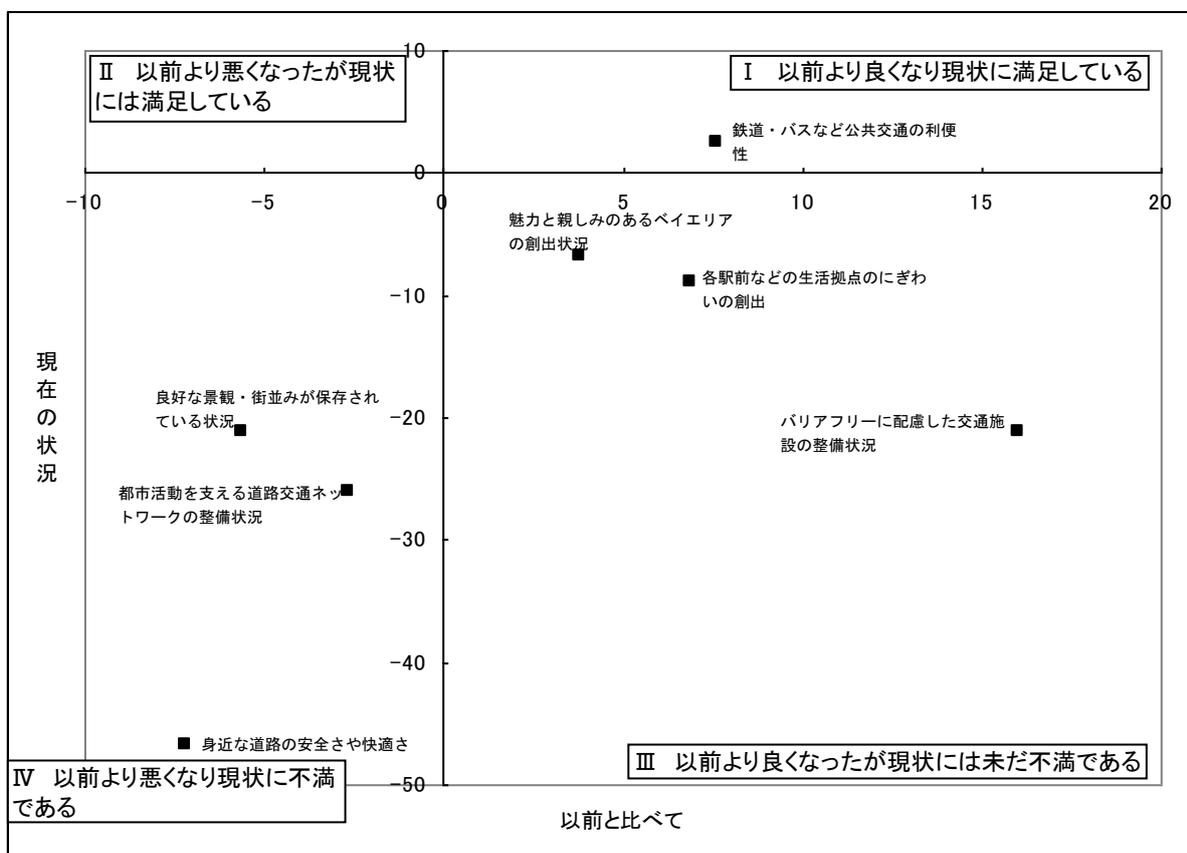
図表III-45 産業振興の総合評価



⑧ まちづくり

- ・特に注意すべき項目と考えられる『以前より悪くなり現状に不満である（IV）』に分類される項目として、「良好な景観・街並みが保存されている状況」、「身近な道路の安全さや快適さ」、「都市活動を支える道路ネットワークの整備状況」があげられ、「身近な道路の安全さや快適さ」は、現状の不満と以前より悪くなった度合いの両方が特に高い。
- ・また、改善が見られるものの引き続き注意が必要な項目と考えられる『以前より良くなったが現状には未だ不満である（III）』に分類される項目として、「魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況」、「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」、「各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出」があげられる。

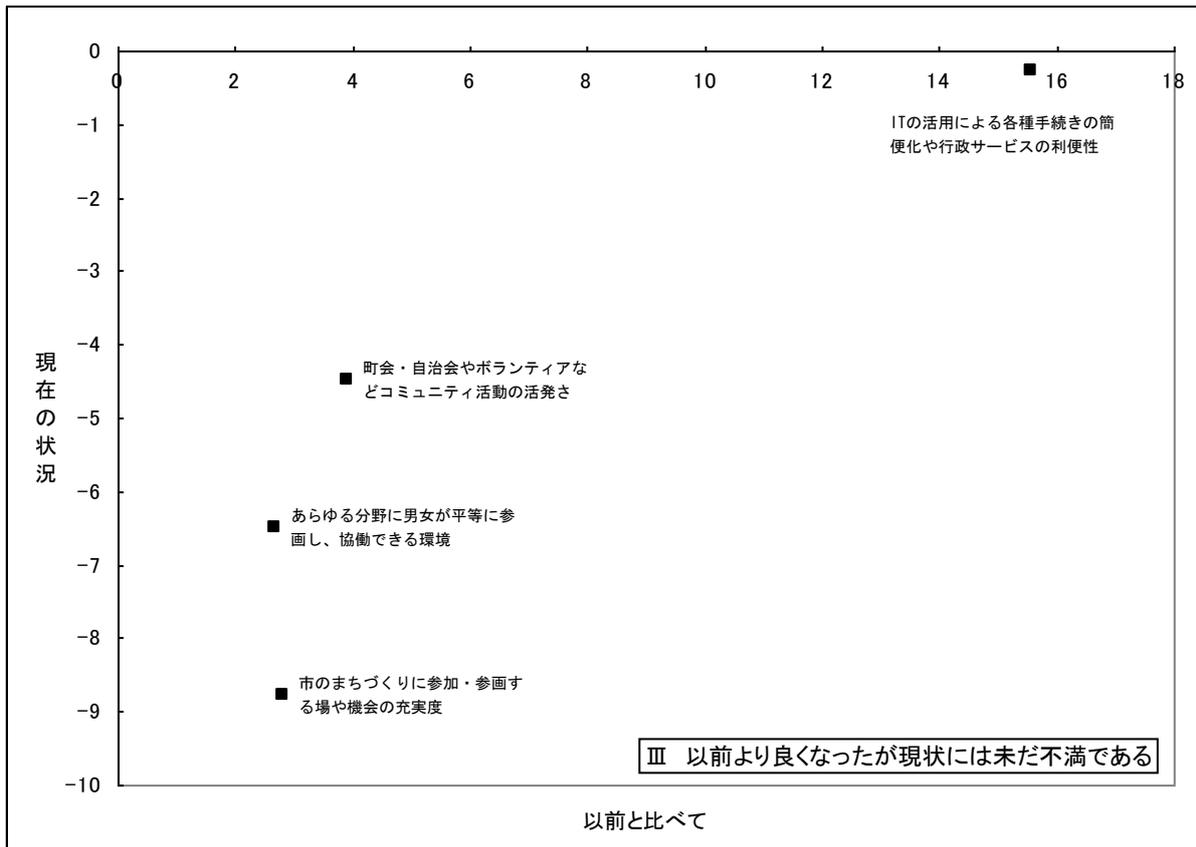
図表III-46 まちづくりの総合評価



⑨ 市民参加

- ・当分野は、4つの項目の全てが、改善が見られるものの引き続き注意が必要な項目と考えられる『以前より良くなったが現状には未だ不満である（Ⅲ）』に位置づけられている。このうち「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」は、現状の不満が比較的 low、以前より良くなった割合が比較的高い。

図表III-47 市民参加の総合評価



(4) 今後の取り組みの重要度

① 重要度が高い項目

*全体では「身近な道路の安全さや快適さ」が「特に重要」と評価された割合が最も高く、地区別では「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」、「病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境」が最も高い地区も見られる。

- ・「特に重要」の割合が高い項目に着目して整理すると以下の通りである。
- ・回答者全体では、「特に重要」と評価された割合は「身近な道路の安全さや快適さ」(38.42%)が最も高く、次いで「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」(37.79%)、「病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境」(36.96%)の順となっている。
- ・地区別では、南部①および南部②、中部②、東部②で「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」、東部①、北部①、北部②で「病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境」が、回答者全体と異なり最も高い。
- ・その他の地区では、回答者全体と同様に「身近な道路の安全さや快適さ」が最も高い。

図表III-48 「特に重要」の割合が高い項目 上位10項目(回答者全体)

順位	「特に重要」の割合が高い項目(上位10項目)	割合
1位	42 身近な道路の安全さや快適さ	38.42%
2位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	37.79%
3位	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	36.96%
4位	17 災害に対して十分な備えがある環境	29.06%
5位	05 高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	27.71%
6位	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	27.29%
7位	19 消防体制・救急体制の状況	26.35%
8位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	26.08%
9位	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	24.20%
10位	13 公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	22.90%

図表III-49 「特に重要」の割合が高い項目 地区別上位3項目

地区	「特に重要」の割合が高い項目		
	1位	2位	3位
南部①(n=94)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	17 災害に対して十分な備えがある環境
	47.9%	39.4%	37.2%
南部②(n=226)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	
	41.6%	42 身近な道路の安全性や快適さ	35.0%
西部①(n=179)	42 身近な道路の安全性や快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境
	41.9%	40.8%	36.3%
西部②(n=275)	42 身近な道路の安全性や快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境
	42.9%	33.8%	33.5%
中部①(n=139)	42 身近な道路の安全性や快適さ	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境
	41.0%	35.3%	34.5%
中部②(n=128)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	42 身近な道路の安全性や快適さ
	46.9%	45.3%	42.2%
東部①(n=241)	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	
	43.6%	42 身近な道路の安全性や快適さ	39.4%
東部②(n=295)	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境		02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境
	42 身近な道路の安全性や快適さ	37.3%	35.9%
北部①(n=238)	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境		18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境
	42 身近な道路の安全性や快適さ	35.7%	31.9%
北部②(n=69)	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	05 高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性
	39.1%	37.7%	36.2%

② 重要度が低い項目

*全体では「市内における墓地の整備状況」が「重要でない」と評価された割合が最も高く、地区別では「地域で芸術文化活動を楽しむ参加できる環境」、「だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境」、「多様な国籍の人との交流や共生の状況」、「親しみのある水辺の整備状況」が最も高い地区も見られる。

- ・「重要でない」の割合が高い項目に着目して整理すると以下の通りである。
- ・回答者全体では、「重要でない」と評価された割合は「市内における墓地の整備状況」（16.10%）が最も高く、次いで「地域で芸術文化活動を楽しむ参加できる環境」（13.90%）および「まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況」（13.85%）があげられている。
- ・地区別では、中部①で「地域で芸術文化活動を楽しむ参加できる環境」および「だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境」、中部②で「多様な国籍の人との交流や共生の状況」、北部②で「親しみのある水辺の整備状況」が、回答者全体と異なり最も高い。
- ・その他の地区では、回答者全体と同様に「市内における墓地の整備状況」が最も高い。

図表III-50 「重要でない」の割合が高い項目 上位10項目（回答者全体）

順位	「重要でない」の割合が高い項目(上位10項目)	割合
1位	21 市内における墓地の整備状況	16.10%
2位	24 地域で芸術文化活動を楽しむ参加できる環境	13.90%
3位	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	13.85%
4位	30 多様な国籍の人との交流や共生の状況	11.87%
5位	41 魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況	11.50%
6位	25 ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況	11.03%
7位	23 だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	10.98%
8位	11 親しみのある水辺の整備状況	10.93%
9位	26 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	10.51%
10位	31 世界平和に対する市民意識の状況	10.45%

図表III-51 「重要でない」の割合が高い項目 地区別上位3項目

地区	『重要でない』の割合が高い項目		
	1位	2位	3位
南部①(n=94)	21 市内における墓地の整備状況	23 だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境 32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況
	23.4%	18.1%	14.9%
南部②(n=226)	21 市内における墓地の整備状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境 32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	
	12.8%		10.2%
西部①(n=179)	21 市内における墓地の整備状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況
	23.5%	19.0%	18.4%
西部②(n=275)	21 市内における墓地の整備状況	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境
	16.4%	15.3%	14.9%
中部①(n=139)	21 市内における墓地の整備状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境	26 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境
			16.5%
中部②(n=128)	30 多様な国籍の人との交流や共生の状況	21 市内における墓地の整備状況 24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境	
	18.8%		18.0%
東部①(n=241)	21 市内における墓地の整備状況	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境
	17.0%	16.2%	15.4%
東部②(n=295)	21 市内における墓地の整備状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境 32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	
	13.6%		11.2%
北部①(n=238)	21 市内における墓地の整備状況	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況
	13.4%	12.6%	11.8%
北部②(n=69)	11 親しみのある水辺の整備状況	41 魅力と親しみのあるペイリアの創出状況	21 市内における墓地の整備状況
	18.8%	17.4%	14.5%

(5) 満足度（現在の状況への評価）と重要度の関係

- ・生活周辺環境の各項目について、満足度（現在の状況への評価）と施策の重要度の関係の評価した。
- ・各項目は、以下の通り、数値化して評価した。

<p><数値化の方法></p> <p>* 満足度（現在の状況への評価） 「良い」1点、「どちらともいえない」0点、「悪い」-1点とし、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。</p> <p>* 重要度 「特に重要」とした回答割合（%）を2点、「重要」とした回答を1点とし、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。 こうして算出した全項目の得点の単純平均を平均重要度とした。</p>

- ・評価にあたっては、満足度のプラス・マイナス（+-）、重要度と平均重要度との大小関係により、「現在の満足度は高いが、重要度も高い（Ⅰ）」、「現在の満足度が高く、重要度は高くない（Ⅱ）」、「現在の満足度が低く、重要度が高い（Ⅲ）」、「現在の満足度は低い、重要度は高くない（Ⅳ）」に分類して行った。

図表III-52 満足度と重要度の関係の分類

パターン		現在の満足度	重要度
Ⅰ	現在の満足度は高いが、重要度も高い	+	平均より高い
Ⅱ	現在の満足度が高く、重要度は高くない	+	平均より低い
Ⅲ	現在の満足度が低く、重要度が高い	-	平均より高い
Ⅳ	現在の満足度は低い、重要度は高くない	-	平均より低い

① 重要度の評価（数値化）結果の上位項目

- ・重要度の評価を数値化した結果は、「病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境」（1.18）が最も高く、次いで「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」（1.15）、「身近な道路の安全さや快適さ」（1.14）、「高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境」（1.01）、「災害に対して十分な備えがある環境」（0.98）の順となっている。

図表III-53 重要度の数値化結果（上位10項目）

順位	重要度の数値化結果(上位10項目)	割合
1位	2 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	1.18
2位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	1.15
3位	42 身近な道路の安全さや快適さ	1.14
4位	5 高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	1.01
5位	17 災害に対して十分な備えがある環境	0.98
6位	1 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	0.96
6位	19 消防体制・救急体制の状況	0.96
8位	13 公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	0.94
9位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	0.93
9位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	0.93

注) 「特に重要」とした回答割合(%)を2点、「重要」とした回答を1点とし、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。

図表III-54 満足度（現在の状況への評価）と重要度の関係の分類結果一覧

分野	番号	市の取り組み	現在の状況	重要度	分類
I 健康・福祉	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	5.9	0.96	I
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	-3.5	1.18	III
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス	-8.6	0.80	III
	4	障害者にとっての生活しやすさ	-16.3	0.73	IV
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	-16.7	1.01	III
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ	-9.3	0.76	III
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況	-7.4	0.72	IV
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況	-14.0	0.76	III
	9	生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況	-4.4	0.49	IV
II 自然環境・生活環境	10	自然と調和したまちづくりの状況	-14.9	0.77	III
	11	親しみのある水辺の整備状況	-13.0	0.62	IV
	12	まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	-10.6	0.86	III
	13	公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	-13.1	0.94	III
	14	省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況	-17.4	0.77	III
	15	ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況	-0.3	0.93	III
	16	下水道の整備環境	-3.0	0.87	III
	17	災害に対して十分な備えがある環境	-15.0	0.98	III
	18	犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	-22.7	1.15	III
	19	消防体制・救急体制の状況	4.1	0.96	I
	20	まちの美化の状況	-16.4	0.79	III
	21	市内における墓地の整備状況	-2.9	0.44	IV
	22	良好な住まいの供給状況	-5.9	0.60	IV

重要度平均値=0.736

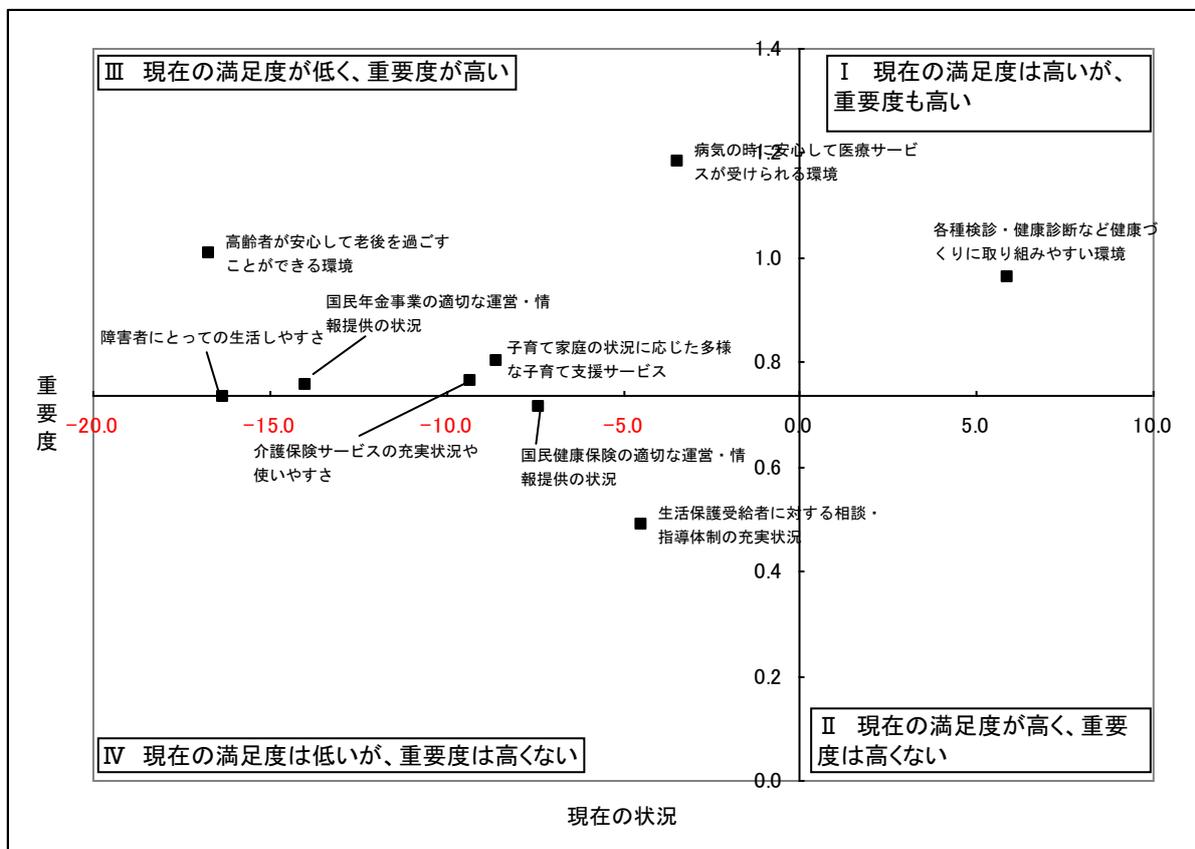
分野	番号	市の取り組み	現在の状況	重要度	分類
Ⅲ 文化・教育・生涯学習	23	だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	-2.3	0.62	Ⅳ
	24	地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境	-5.2	0.53	Ⅳ
	25	ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況	-4.4	0.52	Ⅳ
	26	だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	-4.3	0.65	Ⅳ
	27	家庭における親・子の育ちを支える地域環境	-9.3	0.73	Ⅳ
	28	主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境	-7.6	0.75	Ⅲ
	29	青少年の健全な育成を支える地域環境	-11.0	0.74	Ⅲ
	30	多様な国籍の人との交流や共生の状況	-8.7	0.48	Ⅳ
	31	世界平和に対する市民意識の状況	-10.5	0.54	Ⅳ
Ⅳ 産業振興	32	まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	5.9	0.55	Ⅱ
	33	魅力的な商業施設等の集積の状況	0.8	0.64	Ⅱ
	34	地域工業の高度化や活性化の状況	-8.7	0.47	Ⅳ
	35	元気で競争力のある中小企業が活動している状況	-18.5	0.61	Ⅳ
	36	安心して働くことができる雇用・労働環境	-25.5	0.87	Ⅲ
	37	市民に親しまれる都市型農業が発展している状況	-10.9	0.61	Ⅳ
	38	活気があり安定的な漁業が行われている状況	-12.2	0.51	Ⅳ
	39	消費者の利益がまもられている状況	-12.5	0.72	Ⅳ
Ⅴ まちづくり	40	良好な景観・街並みが保存されている状況	-21.1	0.74	Ⅲ
	41	魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況	-6.8	0.53	Ⅳ
	42	身近な道路の安全さや快適さ	-46.7	1.14	Ⅲ
	43	都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	-26.0	0.88	Ⅲ
	44	鉄道・バスなど公共交通の利便性	2.6	0.93	Ⅰ
	45	バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	-21.1	0.93	Ⅲ
	46	各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	-9.0	0.72	Ⅳ
Ⅵ 市民参加	47	市のまちづくりに参加・参画する場や機会の充実度	-8.8	0.53	Ⅳ
	48	町会・自治会やボランティアなどコミュニティ活動の活発さ	-4.5	0.59	Ⅳ
	49	あらゆる分野に男女が平等に参画し、協働できる環境	-6.5	0.51	Ⅳ
	50	ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	-0.3	0.65	Ⅳ

重要度平均値=0.736

② 健康・福祉

- ・特に注意すべき項目と考えられる『現在の満足度が低く、重要度が高い（Ⅲ）』に分類される項目として、「病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境」、「子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス」、「高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境」、「介護保険サービスの充実状況や使いやすさ」、「国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況」があげられる。
- ・また、現状の満足度は高いが今後も留意すべき項目と考えられる『現在の満足度は高いが、重要度も高い（Ⅰ）』に分類される項目として、「各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境」があげられる。

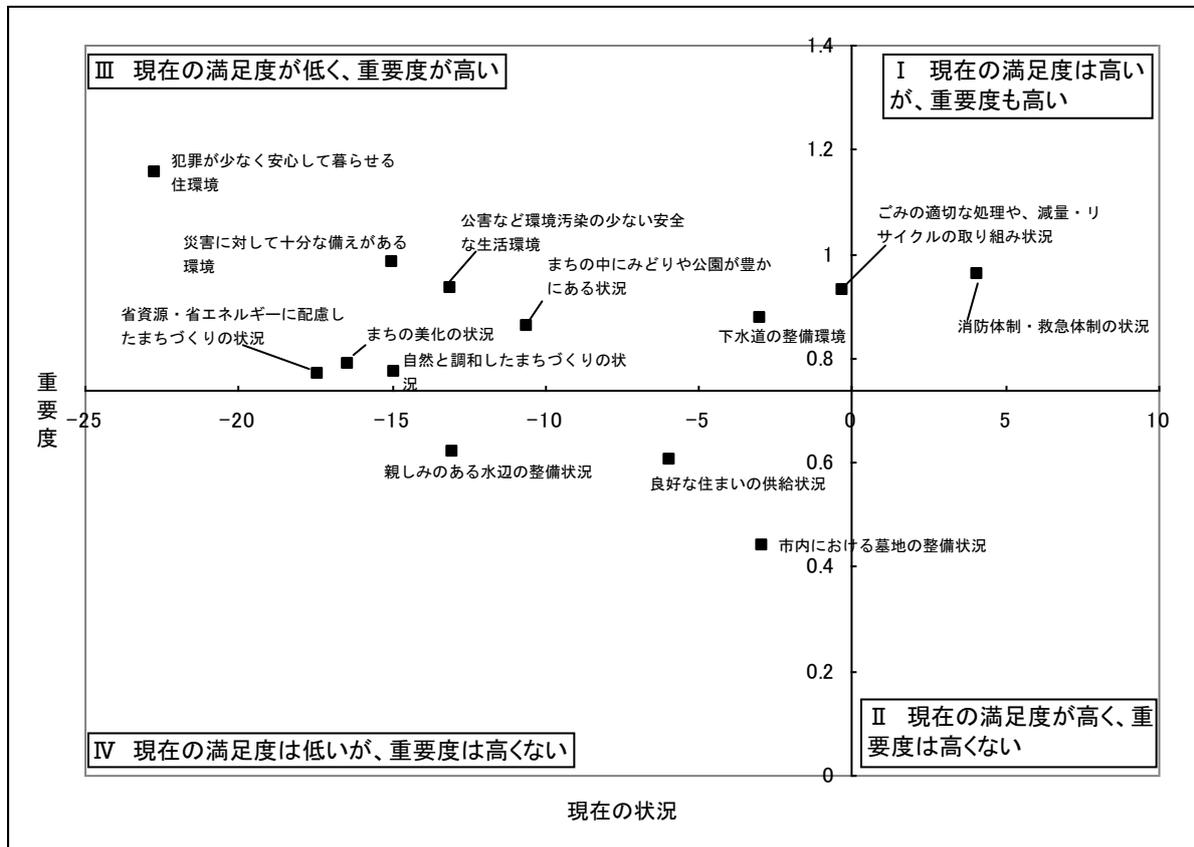
図表III-55 健康・福祉の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



③ 自然環境・生活環境

- ・特に注意すべき項目と考えられる『現在の満足度が低く、重要度が高い（Ⅲ）』に分類される項目として、「自然と調和したまちづくりの状況」、「まちの中にみどりや公園が豊かにある状況」、「公害など環境汚染の少ない安全な生活環境」、「省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況」、「ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況」、「下水道の整備環境」、「災害に対して十分な備えがある環境」、「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」、「まちの美化の状況」など、当分野の大部分がこの分類に位置づけられている。
- ・また、現状の満足度は高いが今後も留意すべき項目と考えられる『現在の満足度は高いが、重要度も高い（Ⅰ）』に分類される項目として、「消防体制・救急体制の状況」があげられる。

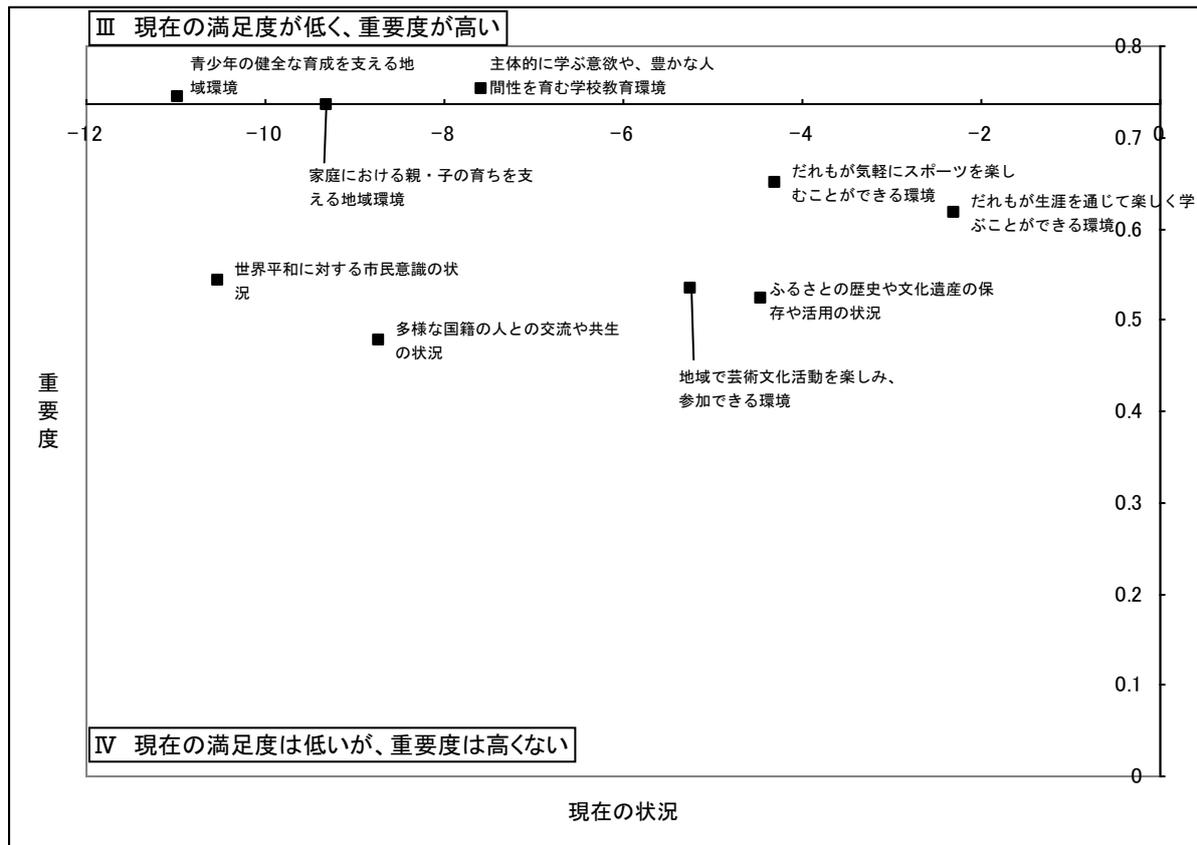
図表III-56 自然環境・生活環境の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



④ 文化・教育・生涯学習

- ・特に注意すべき項目と考えられる『現在の満足度が低く、重要度が高い（Ⅲ）』に分類される項目として、「主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境」、「青少年の健全な育成を支える地域環境」があげられる。
- ・当分野の他の項目は全て『現在の満足度は低い、重要度は高くない（Ⅳ）』に位置づけられている。

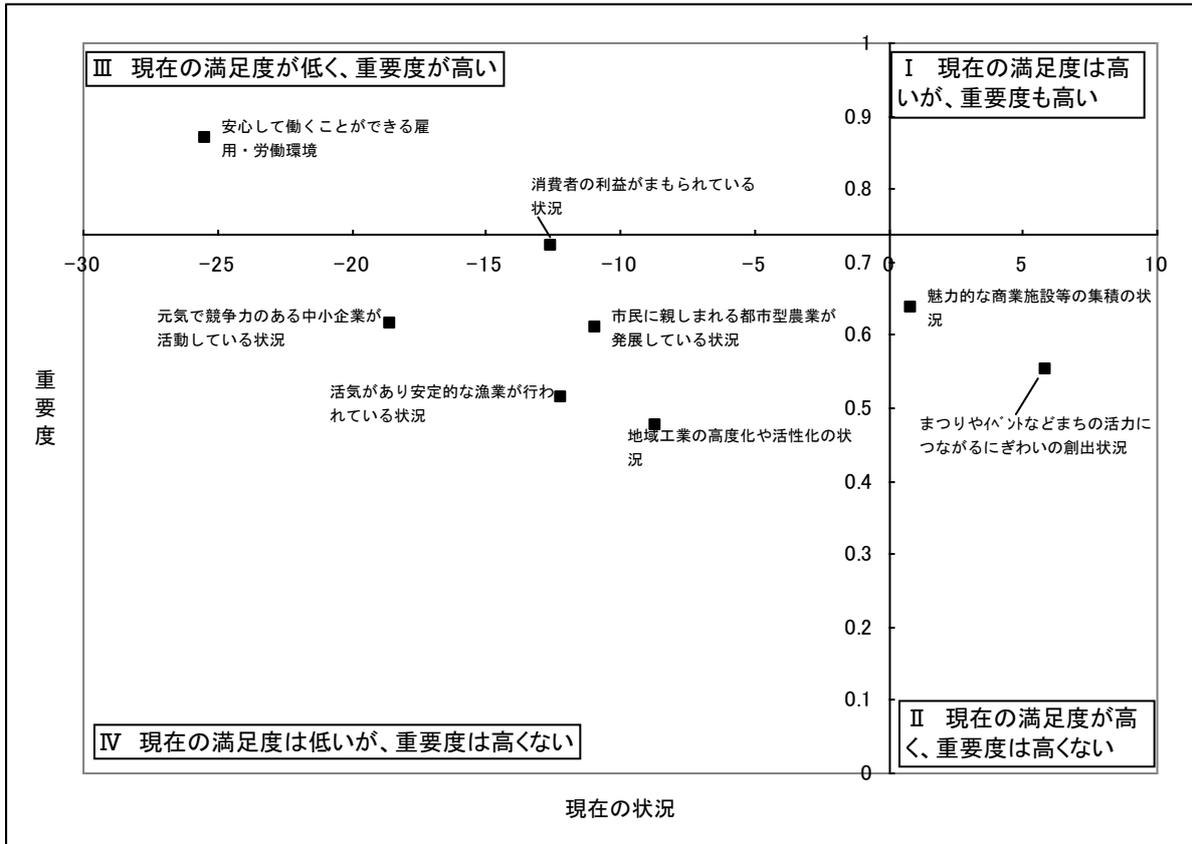
図表III-57 文化・教育・生涯学習の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



⑤ 産業振興

- ・特に注意すべき項目と考えられる『現在の満足度が低く、重要度が高い（Ⅲ）』に分類される項目として、「安心して働くことができる雇用・労働環境」があげられる。
- ・また、当分野の他の項目は重要度が平均重要度を下回っており、『現在の満足度が高く、重要度は高くない（Ⅱ）』または『現在の満足度は低い、重要度は高くない（Ⅳ）』に位置づけられている。

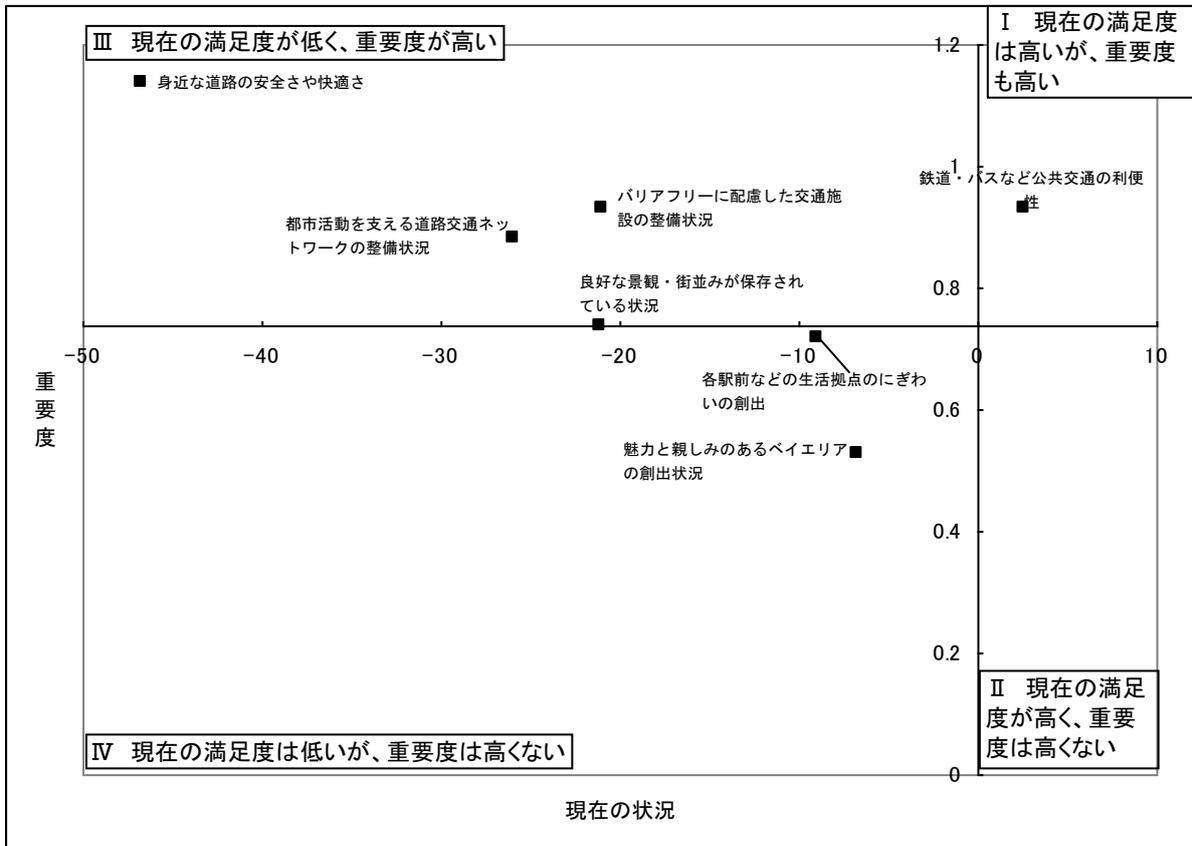
図表III-58 産業振興の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



⑥ まちづくり

- ・特に注意すべき項目と考えられる『現在の満足度が低く、重要度が高い（Ⅲ）』に分類される項目として、「良好な景観・街並みが保存されている状況」、「身近な道路の安全さや快適さ」、「都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況」、「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」があげられる。
- ・また、現状の満足度は高いが今後も留意すべき項目と考えられる『現在の満足度は高いが、重要度も高い（Ⅰ）』に分類される項目として、「鉄道・バスなど公共交通の利便性」があげられる。

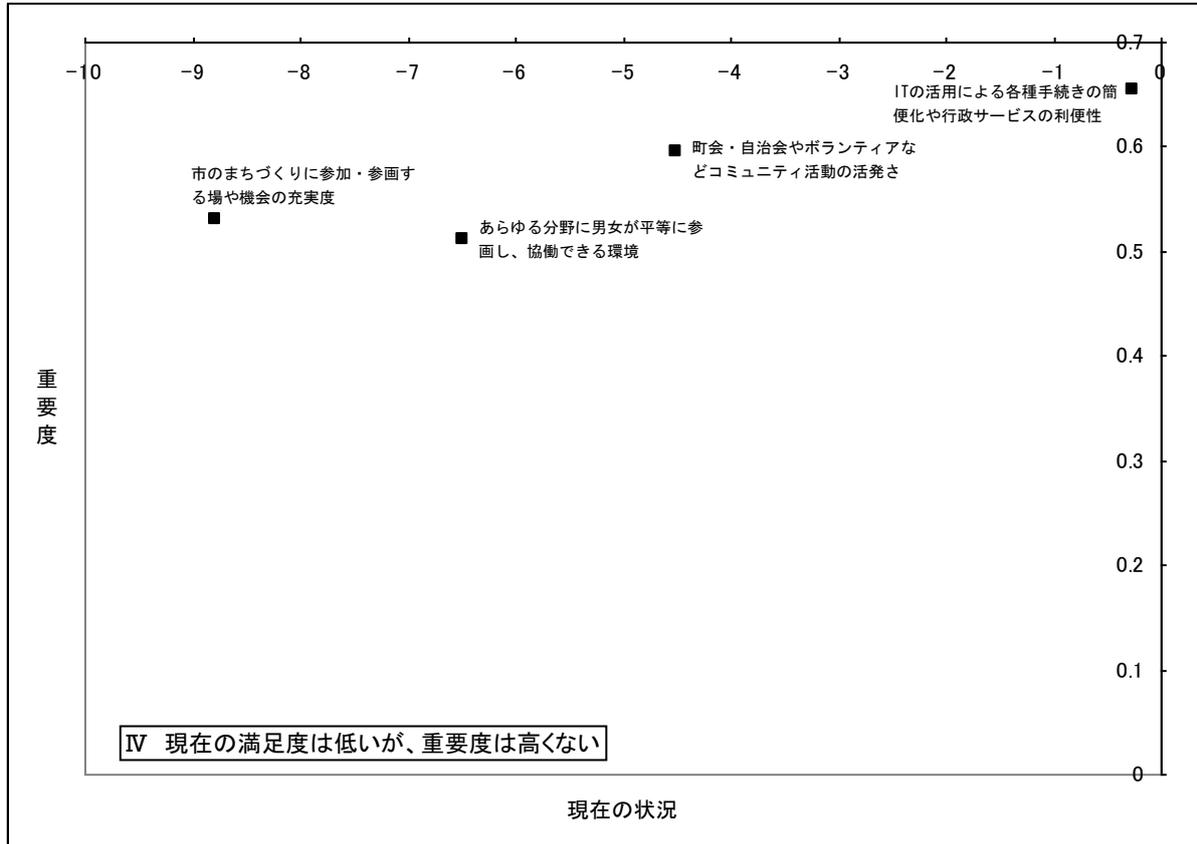
図表III-59 まちづくりの満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



⑦ 市民参加

・当分野は、4つの項目の全てが『現在の満足度は低いが、重要度は高くない（IV）』に位置づけられている。このうち「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」は、現状の不満が比較的 low、重要度の平均値との格差が最も小さい。

図表III-60 市民参加の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



4. 船橋市の将来に向けて優先的に取り組むべき政策・施策

(1) 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点

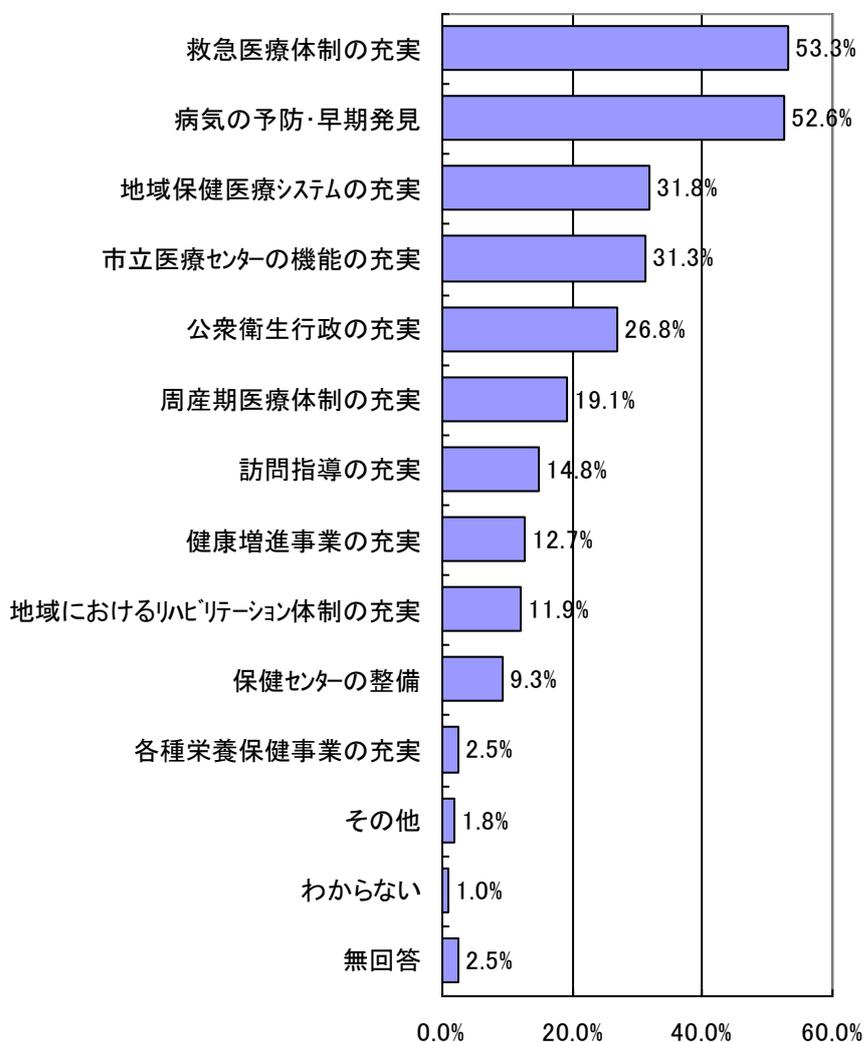
* 「救急医療体制の充実」と「病気の予防・早期発見」が5割以上。

問9 健康維持・医療体制の充実に関する事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「救急医療体制の充実」（53.3%）および「病気の予防・早期発見」（52.6%）の2項目が他と比べて突出して高い。
- ・ 次いで、「地域保健医療システムの充実」（31.8%）と、「市立医療センターの機能の充実」（31.3%）が3割強で拮抗している。

図表III-61 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 上位2位にあげられている項目は回答者全体と同様であるが、女性は「病気の予防・早期発見」（55.0%）が最も高く、回答者全体の順位と入れ替わっている。

図表III-62 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	市立医療センターの機能の充実
	56.7%	50.7%	33.7%
女性(n=997)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実
	55.0%	52.0%	33.0%

② 年齢別

- ・ 上位2位にあげられている項目は、45～49歳を除いて回答者全体と同様である。
- ・ 45～49歳では第2位として「地域保健医療システムの充実」（45.6%）があげられており、第1位の「救急医療体制の充実」（56.0%）と並び、医療体制の充実に関する項目が高い。
- ・ 子育て世代に該当する20～39歳では、第3位として「周産期医療体制の充実」があげられている。

図表III-63 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	健康増進事業の充実
	48.1%	44.4%	40.7%
20～24歳(n=58)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	周産期医療体制の充実
	56.9%	50.0%	34.5%
25～29歳(n=101)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	周産期医療体制の充実
	72.3%	47.5%	41.6%
30～34歳(n=165)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	周産期医療体制の充実
	60.6%	58.8%	46.7%
35～39歳(n=219)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	周産期医療体制の充実
	68.9%	60.3%	29.7%
40～44歳(n=203)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	地域保健医療システムの充実
	63.5%	50.2%	36.5%
45～49歳(n=125)	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実	病気の予防・早期発見
	56.0%	45.6%	44.8%
50～54歳(n=88)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	地域保健医療システムの充実
	60.2%	44.3%	35.2%
55～59歳(n=122)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実
	59.0%	52.5%	43.4%
60～64歳(n=207)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	市立医療センターの機能の充実
	53.1%	46.9%	37.7%
65～69歳(n=220)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	市立医療センターの機能の充実
	54.5%	41.8%	40.0%
70～74歳(n=183)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実
	53.0%	38.8%	33.9%
75歳以上(n=185)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	市立医療センターの機能の充実
	46.5%	39.5%	30.8%

③ 地区別

- ・ 上位2位にあげられている項目は、回答者全体と同様である。
- ・ 第3位の項目については、南部②の「公衆衛生行政の充実」（31.9%）を除き、「地域保健医療システムの充実」もしくは「市立医療センターの機能の充実」となっている。

図表III-64 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実
	57.4%	54.3%	39.4%
南部②(n=226)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	公衆衛生行政の充実
	54.4%	49.1%	31.9%
西部①(n=179)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	地域保健医療システムの充実
	58.1%	55.3%	33.0%
西部②(n=275)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	地域保健医療システムの充実
	54.2%	53.1%	34.9%
中部①(n=139)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	市立医療センターの機能の充実
	53.2%	42.4%	39.6%
中部②(n=128)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	市立医療センターの機能の充実
	53.1%	46.9%	41.4%
東部①(n=241)	救急医療体制の充実	病気の予防・早期発見	地域保健医療システムの充実 市立医療センターの機能の充実
	60.6%	52.7%	29.5%
東部②(n=295)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実
	55.6%	50.8%	33.6%
北部①(n=238)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	市立医療センターの機能の充実
	50.4%	50.0%	31.5%
北部②(n=69)	病気の予防・早期発見	救急医療体制の充実	地域保健医療システムの充実
	55.1%	52.2%	37.7%

(2) 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点

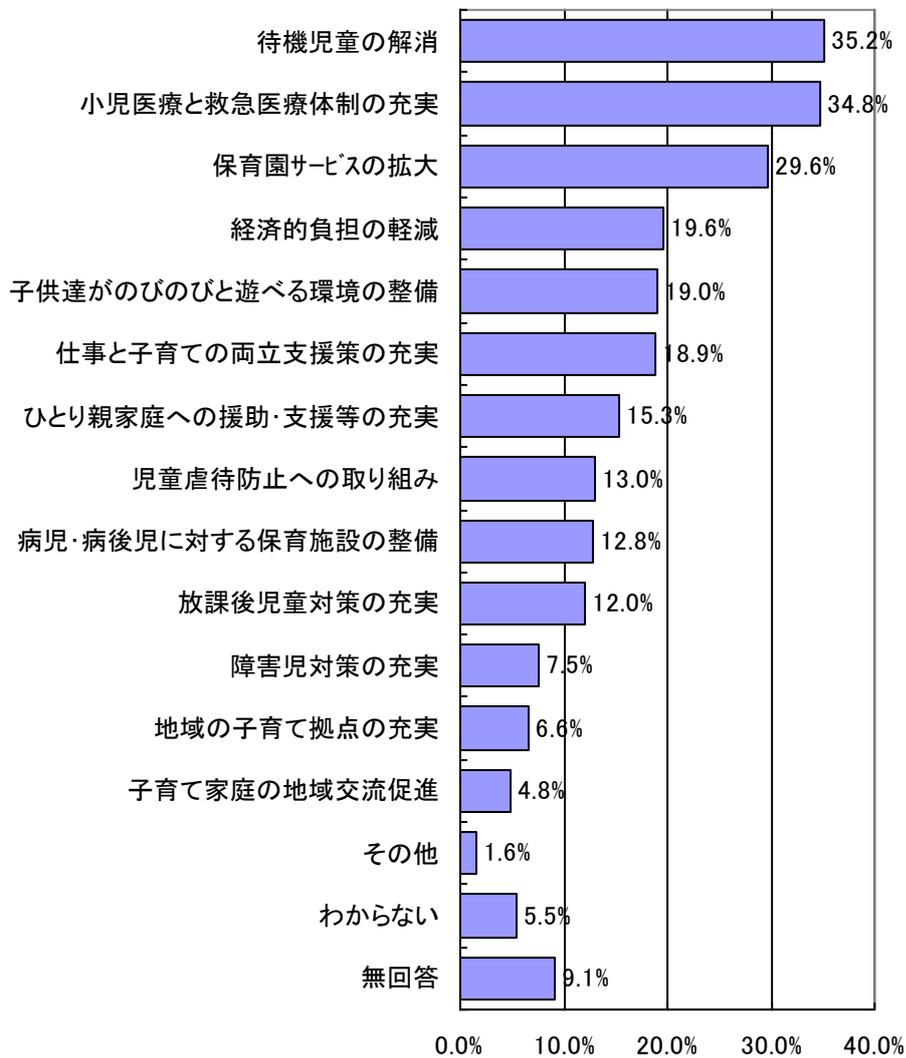
* 「待機児童の解消」と「小児医療と救急医療体制の充実」が3割強で拮抗。

問 10 子育て支援に関する事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「待機児童の解消」(35.2%)が最も高く、「小児医療と救急医療体制の充実」(34.8%)が拮抗している。
- ・ 次いで「保育園サービスの拡大」(29.6%)となっている。

図表III-65 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 上位3位までにあげられている項目は回答者全体と同様である。
- ・ 男性では「待機児童の解消」（34.3%）が、女性では「小児医療と救急医療体制の充実」（38.2%）がそれぞれ最も高い。

図表III-66 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	待機児童の解消 34.3%	小児医療と救急医療体制の充実 33.9%	保育園サービスの拡大 29.0%
女性(n=997)	小児医療と救急医療体制の充実 38.2%	待機児童の解消 36.5%	保育園サービスの拡大 30.1%

② 年齢別

- ・ 第1位の項目をみると、15～19歳と45～49歳を除く年齢階層では、「待機児童の解消」もしくは「小児医療と救急医療体制の充実」となっている。
- ・ 15～19歳では「ひとり親家庭への援助・支援等の充実」、45～49歳では「保育園サービスの拡大」が回答者全体の傾向とは異なり最も高い。
- ・ また、20～24歳では「仕事と子育ての両立支援策の充実」（34.5%）が、25～34歳では「保育園サービスの拡大」が第2位となっており、第1位の「待機児童の解消」とあわせて、保育関係へのニーズが高い。

図表III-67 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	ひとり親家庭への援助・支援等の充実 33.3%	児童虐待防止への取り組み 25.9%	仕事と子育ての両立支援策の充実 22.2%
20～24歳(n=58)	待機児童の解消 37.9%	仕事と子育ての両立支援策の充実 34.5%	子供達がのびのびと遊べる環境の整備 27.6%
25～29歳(n=101)	待機児童の解消 50.5%	保育園サービスの拡大 43.6%	小児医療と救急医療体制の充実 29.7%
30～34歳(n=165)	待機児童の解消 45.5%	保育園サービスの拡大 小児医療と救急医療体制の充実 44.2%	
35～39歳(n=219)	小児医療と救急医療体制の充実 50.7%	待機児童の解消 34.7%	経済的負担の軽減 32.0%
40～44歳(n=203)	小児医療と救急医療体制の充実 45.3%	待機児童の解消 32.0%	子供達がのびのびと遊べる環境の整備 27.6%
45～49歳(n=125)	保育園サービスの拡大 36.8%	小児医療と救急医療体制の充実 34.4%	待機児童の解消 32.8%
50～54歳(n=88)	小児医療と救急医療体制の充実 42.0%	保育園サービスの拡大 33.0%	ひとり親家庭への援助・支援等の充実 28.4%
55～59歳(n=122)	待機児童の解消 45.1%	小児医療と救急医療体制の充実 40.2%	保育園サービスの拡大 36.9%
60～64歳(n=207)	待機児童の解消 39.6%	保育園サービスの拡大 30.0%	小児医療と救急医療体制の充実 28.5%
65～69歳(n=220)	待機児童の解消 35.5%	小児医療と救急医療体制の充実 30.5%	保育園サービスの拡大 26.8%
70～74歳(n=183)	待機児童の解消 29.0%	小児医療と救急医療体制の充実 27.3%	保育園サービスの拡大 23.5%
75歳以上(n=185)	待機児童の解消 25.4%	小児医療と救急医療体制の充実 21.1%	保育園サービスの拡大 17.3%

③ 地区別

- ・ 各地区とも上位3位までにあげられている項目は、回答者全体と同様である。

図表III-68 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	待機児童の解消 41.5%	小児医療と救急医療体制の充実 34.0%	保育園サービスの拡大 29.8%
南部②(n=226)	待機児童の解消 43.8%	小児医療と救急医療体制の充実 34.1%	保育園サービスの拡大 29.6%
西部①(n=179)	小児医療と救急医療体制の充実 36.3%	待機児童の解消 35.2%	保育園サービスの拡大 34.6%
西部②(n=275)	待機児童の解消 34.9%	小児医療と救急医療体制の充実 33.1%	保育園サービスの拡大 26.5%
中部①(n=139)	小児医療と救急医療体制の充実 34.5%	待機児童の解消 30.9%	保育園サービスの拡大 26.6%
中部②(n=128)	待機児童の解消 小児医療と救急医療体制の充実 33.6%		保育園サービスの拡大 30.5%
東部①(n=241)	小児医療と救急医療体制の充実 39.4%	待機児童の解消 37.3%	保育園サービスの拡大 31.1%
東部②(n=295)	小児医療と救急医療体制の充実 34.6%	待機児童の解消 34.2%	保育園サービスの拡大 30.5%
北部①(n=238)	小児医療と救急医療体制の充実 34.5%	保育園サービスの拡大 29.8%	待機児童の解消 28.2%
北部②(n=69)	待機児童の解消 43.5%	小児医療と救急医療体制の充実 36.2%	保育園サービスの拡大 30.4%

④ 世帯構成別

- ・ 中学校卒業前の子どもがいる世帯では、「小児医療と救急医療体制の充実」（53.4%）が半数以上と特に高い。また、回答者全体では第4位の「経済的負担の軽減」（37.9%）が第2位にあげられている。

図表III-69 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点（世帯構成別）

	1位	2位	3位
合計(n=1913)	待機児童の解消 35.2%	小児医療と救急医療体制の充実 34.8%	保育園サービスの拡大 29.6%
中学校卒業前の子どもがいる世帯(n=335)	小児医療と救急医療体制の充実 53.4%	経済的負担の軽減 37.9%	待機児童の解消 30.1%

(3) 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点

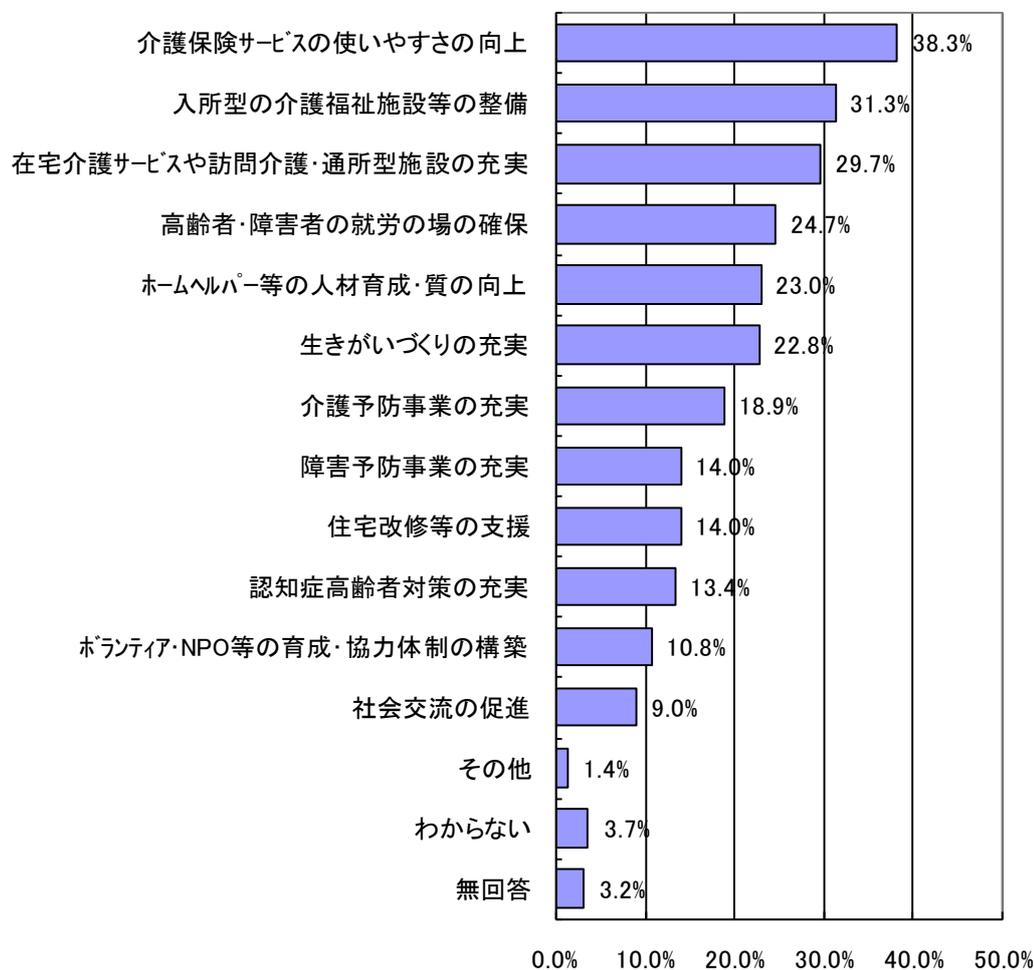
*「介護保険サービスの使いやすさの向上」が4割弱、「入所型の介護福祉施設等の整備」、
「在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実」が3割前後。

問 11 高齢者や障害者を支える福祉分野における事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「介護保険サービスの使いやすさの向上」(38.3%)が最も高く、次いで「入所型の介護福祉施設等の整備」(31.3%)、「在宅型介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実」(29.7%)となっている。上位3位をみると、全般的に介護サービス・施設への関心が高いことがうかがえる。

図表111-70 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 男性・女性ともに回答者全体と概ね同様の傾向が見られる。
- ・ 「介護保険サービスの使いやすさの向上」は、女性（42.1%）が男性（32.8%）より高い。
- ・ 男性では、「高齢者・障害者の就労の場の確保」（27.3%）が第3位にあげられている。

図表III-71 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	介護保険サービスの使いやすさの向上 32.8%	入所型の介護福祉施設等の整備 29.5%	高齢者・障害者の就労の場の確保 27.3%
女性(n=997)	介護保険サービスの使いやすさの向上 42.1%	入所型の介護福祉施設等の整備 33.0%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 32.9%

② 年齢別

- ・ 30歳以上では、「介護保険サービスの使いやすさの向上」が最も高い。また、40歳以上では上位3位以内に「入所型の介護福祉施設等の整備」があげられている。
- ・ 15～19歳では、「障害予防事業の充実」（33.3%）、20～24歳では「在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実」（29.3%）、25～29歳では「高齢者・障害者の就労の場の確保」（32.7%）がそれぞれ最も高く、他の世代においては施設関連の項目が比較的高いのに対して、ソフトに関する項目の割合が高い。

図表111-72 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	障害予防事業の充実 33.3%	生きがいつくりの充実 高齢者・障害者の就労の場の確保 25.9%	
20～24歳(n=58)	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 29.3%	社会交流の促進 27.6%	生きがいつくりの充実 介護保険サービスの使いやすさの向上 25.9%
25～29歳(n=101)	高齢者・障害者の就労の場の確保 32.7%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 介護保険サービスの使いやすさの向上 30.7%	
30～34歳(n=165)	介護保険サービスの使いやすさの向上 33.9%	高齢者・障害者の就労の場の確保 32.1%	生きがいつくりの充実 29.1%
35～39歳(n=219)	介護保険サービスの使いやすさの向上 34.7%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 33.3%	高齢者・障害者の就労の場の確保 31.5%
40～44歳(n=203)	介護保険サービスの使いやすさの向上 37.4%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 35.5%	入所型の介護福祉施設等の整備 30.0%
45～49歳(n=125)	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 介護保険サービスの使いやすさの向上 38.4%		入所型の介護福祉施設等の整備 32.8%
50～54歳(n=88)	介護保険サービスの使いやすさの向上 43.2%	高齢者・障害者の就労の場の確保 34.1%	入所型の介護福祉施設等の整備 31.8%
55～59歳(n=122)	介護保険サービスの使いやすさの向上 45.9%	入所型の介護福祉施設等の整備 44.3%	高齢者・障害者の就労の場の確保 29.5%
60～64歳(n=207)	介護保険サービスの使いやすさの向上 40.1%	入所型の介護福祉施設等の整備 39.6%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 31.9%
65～69歳(n=220)	介護保険サービスの使いやすさの向上 46.8%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 30.9%	入所型の介護福祉施設等の整備 30.0%
70～74歳(n=183)	介護保険サービスの使いやすさの向上 39.9%	入所型の介護福祉施設等の整備 33.3%	介護予防事業の充実 28.4%
75歳以上(n=185)	介護保険サービスの使いやすさの向上 38.4%	入所型の介護福祉施設等の整備 34.6%	介護予防事業の充実 31.4%

③ 地区別

- ・ いずれの地域においても「介護保険サービスの使いやすさの向上」が最も高く、南部①、西部②を除き、「入所型の介護福祉施設等の整備」も3位以内にあげられている。
- ・ 2～3位の項目をみると、南部①、西部①、西部②では「高齢者・障害者の就労の場の確保」、中部②では「生きがいづくりの充実」、北部②では「ホームヘルパー等の人材育成・質の向上」があげられている。

図表III-73 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	介護保険サービスの使いやすさの向上 35.1%	高齢者・障害者の就労の場の確保 在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 30.9%	
南部②(n=226)	介護保険サービスの使いやすさの向上 39.8%	入所型の介護福祉施設等の整備 35.0%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 26.1%
西部①(n=179)	介護保険サービスの使いやすさの向上 41.3%	入所型の介護福祉施設等の整備 34.6%	高齢者・障害者の就労の場の確保 29.1%
西部②(n=275)	介護保険サービスの使いやすさの向上 40.4%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 33.8%	高齢者・障害者の就労の場の確保 29.5%
中部①(n=139)	介護保険サービスの使いやすさの向上 39.6%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 入所型の介護福祉施設等の整備 33.1%	
中部②(n=128)	介護保険サービスの使いやすさの向上 35.2%	生きがいづくりの充実 31.3%	入所型の介護福祉施設等の整備 29.7%
東部①(n=241)	介護保険サービスの使いやすさの向上 36.1%	入所型の介護福祉施設等の整備 32.8%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 29.0%
東部②(n=295)	介護保険サービスの使いやすさの向上 38.3%	入所型の介護福祉施設等の整備 33.9%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 29.8%
北部①(n=238)	介護保険サービスの使いやすさの向上 39.1%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 30.7%	入所型の介護福祉施設等の整備 28.6%
北部②(n=69)	介護保険サービスの使いやすさの向上 36.2%	入所型の介護福祉施設等の整備 33.3%	ホームヘルパー等の人材育成・質の向上 31.9%

④ 世帯構成別

- ・ 65歳以上の高齢者のいる世帯についてみると、「入所型の介護福祉施設等の整備」（34.7%）および「在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実」（33.6%）の割合は回答者全体に比べてやや高いが、上位3位の傾向は同様である。

図表III-74 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点（世帯構成別）

	1位	2位	3位
合計(n=1913)	介護保険サービスの使いやすさの向上 38.3%	入所型の介護福祉施設等の整備 31.3%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 29.7%
65歳以上の高齢者のいる世帯(n=438)	介護保険サービスの使いやすさの向上 39.3%	入所型の介護福祉施設等の整備 34.7%	在宅介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実 33.6%

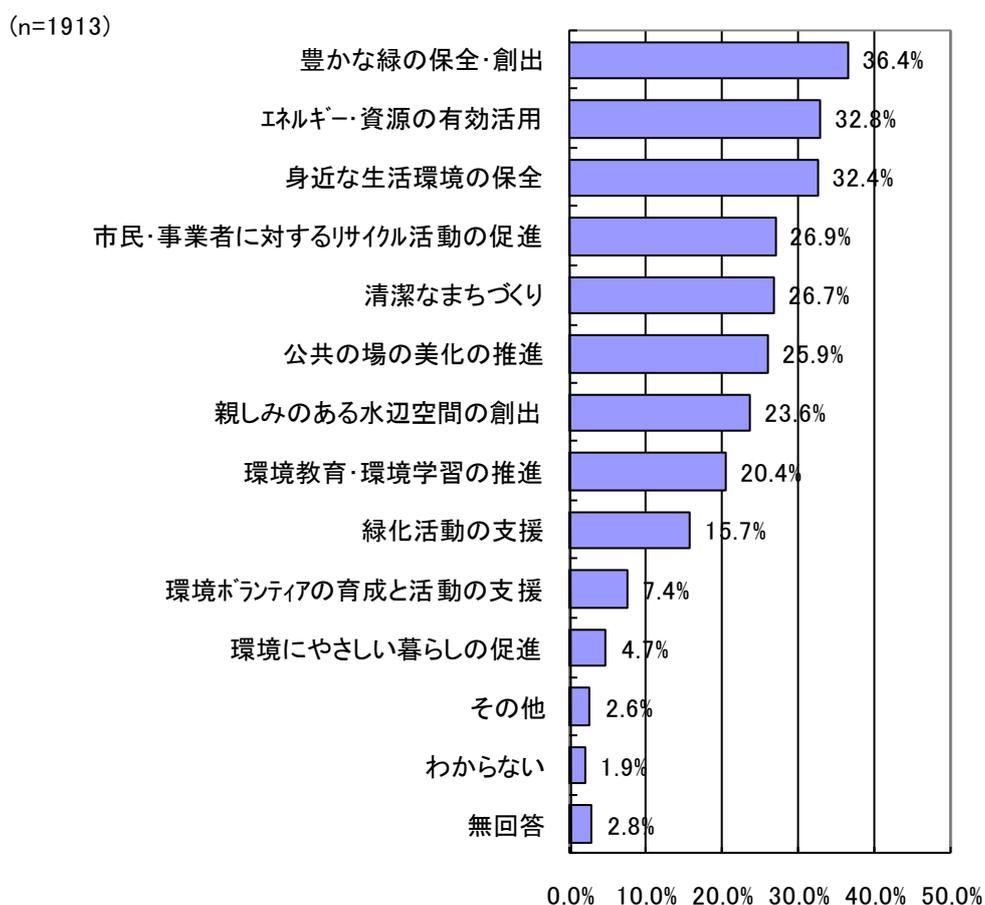
(4) 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点

* 「豊かな緑の保全・創出」が4割弱、「エネルギー・資源の有効活用」、「身近な生活環境の保全」が3割強。

問 12 環境保全やごみの減量を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「豊かな緑の保全・創出」(36.4%)が最も高く、次いで「エネルギー・資源の有効活用」(32.8%)、「身近な生活環境の保全」(32.4%)となっている。

図表III-75 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点



① 性別

- ・ 男女とも、上位 3 位にあげられている項目は、回答者全体と概ね同様となっている。
- ・ 女性は、「身近な生活環境の保全」（34.7%）が最も高い。また、男性は「親しみのある水辺空間の創出」（30.9%）が第 3 位となっている。

図表 III-76 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	豊かな緑の保全・創出	エネルギー・資源の有効活用	親しみのある水辺空間の創出
	39.7%	33.7%	30.9%
女性(n=997)	身近な生活環境の保全	豊かな緑の保全・創出	エネルギー・資源の有効活用
	34.7%	34.5%	33.7%

② 年齢別

- ・ 15～19歳では「親しみのある水辺空間の創出」（37.0%）、20～24歳では「清潔なまちづくり」（37.9%）、35～39歳では「身近な生活環境の保全」（41.1%）、30～34歳および45～59歳では「エネルギー・資源の有効活用」が、回答者全体の傾向とは異なり最も高い。
- ・ 第2位の項目をみると、50～59歳では「市民・事業者に対するリサイクル活動の促進」、75歳以上では「公共の場の美化の推進」があげられている。

図表III-77 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	親しみのある水辺空間の創出 37.0%	豊かな緑の保全・創出 緑化活動の支援	22.2%
20～24歳(n=58)	豊かな緑の保全・創出 清潔なまちづくり 37.9%		身近な生活環境の保全 29.3%
25～29歳(n=101)	豊かな緑の保全・創出 38.6%	公共の場の美化の推進 37.6%	身近な生活環境の保全 34.7%
30～34歳(n=165)	エネルギー・資源の有効活用 41.8%	豊かな緑の保全・創出 38.2%	身近な生活環境の保全 清潔なまちづくり 34.5%
35～39歳(n=219)	身近な生活環境の保全 41.1%	豊かな緑の保全・創出 36.1%	エネルギー・資源の有効活用 35.6%
40～44歳(n=203)	豊かな緑の保全・創出 40.4%	身近な生活環境の保全 38.4%	エネルギー・資源の有効活用 32.0%
45～49歳(n=125)	エネルギー・資源の有効活用 43.2%	身近な生活環境の保全 39.2%	豊かな緑の保全・創出 32.0%
50～54歳(n=88)	エネルギー・資源の有効活用 42.0%	市民・事業者に対するリサイクル活動の促進 36.4%	豊かな緑の保全・創出 35.2%
55～59歳(n=122)	エネルギー・資源の有効活用 41.8%	市民・事業者に対するリサイクル活動の促進 36.1%	身近な生活環境の保全 34.4%
60～64歳(n=207)	豊かな緑の保全・創出 37.7%	エネルギー・資源の有効活用 32.4%	親しみのある水辺空間の創出 31.9%
65～69歳(n=220)	豊かな緑の保全・創出 40.5%	身近な生活環境の保全 35.9%	公共の場の美化の推進 29.5%
70～74歳(n=183)	豊かな緑の保全・創出 36.1%	身近な生活環境の保全 29.0%	清潔なまちづくり 公共の場の美化の推進 27.9%
75歳以上(n=185)	豊かな緑の保全・創出 36.2%	公共の場の美化の推進 27.6%	市民・事業者に対するリサイクル活動の促進 25.9%

③ 地区別

- ・ 臨海部である南部①では、回答者全体では第7位にあげられていた「親しみのある水辺空間の創出」（40.4%）が最も高い。
- ・ 西部①、西部②では「身近な生活環境の保全」、東部②、北部②では「エネルギー・資源の有効活用」が回答者全体の傾向とは異なり最も高い。
- ・ 上位3位の項目をみると、南部②、中部①では「公共の場の美化の推進」が3割以上と高い。また、東部②、北部①・②では「市民・事業者に対するリサイクル活動の促進」があげられている。

図表III-78 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	親しみのある水辺空間の創出 40.4%	身近な生活環境の保全 35.1%	豊かな緑の保全・創出 29.8%
南部②(n=226)	豊かな緑の保全・創出 35.4%	身近な生活環境の保全 公共の場の美化の推進 30.5%	
西部①(n=179)	身近な生活環境の保全 38.0%	豊かな緑の保全・創出 35.8%	エネルギー・資源の有効活用 34.1%
西部②(n=275)	身近な生活環境の保全 36.7%	豊かな緑の保全・創出 33.8%	エネルギー・資源の有効活用 30.2%
中部①(n=139)	豊かな緑の保全・創出 36.0%	身近な生活環境の保全 33.8%	公共の場の美化の推進 30.2%
中部②(n=128)	豊かな緑の保全・創出 43.0%	エネルギー・資源の有効活用 29.7%	身近な生活環境の保全 28.9%
東部①(n=241)	豊かな緑の保全・創出 44.0%	エネルギー・資源の有効活用 36.5%	身近な生活環境の保全 35.7%
東部②(n=295)	エネルギー・資源の有効活用 38.3%	豊かな緑の保全・創出 38.0%	市民・事業者に対するリサイクル活動の促進 31.2%
北部①(n=238)	豊かな緑の保全・創出 34.0%	エネルギー・資源の有効活用 31.9%	市民・事業者に対するリサイクル活動の促進 30.7%
北部②(n=69)	エネルギー・資源の有効活用 39.1%	身近な生活環境の保全 33.3%	豊かな緑の保全・創出 市民・事業者に対するリサイクル活動の促進 27.5%

(5) 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点

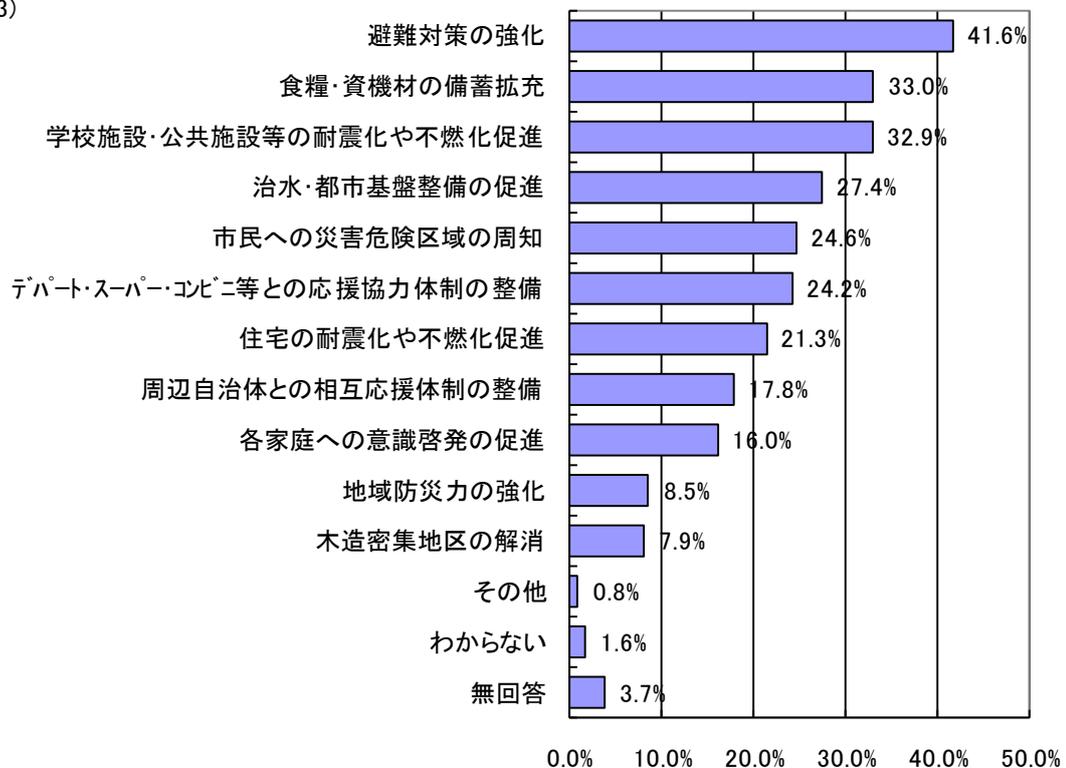
* 「避難対策の強化」が4割強、「食糧・資機材の備蓄拡充」、「学校施設・公共施設の耐震化や不燃化推進」が3割強。

問 13 災害に強い安全・安心なまちづくりを進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「避難対策の強化」(41.6%)が最も高く、次いで「食糧・資機材の備蓄拡充」(33.0%)と「学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化推進」(32.9%)が拮抗している。

図表III-79 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 女性では2位と3位の項目の入れ替えはあるが、男女とも回答者全体と同じ項目が上位3位にあげられている。

図表III-80 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	避難対策の強化	食糧・資機材の備蓄拡充	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進
	41.5%	32.1%	31.3%
女性(n=997)	避難対策の強化	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進	食糧・資機材の備蓄拡充
	41.3%	35.6%	34.9%

② 年齢別

- ・ 25～29歳、35～44歳では「学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進」、15～19歳では「食糧・資機材の備蓄拡充」が、回答者全体の傾向とは異なり最も高い。
- ・ 上位3位の項目をみると、50～54歳、60～64歳、70～74歳では「治水・都市基盤整備の促進」があげられている。また15～19歳では、回答者全体では第5位の「市民への災害危険区域の周知」（29.6%）が第3位に、75歳以上では回答者全体では第9位の「各家庭への意識啓発の促進」（24.3%）が第2位となっている。
- ・ また、70歳以上では、回答者全体では第7位の「住宅の耐震化や不燃化促進」が2～3位にあげられている。

図表III-81 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	食糧・資機材の備蓄拡充 55.6%	避難対策の強化 44.4%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 市民への災害危険区域の周知 29.6%
20～24歳(n=58)	避難対策の強化 37.9%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 34.5%	食糧・資機材の備蓄拡充 32.8%
25～29歳(n=101)	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 41.6%	食糧・資機材の備蓄拡充 38.6%	避難対策の強化 37.6%
30～34歳(n=165)	避難対策の強化 41.2%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 39.4%	食糧・資機材の備蓄拡充 38.2%
35～39歳(n=219)	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 44.7%	食糧・資機材の備蓄拡充 41.1%	避難対策の強化 37.0%
40～44歳(n=203)	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 44.3%	避難対策の強化 40.9%	食糧・資機材の備蓄拡充 35.0%
45～49歳(n=125)	避難対策の強化 46.4%	食糧・資機材の備蓄拡充 43.2%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 37.6%
50～54歳(n=88)	避難対策の強化 36.4%	食糧・資機材の備蓄拡充 治水・都市基盤整備の促進	30.7%
55～59歳(n=122)	避難対策の強化 49.2%	食糧・資機材の備蓄拡充 34.4%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 32.0%
60～64歳(n=207)	避難対策の強化 43.5%	食糧・資機材の備蓄拡充 治水・都市基盤整備の促進	31.9%
65～69歳(n=220)	避難対策の強化 45.0%	食糧・資機材の備蓄拡充 28.6%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 27.3%
70～74歳(n=183)	避難対策の強化 44.3%	食糧・資機材の備蓄拡充 住宅の耐震化や不燃化促進 治水・都市基盤整備の促進	26.2%
75歳以上(n=185)	避難対策の強化 37.3%	各家庭への意識啓発の促進 24.3%	住宅の耐震化や不燃化促進 23.8%

③ 地区別

- ・ 上位3位の項目をみると、順位の入替えはあるものの、概ね回答者全体と同様となっている。
- ・ 東部②、北部②では「学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進」が回答者全体の傾向とは異なり最も高い。
- ・ 西部①・②、中部②では「治水・都市基盤整備の促進」が2～3位にあげられており、関心が高いことが伺われる。

図表III-82 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	避難対策の強化 45.7%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 35.1%	食糧・資機材の備蓄拡充 34.0%
南部②(n=226)	避難対策の強化 41.6%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 35.4%	食糧・資機材の備蓄拡充 29.6%
西部①(n=179)	避難対策の強化 41.9%	治水・都市基盤整備の促進 33.0%	食糧・資機材の備蓄拡充 30.7%
西部②(n=275)	避難対策の強化 42.9%	食糧・資機材の備蓄拡充 33.8%	治水・都市基盤整備の促進 29.5%
中部①(n=139)	避難対策の強化 41.7%	食糧・資機材の備蓄拡充 38.8%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 36.0%
中部②(n=128)	避難対策の強化 43.0%	食糧・資機材の備蓄拡充 治水・都市基盤整備の促進	32.0%
東部①(n=241)	避難対策の強化 45.2%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 36.1%	食糧・資機材の備蓄拡充 31.5%
東部②(n=295)	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 40.3%	避難対策の強化 37.6%	食糧・資機材の備蓄拡充 32.9%
北部①(n=238)	避難対策の強化 44.1%	食糧・資機材の備蓄拡充 35.7%	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 28.6%
北部②(n=69)	学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化促進 50.7%	食糧・資機材の備蓄拡充 34.8%	避難対策の強化 27.5%

(6) 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点

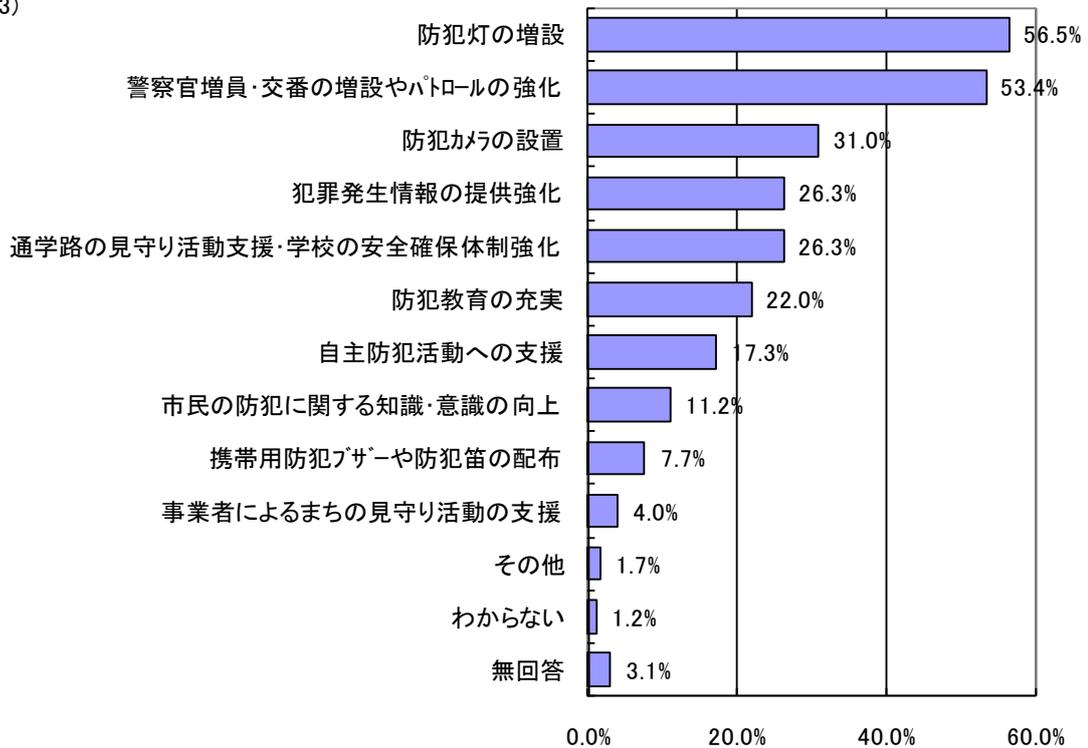
* 「防犯灯の増設」、「警察官増員・交番の増設やパトロールの強化」が5割強、「防犯カメラの設置」が3割強。

問 14 犯罪の少ない安全・安心なまちづくりを進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「防犯灯の増設」(56.5%)と、「警察官増員・交番の増設やパトロールの強化」(53.4%)の2項目が他と比べて突出して高く、次いで「防犯カメラの設置」(31.0%)となっている。

図表III-83 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 1位と2位の項目の入れ替えはあるが、男女とも、上位3項目は回答者全体と同様である。
- ・ 「防犯灯の増設」は、女性（60.5%）の方が、男性（51.8%）よりも高い。一方、「防犯カメラの設置」は男性（35.0%）の方が、女性（29.0%）よりも高い。

図表III-84 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 53.0%	防犯灯の増設 51.8%	防犯カメラの設置 35.0%
女性(n=997)	防犯灯の増設 60.5%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 52.5%	防犯カメラの設置 29.0%

② 年齢別

- ・ 年齢により順位の入替えはあるが、15～19歳を除き、上位2位の項目は回答者全体と同様である。15～19歳では「防犯カメラの設置」(40.7%)が最も高い。
- ・ また、60～64歳では「防犯灯の増設」(64.7%)が6割強と特に高い。
- ・ 第3位の項目をみると、15～19歳、25～29歳、35～44歳において「通学路の見守り活動支援・学校の安全確保体制の強化」があげられており、生徒・学生や子育て世代を中心に関心が高い。

図表111-85 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	防犯カメラの設置 40.7%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 37.0%	防犯灯の増設 通学路の見守り活動支 援・学校の安全確保体制 強化 33.3%
20～24歳(n=58)	防犯灯の増設 53.4%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 32.8%	防犯カメラの設置 29.3%
25～29歳(n=101)	防犯灯の増設 56.4%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 50.5%	通学路の見守り活動支 援・学校の安全確保体制 強化 43.6%
30～34歳(n=165)	防犯灯の増設 55.2%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 47.9%	犯罪発生情報の提供強 化 33.3%
35～39歳(n=219)	防犯灯の増設 55.7%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 54.8%	通学路の見守り活動支 援・学校の安全確保体制 強化 35.2%
40～44歳(n=203)	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 62.6%	防犯灯の増設 55.2%	通学路の見守り活動支 援・学校の安全確保体制 強化 37.4%
45～49歳(n=125)	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 60.0%	防犯灯の増設 59.2%	防犯カメラの設置 42.4%
50～54歳(n=88)	防犯灯の増設 60.2%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 54.5%	防犯カメラの設置 34.1%
55～59歳(n=122)	防犯灯の増設 59.8%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 58.2%	防犯カメラの設置 35.2%
60～64歳(n=207)	防犯灯の増設 64.7%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 53.1%	防犯カメラの設置 30.9%
65～69歳(n=220)	防犯灯の増設 54.1%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 49.5%	防犯カメラの設置 28.6%
70～74歳(n=183)	防犯灯の増設 55.7%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 54.1%	防犯カメラの設置 33.9%
75歳以上(n=185)	防犯灯の増設 警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 54.1%		犯罪発生情報の提供強 化 25.9%

③ 地区別

- ・ 各地区とも、回答者全体と概ね同様の傾向となっている。
- ・ 東部①、北部②では「防犯灯の増設」と「警察官の増員・交番の増設やパトロールの強化」が同率で最も高い。また、中部②、東部②では、「警察官の増員・交番の増設やパトロールの強化」が最も高い。
- ・ 第3位の項目をみると、南部①、西部①では「犯罪発生情報の提供強化」があげられている

図表III-86 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	防犯灯の増設 56.4%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 53.2%	犯罪発生情報の提供強化 35.1%
南部②(n=226)	防犯灯の増設 57.5%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 50.4%	防犯カメラの設置 33.2%
西部①(n=179)	防犯灯の増設 62.0%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 49.7%	犯罪発生情報の提供強化 31.3%
西部②(n=275)	防犯灯の増設 57.8%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 56.4%	防犯カメラの設置 32.4%
中部①(n=139)	防犯灯の増設 59.7%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 58.3%	防犯カメラの設置 29.5%
中部②(n=128)	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 49.2%	防犯灯の増設 45.3%	防犯カメラの設置 32.8%
東部①(n=241)	防犯灯の増設 警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 56.4%		防犯カメラの設置 32.0%
東部②(n=295)	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 52.2%	防犯灯の増設 51.5%	防犯カメラの設置 30.2%
北部①(n=238)	防犯灯の増設 61.8%	警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 51.7%	防犯カメラの設置 31.5%
北部②(n=69)	防犯灯の増設 警察官増員・交番の増設 やパトロールの強化 58.0%		防犯カメラの設置 29.0%

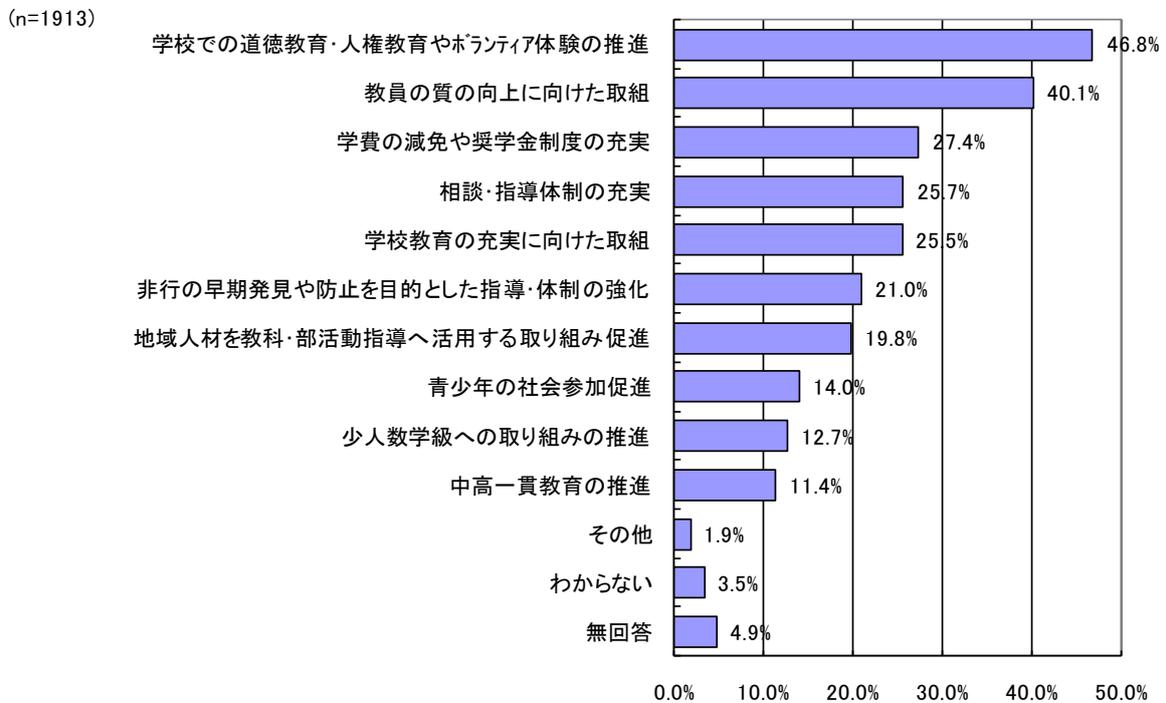
(7) 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点

* 「学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進」が5割弱、「教員の質の向上に向けた取組」が4割。

問 15 豊かな人間性を育む学校教育や青少年健全育成活動を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進」(46.8%)が最も高く、次いで「教員の質の向上に向けた取組」(40.1%)、「学費の減免や奨学金制度の充実」(27.4%)となっている。

図表111-87 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 「学校での道德教育・人権教育やボランティア体験の推進」については、男性（49.7%）が女性（44.3%）に比べて割合が高い。

図表III-88 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	学校での道德教育・人権教育やボランティア体験の推進 49.7%	教員の質の向上に向けた取組 39.4%	学費の減免や奨学金制度の充実 28.3%
女性(n=997)	学校での道德教育・人権教育やボランティア体験の推進 44.3%	教員の質の向上に向けた取組 42.5%	学費の減免や奨学金制度の充実 27.3%

② 年齢別

- ・ 30～34歳および55歳以上では「学校での道德教育・人権教育やボランティア体験の推進」が最も高く、30～34歳を除くと、高齢者層において関心が高いことがうかがえる。
- ・ 15～24歳および35～54歳では「教員の質の向上に向けた取組」、15～19歳および25～29歳では「学費の減免や奨学金制度の充実」が最も高い。
- ・ 15～19歳では、他の年齢階層で関心が高い「教員の質の向上に向けた取組」、「学費の減免や奨学金制度の充実」以外にも、「相談・指導体制の充実」への関心が高い。
- ・ 子育て世代に該当する30～44歳では「学校教育の充実に向けた取組」、70歳以上の高齢者では「非行の早期発見や防止を目的とした指導・体制の強化」が第3位となっている。

図表III-89 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	相談・指導体制の充実		
	教員の質の向上に向けた取組 学費の減免や奨学金制度の充実		
			33.3%
20～24歳(n=58)	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進
	50.0%	37.9%	34.5%
25～29歳(n=101)	学費の減免や奨学金制度の充実	教員の質の向上に向けた取組	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進
	48.5%	43.6%	34.7%
30～34歳(n=165)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学校教育の充実に向けた取組
	43.0%	41.2%	32.7%
35～39歳(n=219)	教員の質の向上に向けた取組	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	学校教育の充実に向けた取組
	44.3%	42.0%	30.1%
40～44歳(n=203)	教員の質の向上に向けた取組	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	学校教育の充実に向けた取組
	51.2%	46.8%	29.6%
45～49歳(n=125)	教員の質の向上に向けた取組	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	相談・指導体制の充実
	40.8%	39.2%	32.0%
50～54歳(n=88)	教員の質の向上に向けた取組	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	学費の減免や奨学金制度の充実
	40.9%	38.6%	26.1%
55～59歳(n=122)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	相談・指導体制の充実
	56.6%	41.8%	29.5%
60～64歳(n=207)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実
	50.7%	40.6%	33.3%
65～69歳(n=220)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学校教育の充実に向けた取組
	56.4%	37.7%	26.4%
70～74歳(n=183)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	非行の早期発見や防止を目的とした指導・体制の強化
	54.1%	31.1%	29.0%
75歳以上(n=185)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	非行の早期発見や防止を目的とした指導・体制の強化
	49.7%	28.1%	25.9%

③ 地区別

- ・ 1位と2位の入れ替えはあるものの、各地区とも上位2項目については、回答者全体と同様である。
- ・ 南部①、西部①では「教員の質の向上に向けた取組」が最も高い。
- ・ 第3位の項目をみると、南部①・②、西部①では「学校教育の充実にに向けた取組」、中部②では「相談・指導体制の充実」、北部①では「非行の早期発見や防止を目的とした指導・体制の強化」があげられている。

図表111-90 学校教育・青少年健全育成活動の充実に重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学校教育の充実にに向けた取組
	教員の質の向上に向けた取組		学費の減免や奨学金制度の充実
	41.5%		27.7%
南部②(n=226)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学校教育の充実にに向けた取組
	43.4%		30.5%
	42.0%		
西部①(n=179)	教員の質の向上に向けた取組	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	学校教育の充実にに向けた取組
	45.8%		30.2%
	43.0%		
西部②(n=275)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実
	45.1%		30.2%
	43.3%		
中部①(n=139)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実
	48.9%		29.5%
	35.3%		
中部②(n=128)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	相談・指導体制の充実
	53.9%		30.5%
	37.5%		
東部①(n=241)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実
	47.7%		33.6%
	36.9%		
東部②(n=295)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実
	47.5%		25.8%
	41.7%		
北部①(n=238)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	非行の早期発見や防止を目的とした指導・体制の強化
	51.7%		29.8%
	38.2%		
北部②(n=69)	学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進	教員の質の向上に向けた取組	学費の減免や奨学金制度の充実
	47.8%		31.9%
	36.2%		

(8) 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点

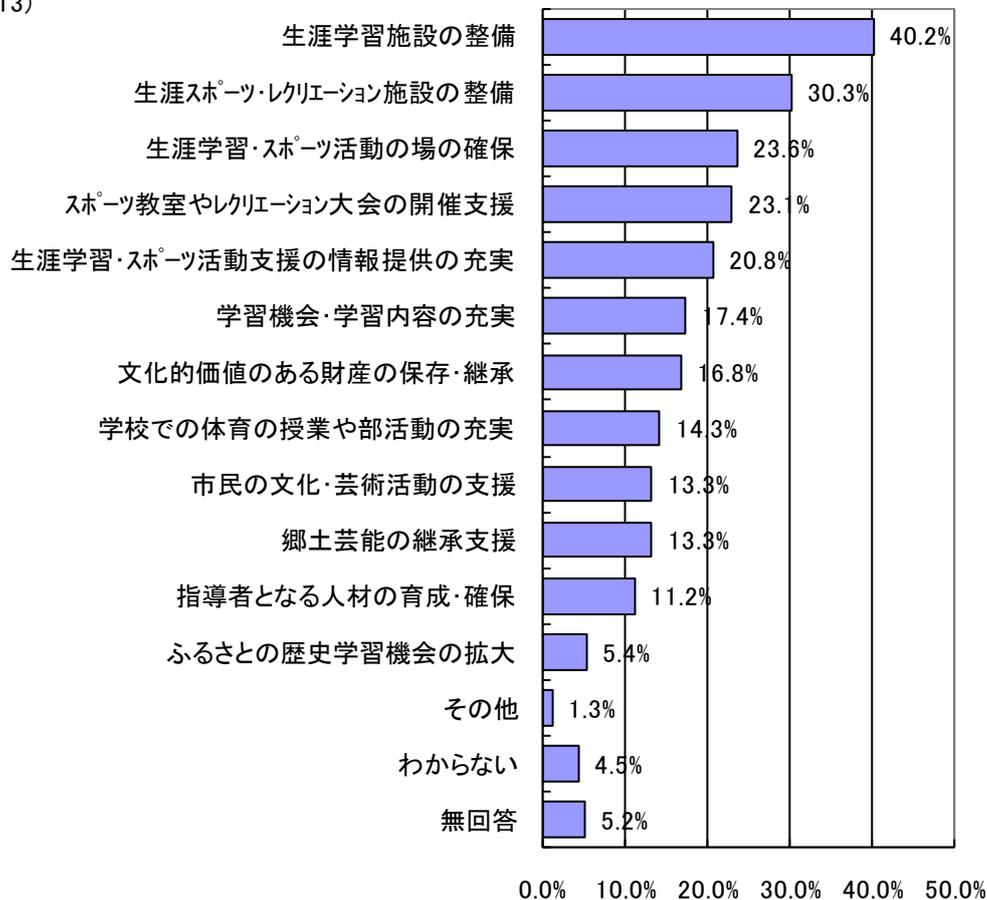
* 「生涯学習施設の整備」が4割、「生涯スポーツ・レクリエーション施設」が3割と施設整備に関する関心が高い。

問 16 生涯学習やスポーツ活動、芸術文化の振興を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「生涯学習施設の整備」(40.2%)が最も高く、次いで「生涯スポーツ・レクリエーション施設」(30.3%)、「生涯学習・スポーツ活動の場の確保」(23.6%)となっている。上位3位をみると、特に施設整備に対する関心が高いことがうかがえる。

図表111-91 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 「生涯学習施設の整備」は、女性（42.8%）が男性（37.4%）に比べて高い。一方、「生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備」は、男性（35.3%）が女性（26.7%）に比べて高い。

図表III-92 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動の場の確保
	37.4%	35.3%	26.1%
女性(n=997)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動の場の確保
	42.8%	26.7%	23.7%

② 年齢別

- ・ 15～19 歳では「スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援」、20～24 歳および 40～44 歳では「生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備」が回答者全体の傾向とは異なり最も高い。
- ・ 2～3 位の項目をみると、生徒・学生を含む 15～24 歳の層では「学校での体育の授業や部活動の充実」、20～24 歳、30～34 歳および 75 歳以上では「スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援」、50～54 歳では「文化的価値のある財産の保存・継承」、60 歳代では「生涯学習・スポーツ活動支援の情報提供の充実」があげられている。

図表111-93 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援 40.7%	学校での体育の授業や部活動の充実 25.9%	生涯学習施設の整備 22.2%
20～24歳(n=58)	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 34.5%	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援 31.0%	学校での体育の授業や部活動の充実 27.6%
25～29歳(n=101)	生涯学習施設の整備 35.6%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 30.7%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 29.7%
30～34歳(n=165)	生涯学習施設の整備 36.4%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 30.9%	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援 30.3%
35～39歳(n=219)	生涯学習施設の整備 36.5%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 33.3%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 29.2%
40～44歳(n=203)	生涯学習施設の整備 生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 36.9%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 28.0%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 32.5%
45～49歳(n=125)	生涯学習施設の整備 39.2%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 28.0%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 27.2%
50～54歳(n=88)	生涯学習施設の整備 44.3%	文化的価値のある財産の保存・継承 29.5%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 27.3%
55～59歳(n=122)	生涯学習施設の整備 46.7%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 30.3%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 22.1%
60～64歳(n=207)	生涯学習施設の整備 49.3%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 32.9%	生涯学習・スポーツ活動支援の情報提供の充実 30.4%
65～69歳(n=220)	生涯学習施設の整備 47.7%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 29.5%	生涯学習・スポーツ活動支援の情報提供の充実 25.0%
70～74歳(n=183)	生涯学習施設の整備 38.3%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 31.1%	生涯学習・スポーツ活動の場の確保 23.0%
75歳以上(n=185)	生涯学習施設の整備 38.9%	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備 22.7%	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援 17.8%

③ 地区別

- ・ 南部①では「スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援」（31.9%）が、回答者全体の傾向とは異なり最も高い。また、西部②、東部①、北部①では「スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援」が2～3位となっている。
- ・ 第3位の項目をみると、中部①・②では「生涯学習・スポーツ活動支援の情報提供の充実」、北部②では「学習機会・学習内容の充実」があげられている。

図表111-94 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援	生涯学習・スポーツ活動の場の確保	生涯学習施設の整備 生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備
	31.9%	27.7%	26.6%
南部②(n=226)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動の場の確保
	38.1%	33.2%	28.8%
西部①(n=179)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動の場の確保
	42.5%	33.0%	25.1%
西部②(n=275)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援
	44.4%	32.7%	22.5%
中部①(n=139)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動支援の情報提供の充実
	36.0%	28.1%	24.5%
中部②(n=128)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動支援の情報提供の充実
	41.4%	27.3%	24.2%
東部①(n=241)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援
	44.8%	32.8%	22.0%
東部②(n=295)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	生涯学習・スポーツ活動の場の確保
	39.3%	28.8%	26.4%
北部①(n=238)	生涯学習施設の整備	スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備
	41.2%	28.6%	27.3%
北部②(n=69)	生涯学習施設の整備	生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備	学習機会・学習内容の充実
	39.1%	30.4%	23.2%

(9) 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点

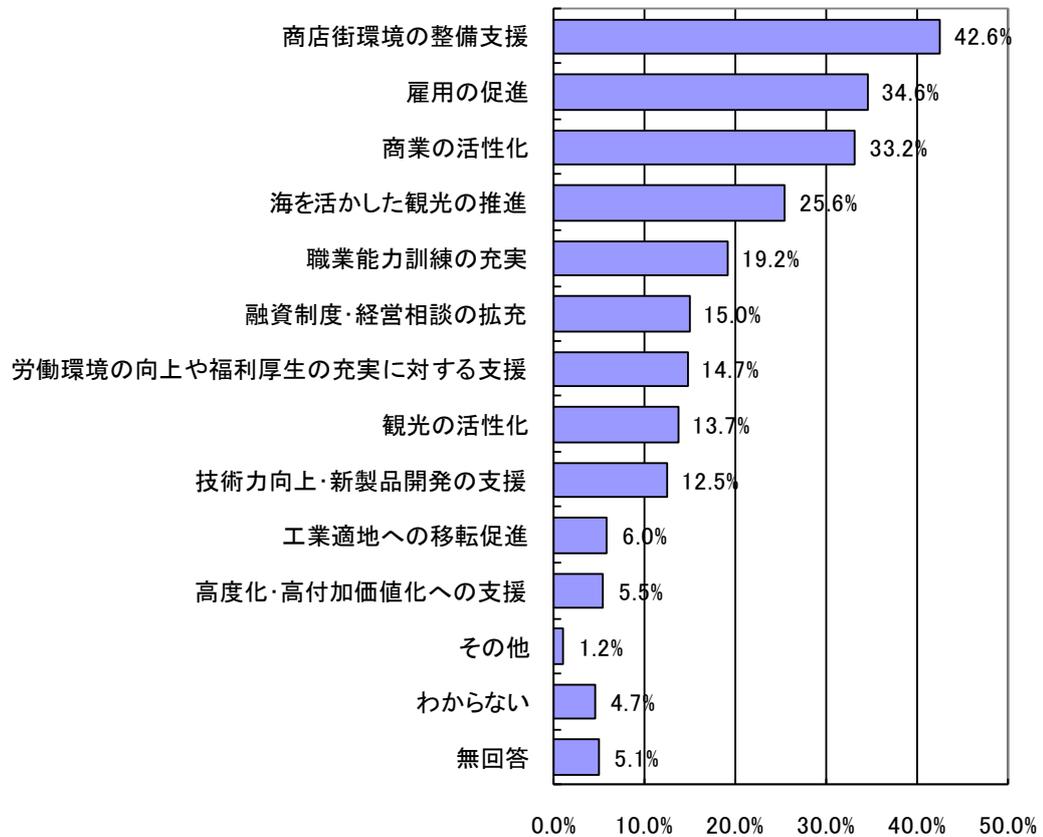
* 「商店街環境の整備支援」が4割強、「商業の活性化」が3割強と商業振興への関心が高いほか、「雇用の促進」も3割強。

問 17 市内の商工業や観光振興を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「商店街環境の整備支援」が42.6%と最も高く、次いで「雇用の促進」(34.6%)、「商業の活性化」(33.2%)となっている。第1位、第3位をみると、商業振興への関心が高いことがうかがえる。

図表111-95 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 男性において2位と3位の項目の入れ替えはあるが、男女とも回答者全体と同じ項目が上位3位にあげられている。
- ・ 「雇用の促進」は、男性（32.8%）に比べて、女性（37.0%）の方が高い。

図表111-96 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	商店街環境の整備支援 41.2%	商業の活性化 33.9%	雇用の促進 32.8%
女性(n=997)	商店街環境の整備支援 43.9%	雇用の促進 37.0%	商業の活性化 33.8%

② 年齢別

- ・ 15～24歳および50～59歳では「雇用の促進」が最も高くなっており、特に20～24歳では50.0%と半数を占めている。
- ・ 第3位の項目をみると、30～34歳および70歳以上では「海を活かした観光の推進」があげられている。

図表111-97 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	雇用の促進 37.0%	商店街環境の整備支援 33.3%	商業の活性化 29.6%
20～24歳(n=58)	雇用の促進 50.0%	商業の活性化 36.2%	商店街環境の整備支援 29.3%
25～29歳(n=101)	商店街環境の整備支援 41.6%	雇用の促進 39.6%	商業の活性化 37.6%
30～34歳(n=165)	商店街環境の整備支援 43.6%	商業の活性化 42.4%	海を活かした観光の推進 33.3%
35～39歳(n=219)	商店街環境の整備支援 47.9%	雇用の促進 35.2%	商業の活性化 33.3%
40～44歳(n=203)	商店街環境の整備支援 45.8%	商業の活性化 42.4%	雇用の促進 32.0%
45～49歳(n=125)	商店街環境の整備支援 45.6%	雇用の促進 39.2%	商業の活性化 37.6%
50～54歳(n=88)	雇用の促進 40.9%	商店街環境の整備支援 38.6%	商業の活性化 28.4%
55～59歳(n=122)	雇用の促進 41.0%	商店街環境の整備支援 38.5%	商業の活性化 32.0%
60～64歳(n=207)	商店街環境の整備支援 44.0%	雇用の促進 38.2%	商業の活性化 27.1%
65～69歳(n=220)	商店街環境の整備支援 43.2%	雇用の促進 32.7%	商業の活性化 30.0%
70～74歳(n=183)	商店街環境の整備支援 43.7%	雇用の促進 29.0%	海を活かした観光の推進 28.4%
75歳以上(n=185)	商店街環境の整備支援 37.3%	商業の活性化 31.4%	海を活かした観光の推進 雇用の促進 25.4%

③ 地区別

- ・ 南部①、東部②を除き「商店街環境の整備支援」が最も高く、特に北部②は 49.3%とほぼ半数を占めている。
- ・ 南部①では「海を活かした観光の推進」、東部②では「雇用の促進」が最も高い。特に「海を活かした観光の推進」は南部②、中部①では第 2 位、西部①では第 3 位と、比較的海に近い地域において関心が高くなっている。

図表111-98 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	海を活かした観光の推進 41.5%	商店街環境の整備支援 39.4%	雇用の促進 33.0%
南部②(n=226)	商店街環境の整備支援 40.3%	海を活かした観光の推進 33.2%	商業の活性化 31.4%
西部①(n=179)	商店街環境の整備支援 46.9%	商業の活性化 40.2%	海を活かした観光の推進 27.9%
西部②(n=275)	商店街環境の整備支援 46.5%	雇用の促進 35.6%	商業の活性化 32.7%
中部①(n=139)	商店街環境の整備支援 39.6%	海を活かした観光の推進 37.4%	雇用の促進 33.8%
中部②(n=128)	商店街環境の整備支援 39.1%	商業の活性化 35.2%	雇用の促進 34.4%
東部①(n=241)	商店街環境の整備支援 46.5%	雇用の促進 38.6%	商業の活性化 32.8%
東部②(n=295)	雇用の促進 41.4%	商店街環境の整備支援 40.0%	商業の活性化 31.2%
北部①(n=238)	商店街環境の整備支援 41.6%	商業の活性化 37.0%	雇用の促進 36.1%
北部②(n=69)	商店街環境の整備支援 49.3%	雇用の促進 39.1%	商業の活性化 34.8%

(10) 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点

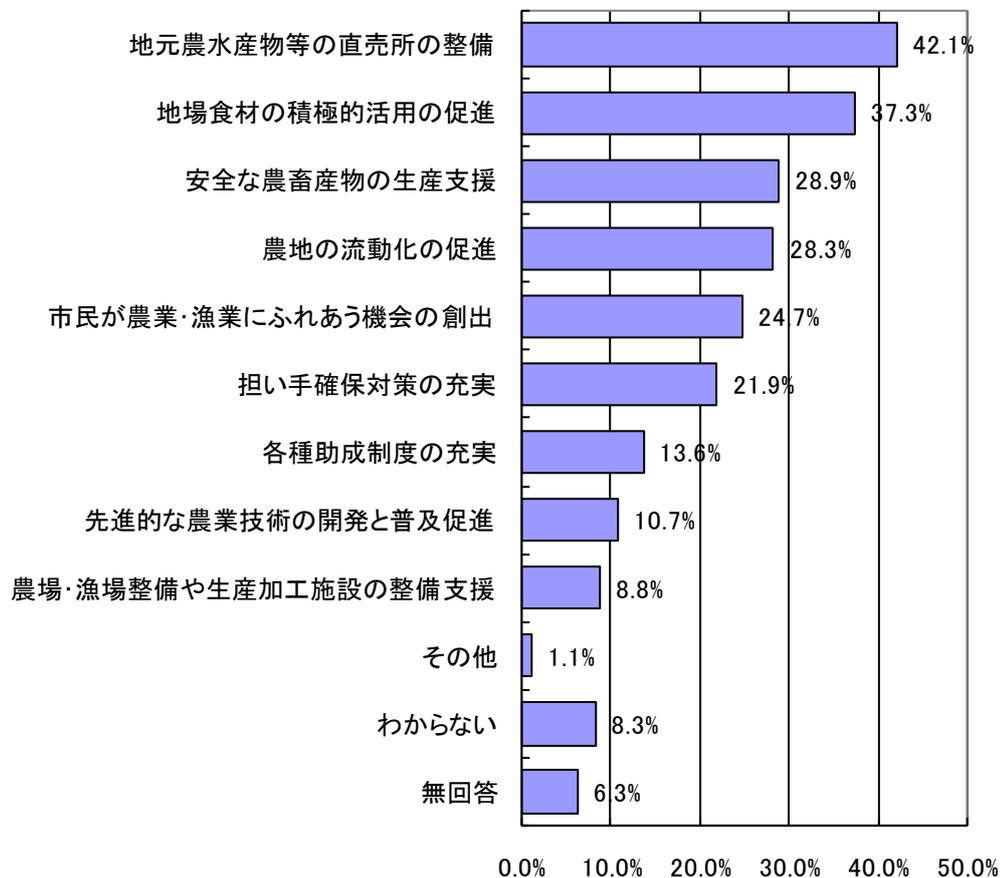
* 「地元農水産物等の直売所の整備」と「地場食材の積極的活用の促進」が4割前後。

問 18 市内の農業や漁業を振興していく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

- ・ 「地元農水産物等の直売所の整備」(42.1%)が最も高く、次いで「地場食材の積極的活用の促進」(37.3%)、さらに「安全な農畜産物の生産支援」(28.9%)と「農地の流動化の促進」(28.3%)が拮抗している。上位2位をみると、地産地消への関心が高いことがうかがえる。

図表111-99 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点

(n=1913)



① 性別

- ・ 「地元農畜産物等の直売所の整備」は、女性（44.6%）が男性（38.6%）に比べて高く、「地場食材の積極的活用の促進」についても女性（42.2%）が男性（32.4%）に比べて約1割高く、地産地消に対して女性の関心が高いことがうかがえる。
- ・ 男性では、「農地の流動化の促進」（34.1%）が第2位にあげられている。

図表III-100 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点(性別)

	1位	2位	3位
男性(n=728)	地元農水産物等の直売所の整備 38.6%	農地の流動化の促進 34.1%	地場食材の積極的活用の促進 32.4%
女性(n=997)	地元農水産物等の直売所の整備 44.6%	地場食材の積極的活用の促進 42.2%	安全な農畜産物の生産支援 32.1%

② 年齢別

- ・ ほぼ全ての年齢階層において、「地元農水産物等の直売所の整備」および「地場食材の積極的活用の促進」は上位3位にあげられている。
- ・ 15～19歳では「市民が農業・漁業にふれあう機会の創出」、20～24歳および40～49歳では「地場食材の積極的活用の促進」が回答者全体とは異なり最も高い。
- ・ 2～3位の項目をみると、55歳以上では「農地の流動化の促進」、30～34歳および50～54歳では「市民が農業・漁業にふれあう機会の創出」、15～19歳および25～29歳では「担い手確保対策の充実」があげられている。

図表III-101 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点(年齢別)

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	地元農水産物等の直売所の整備	市民が農業・漁業にふれあう機会の創出	担い手確保対策の充実
			地場食材の積極的活用の促進
		25.9%	22.2%
20～24歳(n=58)	地場食材の積極的活用の促進	安全な農畜産物の生産支援	市民が農業・漁業にふれあう機会の創出
	36.2%		31.0%
25～29歳(n=101)	地元農水産物等の直売所の整備	地場食材の積極的活用の促進	担い手確保対策の充実
	37.6%	36.6%	35.6%
30～34歳(n=165)	地元農水産物等の直売所の整備	地場食材の積極的活用の促進	市民が農業・漁業にふれあう機会の創出
	45.5%	41.8%	34.5%
35～39歳(n=219)	地元農水産物等の直売所の整備	地場食材の積極的活用の促進	安全な農畜産物の生産支援
	44.3%	39.3%	34.2%
40～44歳(n=203)	地場食材の積極的活用の促進	地元農水産物等の直売所の整備	安全な農畜産物の生産支援
	44.8%	40.9%	26.1%
45～49歳(n=125)	地場食材の積極的活用の促進	地元農水産物等の直売所の整備	安全な農畜産物の生産支援
	42.4%	33.6%	28.8%
50～54歳(n=88)	地元農水産物等の直売所の整備	市民が農業・漁業にふれあう機会の創出	地場食材の積極的活用の促進
	48.9%	35.2%	34.1%
55～59歳(n=122)	地元農水産物等の直売所の整備	地場食材の積極的活用の促進	農地の流動化の促進
	38.5%	37.7%	31.1%
60～64歳(n=207)	地元農水産物等の直売所の整備	農地の流動化の促進	安全な農畜産物の生産支援
	45.4%	39.1%	31.9%
65～69歳(n=220)	地元農水産物等の直売所の整備	地場食材の積極的活用の促進	農地の流動化の促進
	49.1%	40.5%	40.0%
70～74歳(n=183)	地元農水産物等の直売所の整備	地場食材の積極的活用の促進	農地の流動化の促進
	50.8%	40.4%	30.6%
75歳以上(n=185)	地元農水産物等の直売所の整備	農地の流動化の促進	地場食材の積極的活用の促進
	33.0%	26.5%	24.9%

③ 地区別

- ・ 上位2位をみると、南部①で順位が入れ替わっているものの、いずれの地区でも回答者全体と同様、「地元農水産物等の直売所の整備」と「地場食材の積極的活用の促進」があげられている。
- ・ 第3位の項目をみると、南部①では「市民が農業・漁業にふれあう機会の創出」（33.0%）、南部②、西部①、中部①・②、北部②では「農地の流動化の促進」があげられている。

図表III-102 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	地場食材の積極的活用の促進 40.4%	地元農水産物等の直売所の整備 37.2%	市民が農業・漁業にふれあう機会の創出 33.0%
南部②(n=226)	地元農水産物等の直売所の整備 45.1%	地場食材の積極的活用の促進 35.8%	農地の流動化の促進 28.3%
西部①(n=179)	地元農水産物等の直売所の整備 44.7%	地場食材の積極的活用の促進 35.2%	農地の流動化の促進 26.8%
西部②(n=275)	地元農水産物等の直売所の整備 44.4%	地場食材の積極的活用の促進 36.4%	安全な農畜産物の生産支援 30.5%
中部①(n=139)	地元農水産物等の直売所の整備 42.4%	地場食材の積極的活用の促進 34.5%	農地の流動化の促進 33.1%
中部②(n=128)	地元農水産物等の直売所の整備 42.2%	地場食材の積極的活用の促進 39.8%	農地の流動化の促進 35.2%
東部①(n=241)	地元農水産物等の直売所の整備 40.7%	地場食材の積極的活用の促進 39.8%	安全な農畜産物の生産支援 29.5%
東部②(n=295)	地元農水産物等の直売所の整備 42.0%	地場食材の積極的活用の促進 41.0%	安全な農畜産物の生産支援 27.8%
北部①(n=238)	地元農水産物等の直売所の整備 38.7%	地場食材の積極的活用の促進 35.3%	安全な農畜産物の生産支援 31.9%
北部②(n=69)	地元農水産物等の直売所の整備 39.1%	地場食材の積極的活用の促進 37.7%	農地の流動化の促進 36.2%

(11) 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと

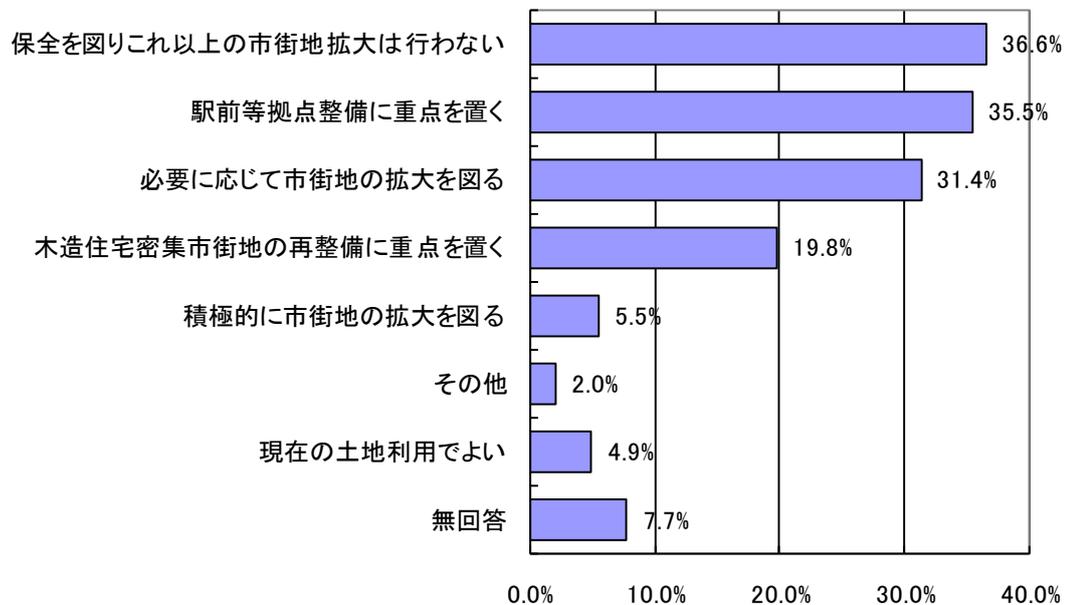
*「保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない」、「駅前等拠点整備に重点を置く」が4割弱と、集約型都市構造への関心が高い。

問 19 船橋市の土地利用を考える上で、あなたが最も基本とすべきことはどのようなことだと思いますか。次の中から、あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

- ・ 「保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない」(36.6%)が最も高く、次いで「駅前等拠点整備に重点を置く」(35.5%)、「必要に応じて市街地の拡大を図る」(31.4%)となっている。上位2位をみると、スプロール化(無秩序な市街地開発)を抑制し、都市の中心部を活性化する集約型の都市構造への関心が高いことがうかがえる。

図表III-103 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと

(n=1913)



① 性別

- ・ 順位の入替えはあるものの、男女とも回答者全体と同じ項目が上位3位にあげられており、土地利用の保全について関心が高いことがうかがえる。
- ・ 「駅前等拠点整備に重点を置く」は男性（40.4%）が女性（32.6%）に比べて高く、一方、「必要に応じて市街地の拡大を図る」は女性（34.5%）が男性（28.2%）に比べて高い。

図表III-104 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	駅前等拠点整備に重点を置く 40.4%	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない 36.4%	必要に応じて市街地の拡大を図る 28.2%
女性(n=997)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない 36.3%	必要に応じて市街地の拡大を図る 34.5%	駅前等拠点整備に重点を置く 32.6%

② 年齢別

- ・ いずれの年齢においても、「駅前等拠点整備に重点を置く」は、上位 2 位以内に、「保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない」は上位 3 位以内に含まれている。
- ・ 60 歳以上では、全ての年齢階層において、「保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない」の割合が、第 2 位の「駅前等拠点整備に重点を置く」よりも約 1~2 割高い。
- ・ また、回答者全体とは異なり、70 歳以上では「木造住宅密集市街地の再整備に重点を置く」が第 3 位である。

図表 III-105 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと(年齢別)

	1位	2位	3位
15~19歳(n=27)	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	22.2%		
20~24歳(n=58)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	43.1%	41.4%	31.0%
25~29歳(n=101)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る
	32.7%	27.7%	26.7%
30~34歳(n=165)	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	38.8%	35.8%	24.2%
35~39歳(n=219)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	37.4%	37.0%	28.8%
40~44歳(n=203)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	43.3%	35.5%	35.5%
45~49歳(n=125)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	45.6%	35.2%	32.0%
50~54歳(n=88)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る
	38.6%	37.5%	31.8%
55~59歳(n=122)	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	41.0%	37.7%	34.4%
60~64歳(n=207)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る
	43.0%	33.3%	32.4%
65~69歳(n=220)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る
	51.8%	31.4%	26.4%
70~74歳(n=183)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る 木造住宅密集市街地の再整備に重点を置く
	43.7%	34.4%	24.6%
75歳以上(n=185)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	木造住宅密集市街地の再整備に重点を置く
	37.3%	28.1%	21.1%

③ 地区別

- ・ 順位の入替えはあるものの、いずれの地区でも回答者全体と同じ項目が上位3位にあげられている。
- ・ 南部①・②、西部①、中部②、東部②では「駅前等拠点整備に重点を置く」が最も高い。また、北部②では、「必要に応じて市街地の拡大を図る」が「保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない」と同率で最も高い。

図表III-106 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る 保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	
	45.7%	27.7%	
南部②(n=226)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	36.7%	35.0%	31.4%
西部①(n=179)	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない
	44.1%	33.5%	30.7%
西部②(n=275)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	駅前等拠点整備に重点を置く	必要に応じて市街地の拡大を図る
	37.8%	36.4%	29.5%
中部①(n=139)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く
	46.0%	33.1%	25.2%
中部②(n=128)	駅前等拠点整備に重点を置く	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	必要に応じて市街地の拡大を図る
	39.1%	35.2%	26.6%
東部①(n=241)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く
	39.4%	30.3%	29.0%
東部②(n=295)	駅前等拠点整備に重点を置く	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	必要に応じて市街地の拡大を図る
	39.3%	38.6%	32.5%
北部①(n=238)	保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く
	37.4%	31.5%	30.7%
北部②(n=69)	必要に応じて市街地の拡大を図る	駅前等拠点整備に重点を置く	
	36.2%	27.5%	

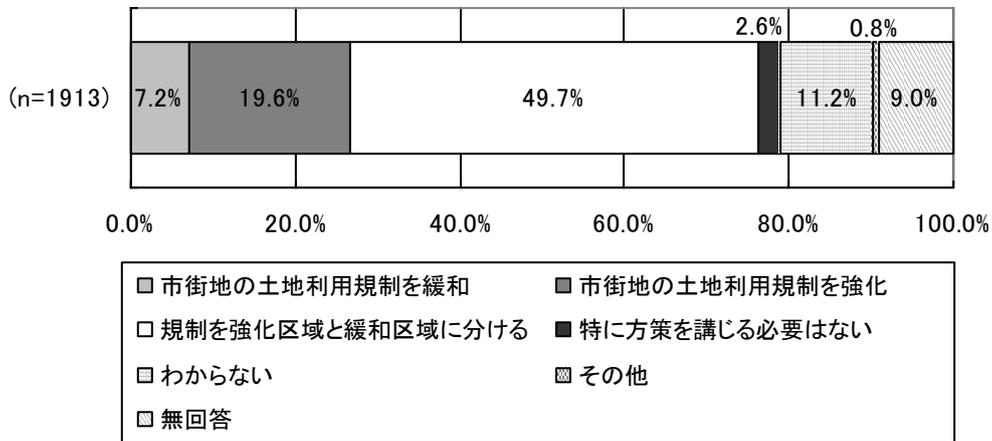
(12) 将来の市街地の土地利用方策のあり方

* 「規制を強化区域と緩和区域に分ける」が5割、次いで「市街地の土地利用規制を強化」が2割と集約型都市構造への関心が高い。

問 20 市街地における将来の土地利用の方策のあり方について、どのようにしていきべきだと思いますか。次の中から、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- ・ 「規制を強化区域と緩和区域に分ける」(49.7%)が最も高く、次いで「市街地の土地利用規制を強化」(19.6%)となっている。問19(土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと)と同様に、集約型都市構造に関する関心が高いことがうかがわれる。

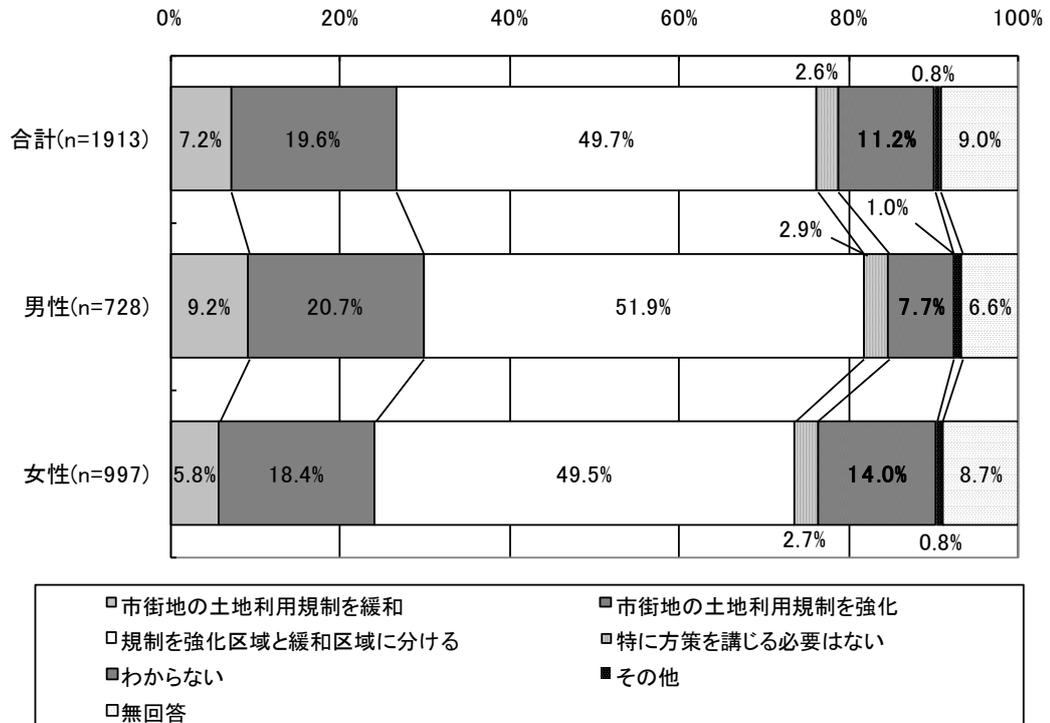
図表III-107 将来の市街地の土地利用方策のあり方



① 性別

- 男女とも、「規制を強化区域と緩和区域に分ける」が最も高く、他の項目においても性差はあまりみられない。

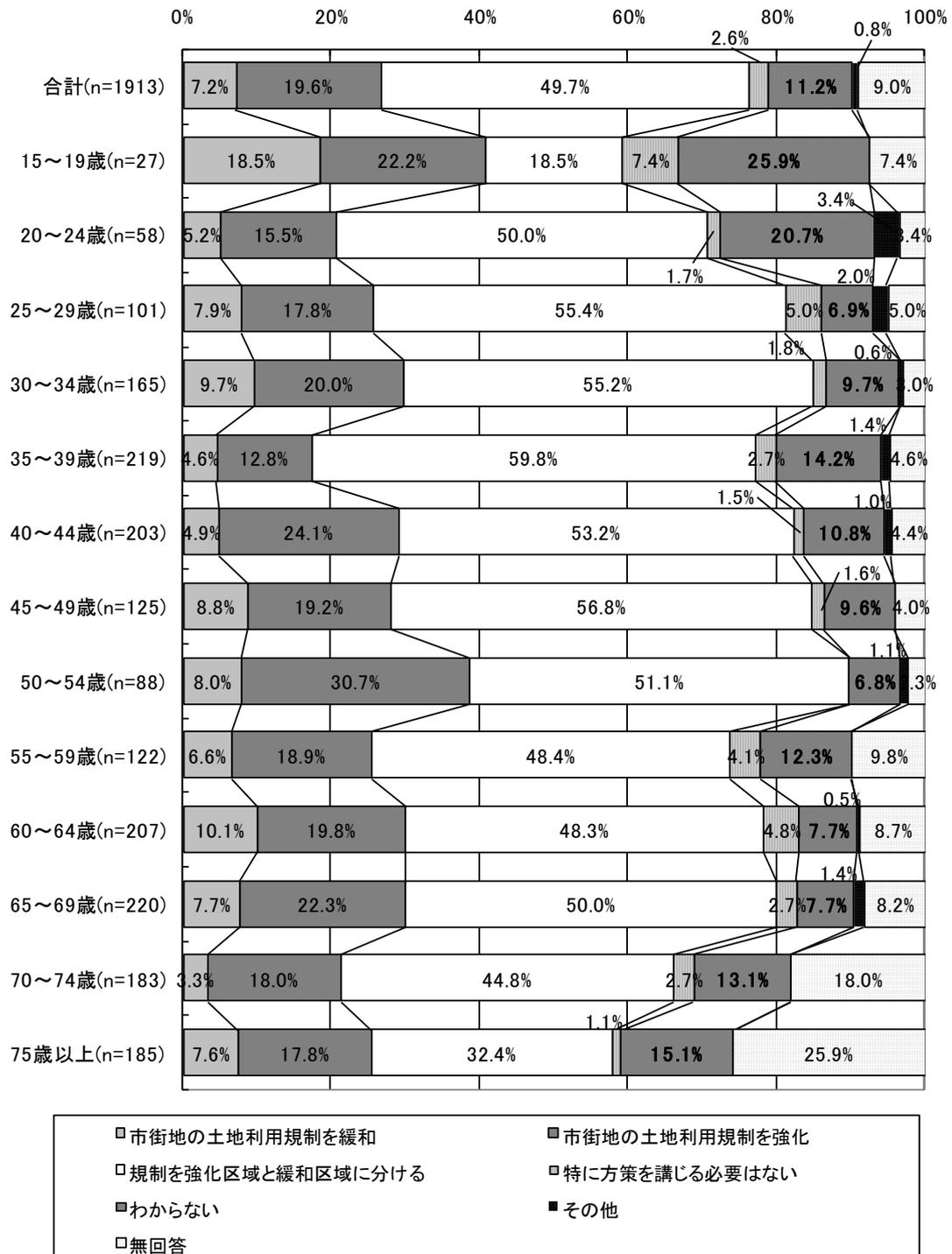
図表III-108 将来の市街地の土地利用方策のあり方(性別)



② 年齢別

- ・ 15～19歳を除き、「規制を強化区域と緩和区域に分ける」が最も高く、特に35～39歳では59.8%と約6割を占めている。
- ・ 15～19歳では、「わからない」(25.9%)を除くと、「市街地の土地利用規制を強化」(22.2%)が最も高いが、同時に「市街地の土地利用規制を緩和」(18.5%)も回答者全体に比べて高くなっており、各項目が拮抗している。

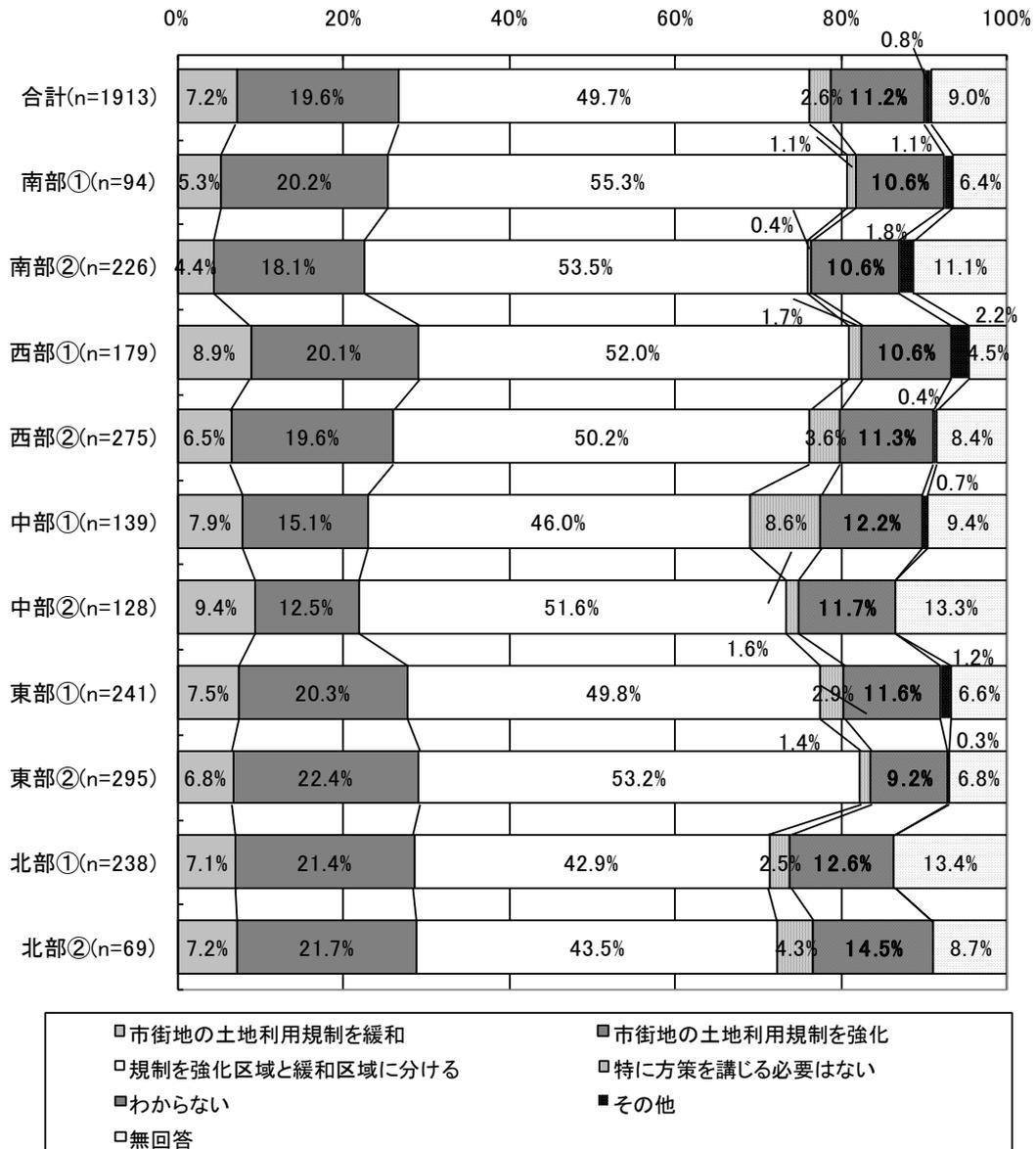
図表III-109 将来の市街地の土地利用方策のあり方(年齢別)



③ 地区別

- 全ての地域において、回答者全体と同様、「規制を強化区域と緩和区域に分ける」が最も高く、次いで「市街地の土地利用規制を強化」となっている。ただし、北部①・②では、「規制を強化区域と緩和区域に分ける」が4割強と回答者全体に比べてやや低い。
- 中部①では、「特に方策を講じる必要はない」(8.6%)が回答者全体に比べて高い。

図表III-110 将来の市街地の土地利用方策のあり方(地区別)



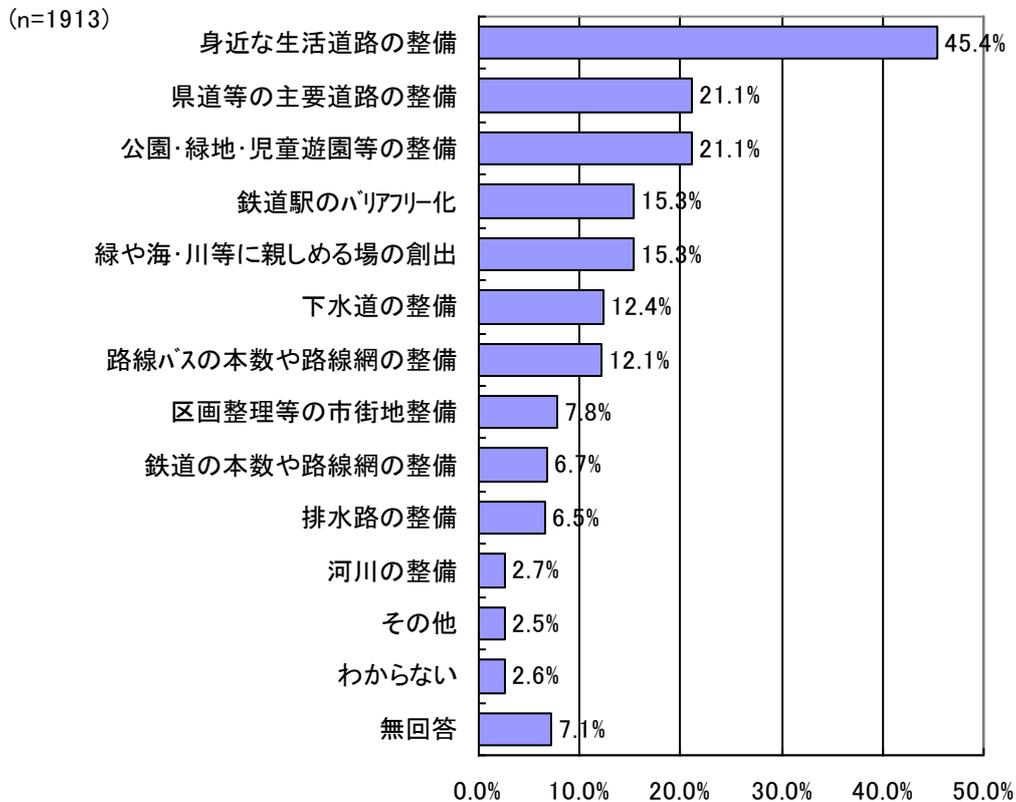
(13) 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点

* 「身近な生活道路の整備」が半数弱、「県道等の主要道路の整備」が2割強と、道路整備への関心が高い。

問 21 市内の、今後の都市基盤整備において、あなたはどのようなところに重点的に投資することが必要と考えますか。次の中から、あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

- ・ 「身近な生活道路の整備」(45.4%)が突出して高く、次いで「県道等の主要道路の整備」(21.1%)および「公園・緑地・児童遊園等の整備」(21.1%)が同率である。今後の都市基盤整備の重点事項として、道路整備への関心が高いことがうかがえる。

図表III-111 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点



① 性別

- ・ 男性は、上位3位の項目は回答者全体と同様であるが、第2位の「県道等の主要道路の整備」（29.0%）の割合が、回答者全体に比べて高い。
- ・ 女性は、「公園・緑地・児童遊園等の整備」（23.0%）が第2位、「鉄道駅のバリアフリー化」（19.2%）が第3位にあげられている。

図表III-112 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	身近な生活道路の整備 44.4%	県道等の主要道路の整備 29.0%	公園・緑地・児童遊園等の整備 20.3%
女性(n=997)	身近な生活道路の整備 48.0%	公園・緑地・児童遊園等の整備 23.0%	鉄道駅のバリアフリー化 19.2%

② 年齢別

- ・ 15～19歳、20～24歳では、「鉄道駅のバリアフリー化」や、「鉄道の本数や路線網の整備」など、鉄道に関する項目が高い。
- ・ 50～59歳では、回答者全体では第6位の「下水道の整備」が2～3位にあげられており、下水道整備への関心が高い。
- ・ 第3位の項目をみると、50～54歳では「鉄道駅のバリアフリー化」、60～64歳および70～74歳では「緑や海・川等に親しめる場の創出」、75歳以上では「路線バスの本数や路線網の整備」があげられている。

図表III-113 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	鉄道駅のバリアフリー化	身近な生活道路の整備 鉄道の本数や路線網の整備	
	37.0%	25.9%	
20～24歳(n=58)	身近な生活道路の整備	鉄道駅のバリアフリー化	鉄道の本数や路線網の整備
	48.3%	24.1%	22.4%
25～29歳(n=101)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	50.5%	29.7%	19.8%
30～34歳(n=165)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	44.2%	27.9%	22.4%
35～39歳(n=219)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	44.7%	27.4%	25.6%
40～44歳(n=203)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	46.8%	30.5%	23.2%
45～49歳(n=125)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備
	52.0%	28.0%	16.8%
50～54歳(n=88)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備 鉄道駅のバリアフリー化 下水道の整備
	45.5%	25.0%	19.3%
55～59歳(n=122)	身近な生活道路の整備	下水道の整備	県道等の主要道路の整備
	48.4%	24.6%	20.5%
60～64歳(n=207)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	緑や海・川等に親しめる場の創出
	44.0%	21.7%	19.8%
65～69歳(n=220)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備
	49.5%	22.7%	20.0%
70～74歳(n=183)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	緑や海・川等に親しめる場の創出
	47.5%	18.0%	16.9%
75歳以上(n=185)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	路線バスの本数や路線網の整備
	35.1%	20.5%	16.8%

③ 地区別

- ・ 南部①・②、西部②、北部②を除き、上位3位までにあげられている項目は、回答者全体と同様である。
- ・ 南部①では「緑や海・川等に親しめる場の創出」、南部②では「鉄道駅のバリアフリー化」、西部②では「下水道の整備」が、2～3位にあげられている。
- ・ また、北部②では、「鉄道の本数や路線網の整備」や「路線バスの本数や路線網の整備」など、交通網に関する項目が高い。

図表III-114 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備 緑や海・川等に親しめる場の創出	
	31.9%	23.4%	
南部②(n=226)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	鉄道駅のバリアフリー化
	41.2%	26.5%	21.7%
西部①(n=179)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	42.5%	25.7%	20.1%
西部②(n=275)	身近な生活道路の整備	下水道の整備	県道等の主要道路の整備
	53.5%	22.2%	21.1%
中部①(n=139)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備
	43.2%	23.7%	21.6%
中部②(n=128)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備
	41.4%	22.7%	16.4%
東部①(n=241)	身近な生活道路の整備	県道等の主要道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備
	52.3%	25.7%	22.4%
東部②(n=295)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	43.1%	23.4%	23.1%
北部①(n=238)	身近な生活道路の整備	公園・緑地・児童遊園等の整備	県道等の主要道路の整備
	49.2%	18.5%	18.1%
北部②(n=69)	身近な生活道路の整備	鉄道の本数や路線網の整備	路線バスの本数や路線網の整備
	44.9%	27.5%	26.1%

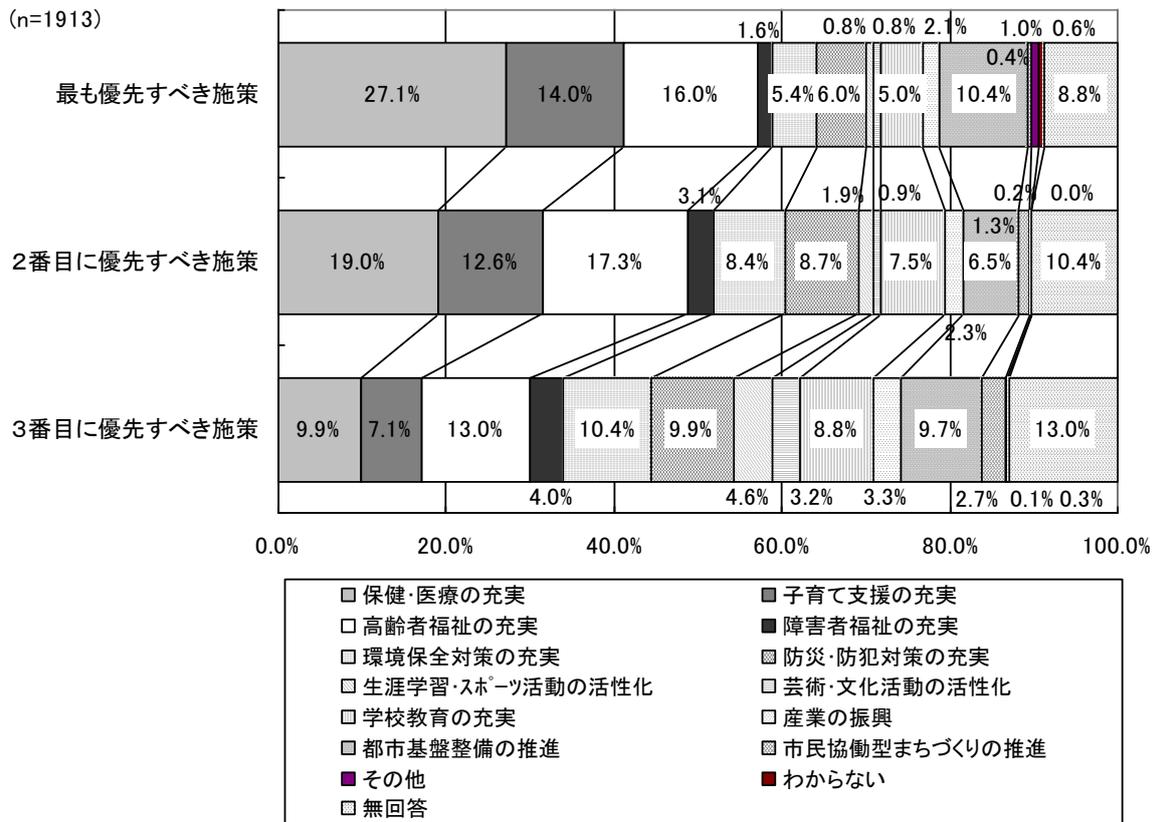
(14) 施策の優先度

*優先度が高い施策は、「保健・医療の充実」、「高齢者福祉の充実」、「子育て支援の充実」など、健康・福祉分野。

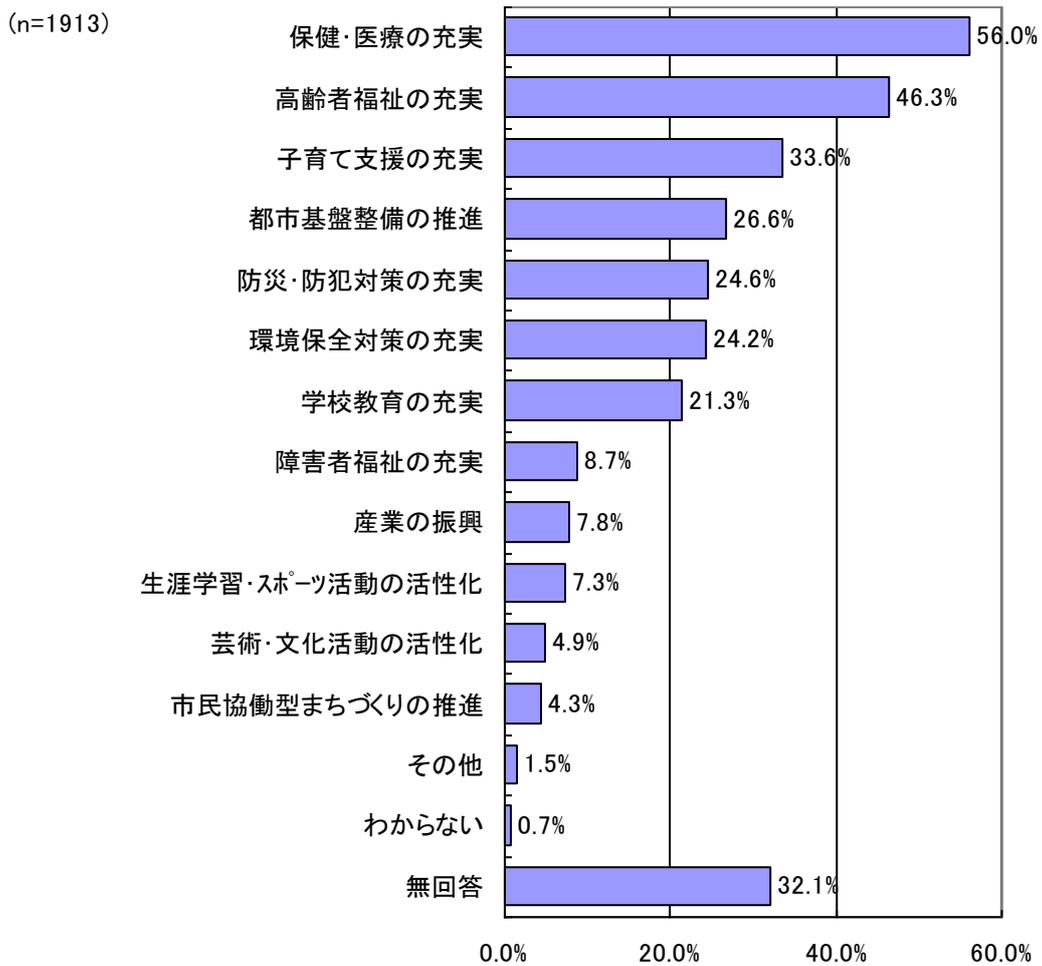
問 22 あなたは今後、市としてはどのような施策に優先的に取り組むべきだと思いますか。次の中から重要と思われるものを順に3つまで選び、回答欄に番号を記入してください。

- ・ 最も優先すべき施策は、「保健・医療の充実」(27.1%)、「高齢者福祉の充実」(16.0%)、「子育て支援の充実」(14.0%)の順となっており、健康・福祉分野が上位3項目を占めている。次いで、「都市基盤整備の推進」(10.4%)があげられている。
- ・ 2番目・3番目に優先すべき施策についても、健康・福祉分野が約3～5割を占めるが、最も優先すべき施策に比べて、「環境保全対策の充実」や「防災・防犯対策の充実」が約1割と高い。
- ・ 上位3位にあげられた項目を集計すると、最も優先すべき施策と同様、「保健・医療の充実」、「高齢者福祉の充実」、「子育て支援の充実」の3項目が高い。

図表III-115 施策の優先度



図表III-116 施策の優先度（上位3位の合計）



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と同様の傾向を示している。
- ・ 「保健・医療の充実」については、女性（29.0%）が男性（23.5%）に比べて高い。

図表III-117 最も優先すべき施策（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	保健・医療の充実 23.5%	高齢者福祉の充実 15.4%	子育て支援の充実 14.0%
女性(n=997)	保健・医療の充実 29.0%	高齢者福祉の充実 16.4%	子育て支援の充実 15.2%

② 年齢別

- ・ 年齢別に最も優先すべき施策をみると、15～19 歳、および子育て世代に該当すると考えられる 25～34 歳では「子育て支援の充実」が最も高く、特に 30～34 歳では 39.4%と約 4 割を占めている。
- ・ また、55～69 歳の高齢者層では、「高齢者福祉の充実」が最も高い。
- ・ 「都市基盤整備の推進」は、60～74 歳を除く全ての年齢階層で上位 3 位以内にあげられている。
- ・ 第 3 位の項目をみると、50～54 歳では「防災・防犯対策の充実」、65～69 歳では「環境保全対策の充実」、70～74 歳では「学校教育の充実」があげられている。

図表 III-118 最も優先すべき施策（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	子育て支援の充実 18.5%	高齢者福祉の充実 都市基盤整備の推進 14.8%	
20～24歳(n=58)	保健・医療の充実 29.3%	都市基盤整備の推進 13.8%	子育て支援の充実 10.3%
25～29歳(n=101)	子育て支援の充実 27.7%	保健・医療の充実 19.8%	都市基盤整備の推進 11.9%
30～34歳(n=165)	子育て支援の充実 39.4%	保健・医療の充実 23.6%	都市基盤整備の推進 13.9%
35～39歳(n=219)	保健・医療の充実 27.4%	子育て支援の充実 22.8%	都市基盤整備の推進 16.0%
40～44歳(n=203)	保健・医療の充実 23.2%	子育て支援の充実 16.3%	都市基盤整備の推進 15.8%
45～49歳(n=125)	保健・医療の充実 37.6%	都市基盤整備の推進 13.6%	高齢者福祉の充実 12.8%
50～54歳(n=88)	保健・医療の充実 34.1%	高齢者福祉の充実 19.3%	防災・防犯対策の充実 都市基盤整備の推進 8.0%
55～59歳(n=122)	高齢者福祉の充実 25.4%	保健・医療の充実 24.6%	都市基盤整備の推進 13.1%
60～64歳(n=207)	保健・医療の充実 高齢者福祉の充実 27.1%		子育て支援の充実 9.7%
65～69歳(n=220)	高齢者福祉の充実 26.4%	保健・医療の充実 24.1%	環境保全対策の充実 10.9%
70～74歳(n=183)	保健・医療の充実 32.2%	高齢者福祉の充実 20.2%	子育て支援の充実 学校教育の充実 7.1%
75歳以上(n=185)	保健・医療の充実 30.8%	高齢者福祉の充実 16.8%	都市基盤整備の推進 5.9%

③ 地区別

- ・ 全ての地区で「保健・医療の充実」が最も優先すべき施策としてあげられている。上位3位の項目は、各地区とも回答者全体と概ね同様である。
- ・ 「都市基盤整備の推進」については、南部①、西部②、中部②、東部①、北部②において、2～3位にあげられている。

図表III-119 最も優先すべき施策（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	保健・医療の充実 30.9%	都市基盤整備の推進 14.9%	子育て支援の充実 高齢者福祉の充実 12.8%
南部②(n=226)	保健・医療の充実 22.6%	子育て支援の充実 18.1%	高齢者福祉の充実 12.4%
西部①(n=179)	保健・医療の充実 27.9%	子育て支援の充実 14.0%	高齢者福祉の充実 12.8%
西部②(n=275)	保健・医療の充実 27.3%	高齢者福祉の充実 16.4%	都市基盤整備の推進 16.0%
中部①(n=139)	保健・医療の充実 31.7%	高齢者福祉の充実 18.7%	子育て支援の充実 13.7%
中部②(n=128)	保健・医療の充実 35.2%	高齢者福祉の充実 13.3%	都市基盤整備の推進 9.4%
東部①(n=241)	保健・医療の充実 22.8%	高齢者福祉の充実 17.4%	子育て支援の充実 都市基盤整備の推進 12.4%
東部②(n=295)	保健・医療の充実 28.8%	子育て支援の充実 20.3%	高齢者福祉の充実 14.2%
北部①(n=238)	保健・医療の充実 27.3%	高齢者福祉の充実 22.3%	子育て支援の充実 11.8%
北部②(n=69)	保健・医療の充実 24.6%	高齢者福祉の充実 21.7%	子育て支援の充実 都市基盤整備の推進 10.1%

5. 船橋市における今後の施設の必要性

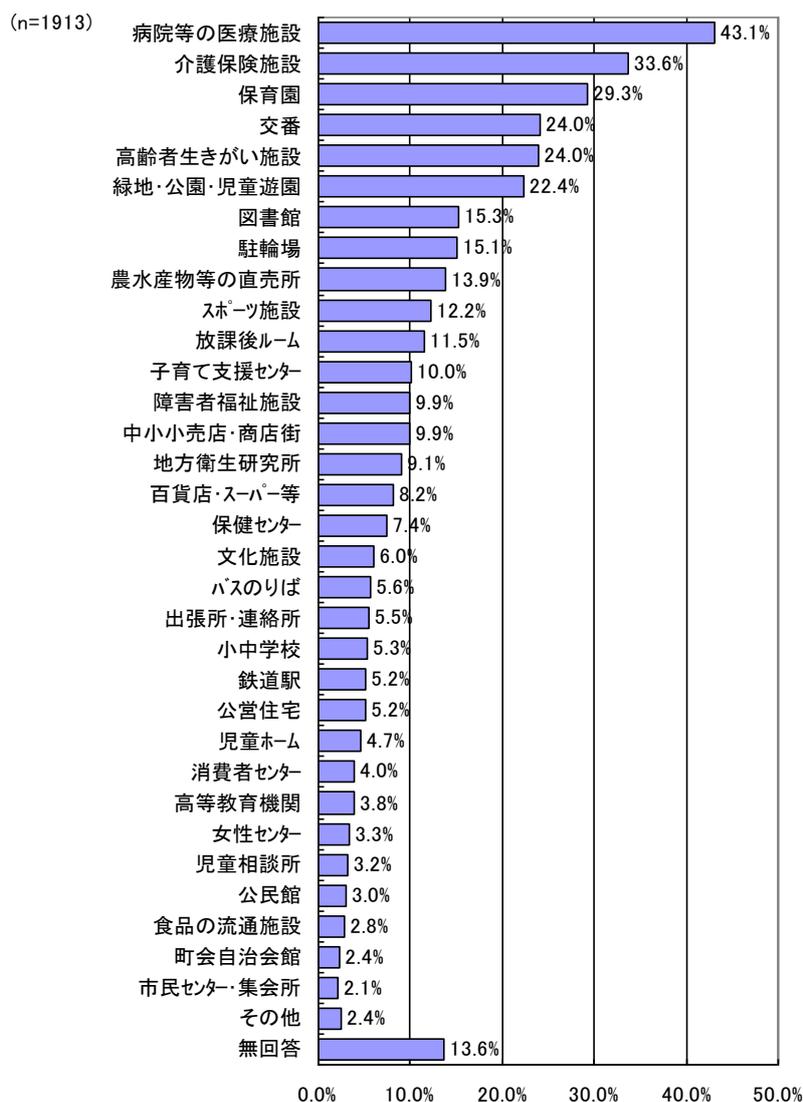
(1) 市内において今後整備の必要性が高い施設

*上位3位は「病院等の医療施設」、「介護保険施設」、「保育園」。

問 23 限りある財源の中では、施設の整備や維持が困難になると予想される中で、船橋市内において、整備の必要性が高いと思われる施設はどれですか。下表から5つまで選び、回答欄にご記入ください。

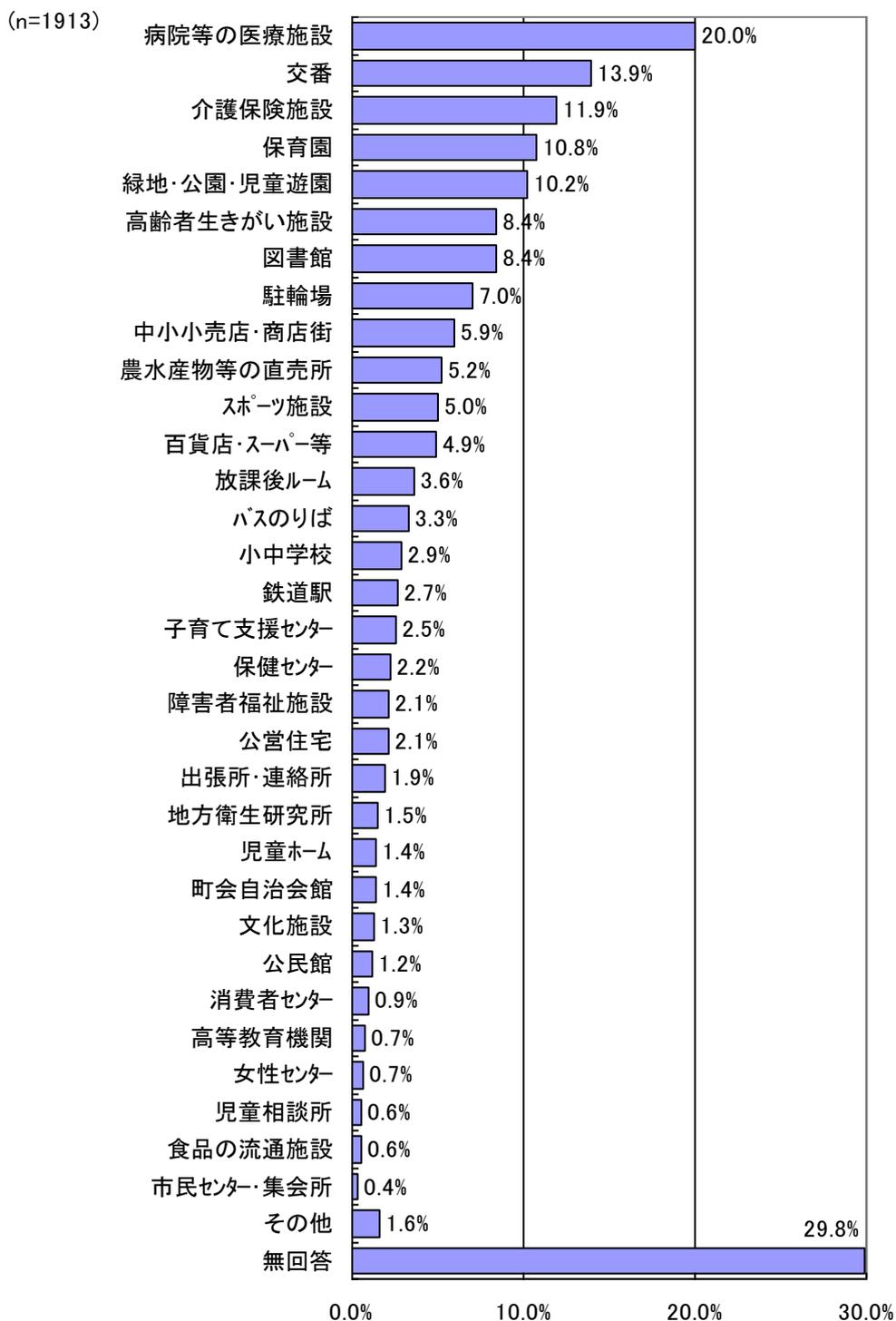
- ・ 今後整備の必要性が高い施設は、「病院等の医療施設」(43.1%)が最も高く、次いで「介護保険施設」(33.6%)、「保育園」(29.3%)となっている。
- ・ 今後整備の必要性が高い施設の上位3位と、施策の優先度(問22)の上位3位(1位「保健・医療の充実」、2位「高齢者福祉の充実」、3位「子育て支援の充実」)が一致する結果となっている。

図表III-120 今後整備の必要性が高い施設



- このうち、「特に近所に必要な施設」をみると、同じく「病院等の医療施設」(20.0%)が最も高い。次いで「交番」(13.9%)、「介護保険施設」(11.9%)、「保育園」(10.8%)など、生活の安全・安心にかかる施設や、福祉関連施設が上位にあげられている。

図表III-121 特に近所に必要な施設



- ・ 船橋市内に、今後整備の必要性が高いと考える理由について、施設ごとの主な意見の抜粋を以下に掲載する。
- ・ 今後整備の必要性が高いとされる福祉関連施設（保育園、介護保険施設、高齢者生きがい施設等）や、生活の安全・安心にかかる施設（病院等の医療施設、交番等）をみると、前者については共働き世帯の増加や、高齢化の進展に伴う施設利用ニーズの増加、後者については現在、近所に充実したサービスがないことなどが主な意見としてあげられている。

図表III-122 今後、整備の必要性が高いと考える理由（主な意見の抜粋）

	施設名	今後、整備の必要性が高いと考える理由(主な意見の抜粋)
1	保育園	・不況に伴う共働きニーズ増加で、待機児童の増加が起きている為 ・少子化対策
2	子育て支援センター	・核家族が多いため、子育ての相談する場が手近に必要 ・少子化対策
3	放課後ルーム	・共働き支援のため ・施設の拡充や時間の拡大が必要
4	児童ホーム	・子どもが安心して遊べる場所が少ないから ・小学校入学後、放課後ルームに入れなかったり、高学年になった時、子供が安全に親の帰宅を待てる施設がない
5	児童相談所	・船橋市内に欲しい ・市内にないため、子どもの虐待防止のため
6	介護保険施設	・高齢者が増えていくので必要 ・現在明らかに不足しており、要介護の方のご家族の負担も大きいと思うため
7	高齢者生きがい施設	・高齢者が増えていくので必要 ・高齢者が増えていく中、交流の場を作り、孤独にさせない
8	障害者福祉施設	・数が少ないように思う。弱者支援 ・弱者にやさしい、暮らしやすい街にしてほしい
9	女性センター	・DV相談 ・主婦の孤立防止
10	病院等の医療施設	・近所に医療施設の良いものが無いから ・市立医療センター、総合病院、中央病院を中心に、診療の待ち時間が非常に長時間に及び、問題となっています ・休日・夜間の医療体制を充実させてほしい
11	保健センター	・気軽に相談したい ・中央にできるまでに時間がかかる。交通の便が悪い
12	地方衛生研究所	・インフルを含む感染症に早期に対応出来る ・安全面からと命に係ることなので
13	出張所・連絡所	・交通機関を利用して、行かなくてはならないため ・役所手続きをするのにいつも困る
14	緑地・公園・児童遊園	・近所に広くて、子供を安心して遊ばせることのできる場所がない為 ・近くに小さな公園はあるが、大きな公園があまりない ・緑地が住宅に変わり環境が壊されている
15	小中学校	・マンション建設ラッシュで教室が不足している。校舎が古い。運動場が狭い。体育館も古く狭い。災害時の避難場所になっているが、入れる訳がない ・施設(建物)の老朽化が目立つため ・通学範囲が広すぎる

	施設名	今後、整備の必要性が高いと考える理由(主な意見の抜粋)	
16	高等教育機関	・市内に良い高校や大学があれば、遠いところまで行かなくて済む ・教育の充実	
17	文化施設	・船橋市は特に芸術、文化施設が少ない ・音楽ホールをもっと良いものにして欲しい	
18	公民館	・利用者の割に施設が小さい ・行くのに不便な所がある	
19	図書館	・近くに(歩ける範囲で)ない ・開館時間、蔵書量の充実した図書館が少なすぎる ・図書室が公民館にあるが、充実していない。時間が短い	
20	市民センター・集会所	・気軽に市民が使用できる施設の増設 ・小グループでの会合の場所	
21	町会自治会館	・町会の自治会館がないため ・集會に不便を感じている	
22	駐輪場	・駅前の路上駐輪が多いため。道を塞ぎ、交通の妨げになっている ・自転車ですらまで行きたいが、駐輪場が少ない。抽選でもまれることが多い	
23	交番	・治安の悪化の為 ・近所に交番がないため ・駅前だけではなく住宅地に必要	
24	スポーツ施設	・健康の維持増進のため ・ボール遊びができる公園が少ないため ・気軽に、誰でも使える施設が少ない	
25	中小小売店・商店街	・小売店がなくなり、近所で買い物ができない ・地域の活性化につながる為 ・大半のチェーン店ばかりで優良な個人店が無い	
26	百貨店・スーパー等	・家からの徒歩圏に、大型(中型)スーパーがないので、切望します ・現在、空き店舗が多く、活気がないので	
27	農水産物等の直売所	・新鮮な品が手に入るから(地産地消) ・安全な食材の提供を求む。価格も安く	
28	食品の流通施設	・新鮮で安値な食の確保 ・安価に地元の食材を入手したい	
29	消費者センター	・消費者にとって、何かあった場合、すぐ相談できる ・食品の疑問やお金がらみのことなど、相談に乗っていただきたい	
30	バスのりば	・駅まで遠いがバスが走っていない。困っている年寄りが多い ・マンション、住宅が増えたのに、バスの本数が増えない。終バスも早い	
31	鉄道駅	・エレベーターがなく、障害者、高齢者、乳幼児の生活が不便(南船橋駅) ・徒歩圏内に鉄道駅がなく、通勤・通学に不便なため	
32	公営住宅	・年収が低下しているため、安い家賃の方が良い ・住宅に入居したくても、なかなか入れない。何回抽選しても当たらない状況	
33	その他	市立の幼稚園(7件)	・私立幼稚園しかない、月謝が高い。 ・幼稚園が少ない。入るのが大変。
		市民農園(2件)	・身近な農園作業は、これから需要が伸びると思うし、市民交流の場や食の安全性に対する関心からも利用価値があると思う。
		街灯(2件)	・駅前以外は全体的に暗めなので、もう少し街灯を増やして欲しいです。(車通りを含めて、危険と感じる道が多いように思います。)

① 性別

- ・ 今後整備の必要性が高い施設を性別にみると、女性は、回答者全体と同様の傾向である。一方、男性では「交番」（27.5%）が第3位にあげられている。
- ・ また、特に近所に必要な施設を性別にみると、男性では「緑地・公園・児童遊園」（11.3%）が第3位に、女性では「保育園」（13.1%）が第2位にあげられている。

図表III-123 今後整備の必要性が高い施設（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	病院等の医療施設 42.3%	介護保険施設 32.1%	交番 27.5%
女性(n=997)	病院等の医療施設 44.2%	介護保険施設 34.1%	保育園 33.2%

図表III-124 特に近所に必要な施設（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	病院等の医療施設 19.2%	交番 16.2%	緑地・公園・児童遊園 11.3%
女性(n=997)	病院等の医療施設 20.7%	保育園 13.1%	介護保険施設 11.9%

② 年齢別

- ・ 今後整備の必要性が高い施設としては、子育て世代に該当する 20～24 歳および 30～34 歳では「保育園」が最も高く、特に 30～34 歳では 57.0%と非常に高い。また、55～64 歳では「介護保険施設」が最も高い。
- ・ 45～49 歳および 55 歳以上では、「高齢者生きがい施設」が 2～3 位にあげられている。そのほか、15～19 歳では「駐輪場」、25～39 歳および 50～54 歳では「緑地・公園・児童遊園」2～3 位にあげられている。
- ・ 特に近所に必要な施設としては、15～34 歳では「保育園」が高く、特に 30～34 歳では、35.8%となっている。また、65～69 歳では「高齢者生きがい施設」が最も高い。
- ・ 上位 2～3 位の項目をみると、25～49 歳の各年齢階層では「緑地・公園・児童遊園」が、20～24 歳および 50～54 歳では「駐輪場」が、45～54 歳では「図書館」があげられている。

図表III-125 今後整備の必要性が高い施設（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	病院等の医療施設 33.3%	保育園 駐輪場	29.6%
20～24歳(n=58)	保育園 39.7%	病院等の医療施設 34.5%	介護保険施設 24.1%
25～29歳(n=101)	病院等の医療施設 50.5%	保育園 41.6%	緑地・公園・児童遊園 31.7%
30～34歳(n=165)	保育園 57.0%	病院等の医療施設 39.4%	緑地・公園・児童遊園 29.7%
35～39歳(n=219)	病院等の医療施設 51.1%	保育園 38.8%	緑地・公園・児童遊園 30.1%
40～44歳(n=203)	病院等の医療施設 48.8%	介護保険施設 35.5%	保育園 30.0%
45～49歳(n=125)	病院等の医療施設 47.2%	介護保険施設 40.0%	高齢者生きがい施設 25.6%
50～54歳(n=88)	病院等の医療施設 48.9%	介護保険施設 42.0%	緑地・公園・児童遊園 25.0%
55～59歳(n=122)	介護保険施設 42.6%	病院等の医療施設 36.9%	高齢者生きがい施設 29.5%
60～64歳(n=207)	病院等の医療施設 介護保険施設		高齢者生きがい施設 31.9%
65～69歳(n=220)	病院等の医療施設 40.0%	介護保険施設 高齢者生きがい施設	37.3%
70～74歳(n=183)	病院等の医療施設 39.3%	介護保険施設 36.1%	高齢者生きがい施設 30.1%
75歳以上(n=185)	病院等の医療施設 35.7%	介護保険施設 28.1%	高齢者生きがい施設 22.7%

図表III-126 特に近所に必要な施設（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	保育園		
	病院等の医療施設 交番 14.8%		
20～24歳(n=58)	保育園 19.0%	病院等の医療施設 15.5%	駐輪場 12.1%
	25～29歳(n=101)	緑地・公園・児童遊園 15.8%	病院等の医療施設 14.9%
30～34歳(n=165)	保育園 35.8%	病院等の医療施設 20.6%	緑地・公園・児童遊園 15.8%
	35～39歳(n=219)	病院等の医療施設 23.7%	緑地・公園・児童遊園 17.4%
40～44歳(n=203)	病院等の医療施設 23.6%	交番 17.7%	緑地・公園・児童遊園 15.3%
	45～49歳(n=125)	病院等の医療施設 24.8%	図書館 13.6%
50～54歳(n=88)	病院等の医療施設 22.7%	図書館 駐輪場 11.4%	
	55～59歳(n=122)	病院等の医療施設 18.0%	介護保険施設 交番 13.9%
60～64歳(n=207)	病院等の医療施設 22.2%	介護保険施設 18.4%	交番 17.9%
	65～69歳(n=220)	高齢者生きがい施設 20.5%	病院等の医療施設 18.2%
70～74歳(n=183)	病院等の医療施設 18.6%	介護保険施設 16.4%	交番 14.2%
	75歳以上(n=185)	介護保険施設 交番 14.1%	病院等の医療施設 13.5%

③ 地区別

- ・ 今後整備の必要性が高い施設は、回答者全体と概ね同様の傾向である。
- ・ ただし、東部②では「介護保険施設」が最も高いほか、南部①、中部①、北部②では「交番」が、東部①、北部①では「高齢者生きがい施設」が2～3位にあげられている。
- ・ 特に近所に必要な施設は、地区ごとにややばらつきがみられる。
- ・ 中部①、北部①では、回答者全体の傾向と異なり「交番」が最も高い。また、2～3位の項目をみると、南部①・②、西部①、中部②では「緑地・公園・児童遊園」、中部②、東部①では「図書館」、西部①では「駐輪場」があげられている。

図表III-127 今後整備の必要性が高い施設（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	病院等の医療施設 52.1%	交番 39.4%	保育園 34.0%
南部②(n=226)	病院等の医療施設 38.1%	介護保険施設 35.0%	保育園 31.4%
西部①(n=179)	病院等の医療施設 48.0%	保育園 34.1%	介護保険施設 33.0%
西部②(n=275)	病院等の医療施設 49.1%	介護保険施設 32.7%	保育園 32.0%
中部①(n=139)	病院等の医療施設 46.0%	交番 33.1%	保育園 介護保険施設 25.9%
中部②(n=128)	病院等の医療施設 44.5%	保育園 26.6%	介護保険施設 24.2%
東部①(n=241)	病院等の医療施設 44.0%	介護保険施設 37.8%	高齢者生きがい施設 28.2%
東部②(n=295)	介護保険施設 38.6%	病院等の医療施設 37.3%	保育園 31.2%
北部①(n=238)	病院等の医療施設 39.1%	介護保険施設 36.1%	高齢者生きがい施設 29.0%
北部②(n=69)	病院等の医療施設 46.4%	介護保険施設 37.7%	交番 30.4%

図表III-128 特に近所に必要な施設（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	病院等の医療施設 34.0%	交番 25.5%	緑地・公園・児童遊園 17.0%
南部②(n=226)	病院等の医療施設 17.3%	緑地・公園・児童遊園 13.3%	保育園 11.5%
西部①(n=179)	病院等の医療施設 23.5%	駐輪場 17.3%	緑地・公園・児童遊園 14.5%
西部②(n=275)	病院等の医療施設 23.6%	交番 13.8%	保育園 介護保険施設 12.4%
中部①(n=139)	交番 22.3%	病院等の医療施設 19.4%	介護保険施設 15.1%
中部②(n=128)	病院等の医療施設 19.5%	緑地・公園・児童遊園 14.1%	図書館 11.7%
東部①(n=241)	病院等の医療施設 18.3%	図書館 17.0%	交番 14.1%
東部②(n=295)	病院等の医療施設 18.0%	保育園 12.9%	交番 12.5%
北部①(n=238)	交番 16.0%	病院等の医療施設 15.1%	介護保険施設 13.4%
北部②(n=69)	病院等の医療施設 21.7%	交番 17.4%	介護保険施設 15.9%

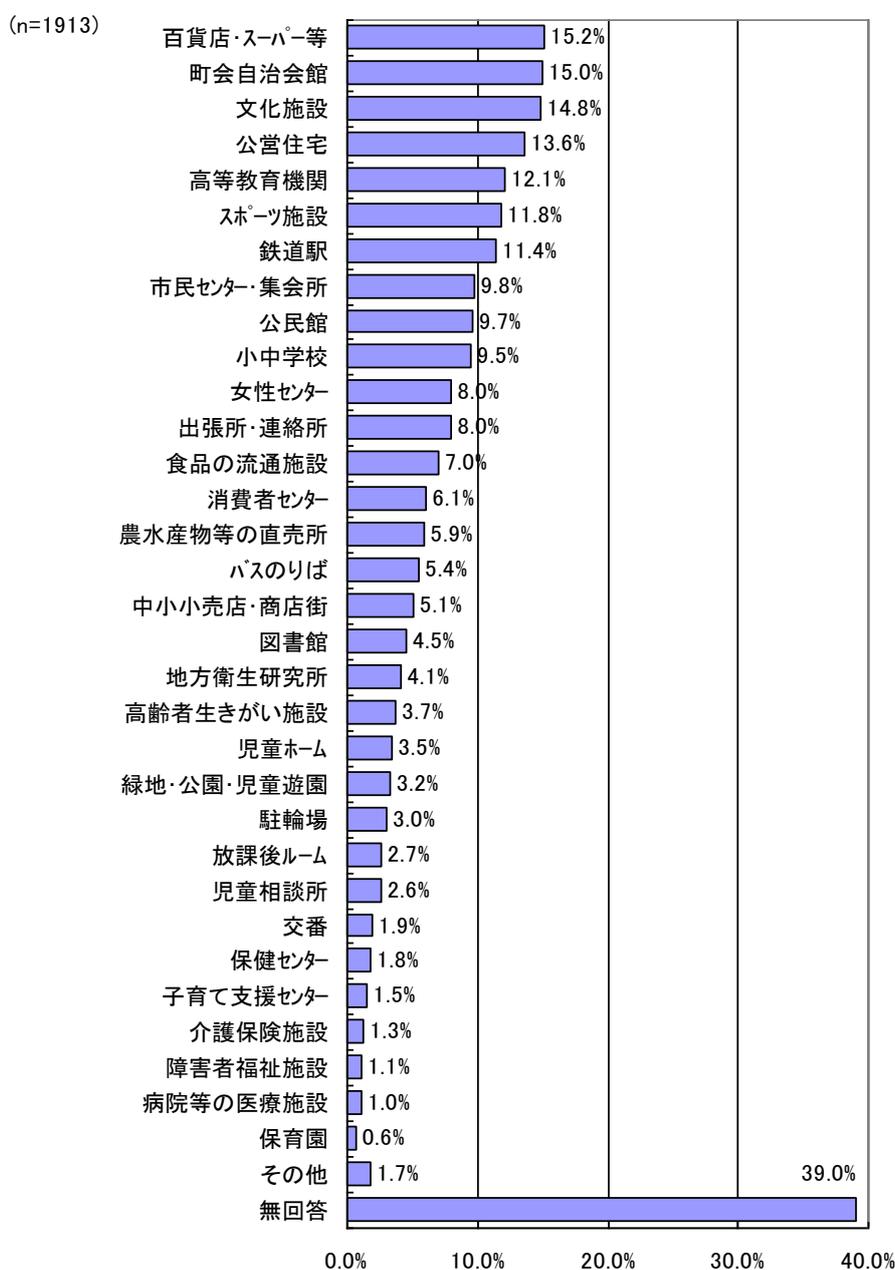
(2) 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設

*上位3位は「百貨店・スーパー」、「町会自治会館」、「文化施設」。

問 23 限りある財源の中では、施設の整備や維持が困難になると予想される中で、船橋市内において、必要性が低い、または縮小することもやむを得ないと思う施設はどれですか。下表から5つまで選び、回答欄にご記入ください。

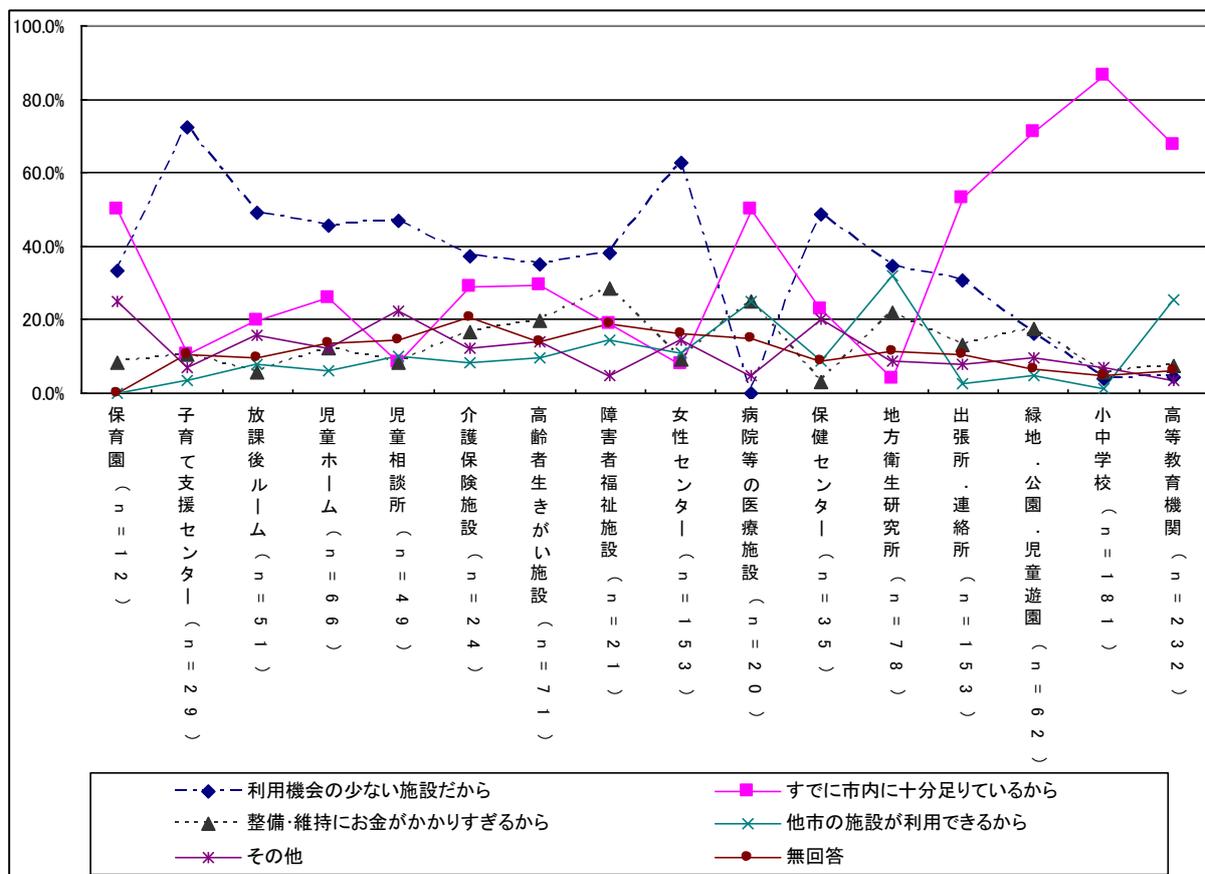
- ・ 今後整備の必要性が低い、または縮小することもやむを得ないと思う施設は、「百貨店・スーパー」(15.2%)、「町会自治会館」(15.0%)、「文化施設」(14.8%)が上位である。各項目間の差は比較的小さく、突出した項目はみられない。

図表III-129 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設



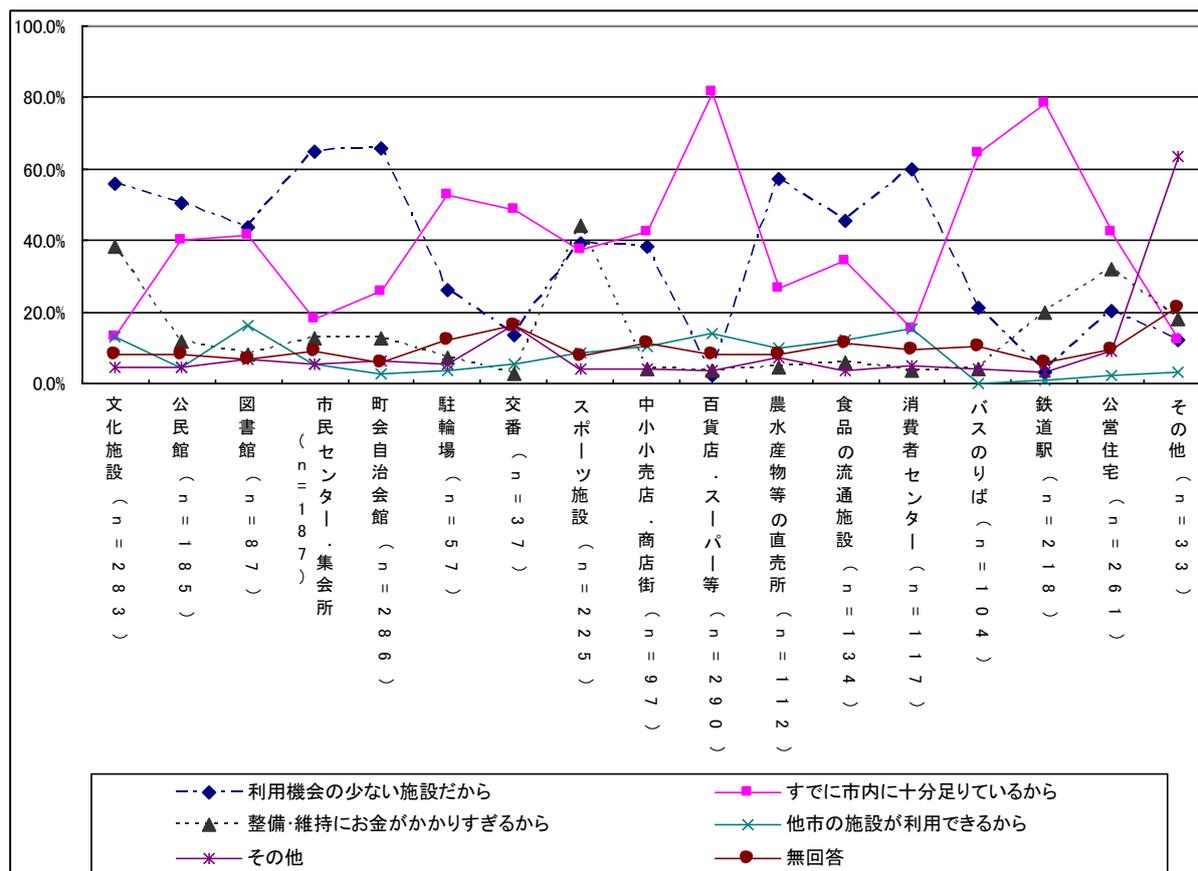
- ・ 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと考える理由（保育園～高等教育機関）をみると、「小中学校」「高等教育機関」「緑地・公園・児童遊園」などは、「すでに市内に十分足りているから」が高い。
- ・ 一方、「子育て支援センター」「女性センター」「保健センター」などは、「利用機会の少ない施設だから」が高い。
- ・ そのほか、「地方衛生研究所」や「高等教育機関」は「他市の施設が利用できるから」、「障害者福祉施設」や「病院等の医療施設」は「整備・維持にお金がかかりすぎるから」が比較的高い。

図表III-130 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと考える理由
(保育園～高等教育機関)



- ・ 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと考える理由（文化施設～その他）をみると、「百貨店・スーパー等」「鉄道駅」「バスのりば」などは、「すでに市内に十分足りているから」が高い。
- ・ また、「町会自治会館」「市民センター・集会所」「消費者センター」「農水産物等の直売所」は「利用機会の少ない施設だから」、「スポーツ施設」「文化施設」は「整備・維持にお金がかかりすぎるから」が比較的高い。

図表III-131 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと考える理由
(文化施設～その他)



① 性別

- ・ 男女とも、上位3位の項目は、回答者全体と概ね同様である。
- ・ 男性は、「公営住宅」（16.2%）が第3位となっている。

図表III-132 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	町会自治会館 17.2%	百貨店・スーパー等 16.5%	公営住宅 16.2%
女性(n=997)	文化施設 14.9%	町会自治会館 百貨店・スーパー等	14.2%

② 年齢別

- ・ 15～49 歳までの年齢階層では、「公民館」や「町会自治会館」、「市民センター・集会所」などの集会施設や、「文化施設」が上位 3 位以内に比較的多くあげられている。
- ・ 一方、50 歳以上では、「百貨店・スーパー等」が 1～2 位となっている。また、50 歳代および 70～74 歳では「スポーツ施設」が上位 3 位以内にあげられている。
- ・ そのほか、15～19 歳、45～64 歳および 75 歳以上で「高等教育機関」、25～34 歳、40～44 歳、50～54 歳、65 歳以上で「公営住宅」があげられている。

図表III-133 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	文化施設 25.9%	公民館 22.2%	高等教育機関 18.5%
20～24歳(n=58)	公民館 20.7%	町会自治会館 15.5%	出張所・連絡所 文化施設 百貨店・スーパー等 13.8%
25～29歳(n=101)	町会自治会館 21.8%	公営住宅 17.8%	百貨店・スーパー等 15.8%
30～34歳(n=165)	文化施設 22.4%	町会自治会館 21.8%	公営住宅 19.4%
35～39歳(n=219)	文化施設 26.0%	町会自治会館 18.3%	市民センター・集会所 15.5%
40～44歳(n=203)	町会自治会館 25.6%	市民センター・集会所 21.2%	公営住宅 16.7%
45～49歳(n=125)	町会自治会館 22.4%	鉄道駅 19.2%	高等教育機関 文化施設 公民館 18.4%
50～54歳(n=88)	百貨店・スーパー等 18.2%	高等教育機関 町会自治会館 スポーツ施設 公営住宅 14.8%	
55～59歳(n=122)	高等教育機関 スポーツ施設 百貨店・スーパー等 17.2%		
60～64歳(n=207)	高等教育機関 14.0%	百貨店・スーパー等 13.5%	文化施設 13.0%
65～69歳(n=220)	百貨店・スーパー等 15.9%	公営住宅 13.6%	鉄道駅 12.7%
70～74歳(n=183)	百貨店・スーパー等 17.5%	公営住宅 13.1%	スポーツ施設 12.6%
75歳以上(n=185)	百貨店・スーパー等 15.7%	公営住宅 13.5%	高等教育機関 11.4%

③ 地区別

- 最も高い項目は、南部①、西部②、北部①・②では「文化施設」、南部②、東部①・②では「百貨店・スーパー等」、南部①、中部②では「公営住宅」、西部①では「町会自治会館」、中部①では「スポーツ施設」と、地区ごとにばらつきがみられる。
- 同様に、2～3位の項目についても地区ごとにばらつきがあり、回答者全体の傾向と異なるものとして、西部②、東部①、北部①では「高等教育機関」、北部②では「小中学校」、西部②、東部②、北部①では「公営住宅」、東部①、北部②では「スポーツ施設」、南部②では「鉄道駅」があげられている。

図表III-134 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	文化施設	町会自治会館	14.9%
	公営住宅		
南部②(n=226)	百貨店・スーパー等	町会自治会館	鉄道駅
	20.4%	16.4%	15.5%
西部①(n=179)	町会自治会館	文化施設	百貨店・スーパー等
	19.6%	15.6%	15.1%
西部②(n=275)	文化施設	町会自治会館	高等教育機関
	21.8%	16.7%	公営住宅
中部①(n=139)	スポーツ施設	文化施設	百貨店・スーパー等
	16.5%	15.1%	12.9%
中部②(n=128)	公営住宅	町会自治会館	百貨店・スーパー等
	15.6%	14.8%	12.5%
東部①(n=241)	百貨店・スーパー等	スポーツ施設	高等教育機関
	20.7%	17.8%	17.0%
東部②(n=295)	百貨店・スーパー等	公営住宅	町会自治会館
	17.6%	16.9%	スポーツ施設
北部①(n=238)	文化施設	高等教育機関	公営住宅
	14.3%	12.6%	11.8%
北部②(n=69)	文化施設	小中学校	14.5%
	18.8%	町会自治会館	
		スポーツ施設	

6. 地域活動の取り組みについて

(1) 日頃から地域で取り組んでいる活動

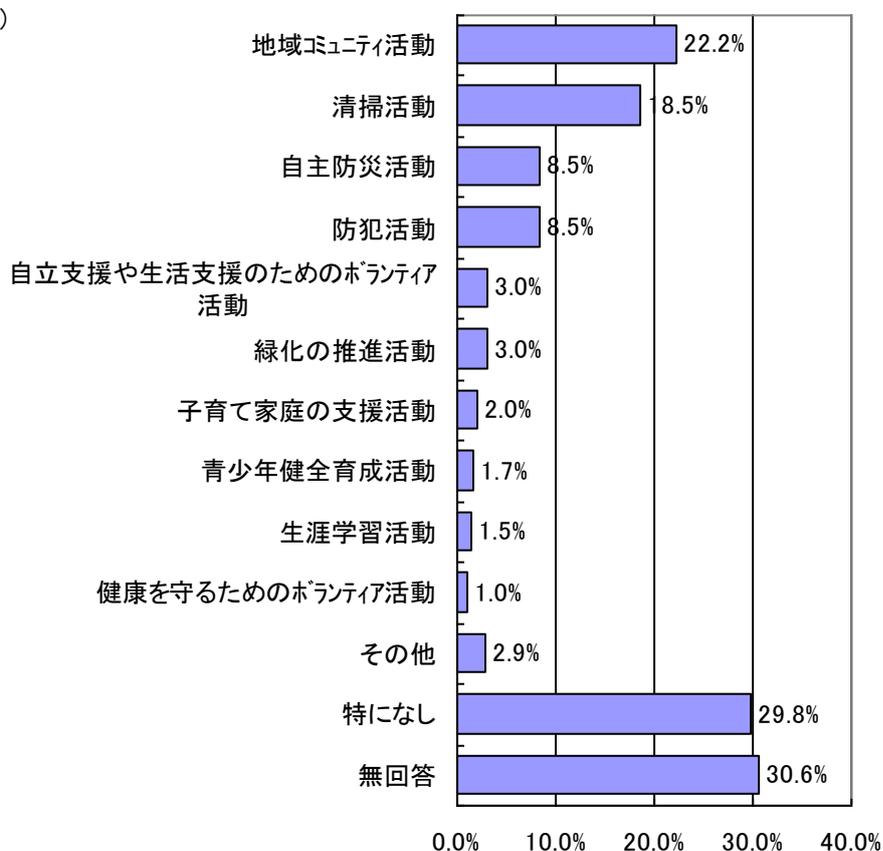
* 「地域コミュニティ活動」と「清掃活動」が高い。一方、「特になし」も3割。

問 24 あなたが日頃から地域で取り組んでいる活動について、下記の中からあてはまるものをすべて選び、回答欄①（現在）に○をつけてください。

- ・ 日頃から地域で取り組んでいる活動は、「地域コミュニティ活動」（22.2%）、「清掃活動」（18.5%）が高い。
- ・ 一方、「特になし」も 29.8%と、地域活動に特に参加していない層が3割存在する。

図表III-135 日頃から地域で取り組んでいる活動

(n=1913)



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と同様の傾向である。
- ・ 男性に比べると、女性の方が地域活動に参加している割合が高い。

図表III-136 日頃から地域で取組んでいる活動（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	32.4%	19.9%	15.9%
女性(n=997)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	30.1%	23.3%	20.4%

② 年齢別

- ・ 60 歳以上では「地域コミュニティ活動」が最も高くなっており、定年後、地域での活動に関わる人が増えていることがわかる。さらに、65 歳以上では第 2 位が「清掃活動」で、「特になし」は第 3 位となっている。
- ・ 59 歳以下では「特になし」が最も高く、特に 20～34 歳および 45～54 歳では「特になし」が 4 割以上と、地域活動に参加している割合が低い。また、34 歳以下では 2～3 位の項目（取組んでいる活動）の割合も 1 割前後にとどまる。
- ・ 第 3 位の項目をみると、15～19 歳では「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」（7.4%）や「緑化の推進活動」（7.4%）、35～39 歳では「防犯活動」（16.0%）があげられている。

図表 III-137 日頃から地域で取組んでいる活動（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	特になし	地域コミュニティ活動	自立支援や生活支援のためのボランティア活動 緑化の推進活動 清掃活動
	33.3%	11.1%	7.4%
20～24歳(n=58)	特になし	清掃活動 地域コミュニティ活動	
	44.8%		8.6%
25～29歳(n=101)	特になし	清掃活動 地域コミュニティ活動	
	40.6%		8.9%
30～34歳(n=165)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	40.6%	13.3%	12.7%
35～39歳(n=219)	特になし	清掃活動	防犯活動
	38.8%	17.4%	16.0%
40～44歳(n=203)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	34.0%	22.2%	19.7%
45～49歳(n=125)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	41.6%	21.6%	14.4%
50～54歳(n=88)	特になし	清掃活動	地域コミュニティ活動
	40.9%	21.6%	18.2%
55～59歳(n=122)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	29.5%	28.7%	22.1%
60～64歳(n=207)	地域コミュニティ活動	特になし	清掃活動
	26.6%	26.1%	19.8%
65～69歳(n=220)	地域コミュニティ活動	清掃活動	特になし
	35.0%	25.0%	17.7%
70～74歳(n=183)	地域コミュニティ活動	清掃活動	特になし
	30.6%	25.7%	14.8%
75歳以上(n=185)	地域コミュニティ活動	清掃活動	特になし
	22.7%	16.8%	15.7%

③ 地区別

- ・ 中部②、北部①では「地域コミュニティ活動」が、北部②では「清掃活動」が最も高い。また、これらの地区では、「特になし」の割合がいずれも2割前後であり、他地区と比べて低い。一方、南部①では「特になし」が42.6%と4割以上である。
- ・ 日頃から取組んでいる活動は、各地区とも「地域コミュニティ活動」と「清掃活動」が高いが、南部①では第2位に「防犯活動」（10.6%）があげられている。

図表III-138 日頃から地域で取組んでいる活動（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	特になし 42.6%	防犯活動 10.6%	清掃活動 9.6%
南部②(n=226)	特になし 28.3%	地域コミュニティ活動 15.9%	清掃活動 11.9%
西部①(n=179)	特になし 36.9%	地域コミュニティ活動 12.8%	清掃活動 12.3%
西部②(n=275)	特になし 31.6%	地域コミュニティ活動 20.4%	清掃活動 18.9%
中部①(n=139)	特になし 29.5%	地域コミュニティ活動 28.1%	清掃活動 19.4%
中部②(n=128)	地域コミュニティ活動 29.7%	特になし 23.4%	清掃活動 22.7%
東部①(n=241)	特になし 29.9%	地域コミュニティ活動 27.0%	清掃活動 17.4%
東部②(n=295)	特になし 32.2%	地域コミュニティ活動 20.3%	清掃活動 20.0%
北部①(n=238)	地域コミュニティ活動 29.8%	特になし 23.1%	清掃活動 22.7%
北部②(n=69)	清掃活動 40.6%	地域コミュニティ活動 34.8%	特になし 18.8%

④ 職業別

- ・ 会社員、公務員では「特になし」が4割以上と高い。
- ・ 自営業・自由業では「清掃活動」、専業主婦・主夫、無職では「地域コミュニティ活動」が回答者全体の傾向とは異なり、最も高い。
- ・ 学生では、「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」（6.3%）が第2位にあげられている。

図表III-139 日頃から地域で取組んでいる活動（職業別）

	1位	2位	3位
会社員(n=552)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	40.6%	13.8%	13.2%
公務員(n=62)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	45.2%	19.4%	14.5%
パート・アルバイト・契約社員(n=273)	特になし	地域コミュニティ活動	清掃活動
	29.3%	23.1%	19.0%
自営業・自由業(n=115)	清掃活動	地域コミュニティ活動	特になし
	25.2%	23.5%	16.5%
学生(n=48)	特になし	自立支援や生活支援のためのボランティア活動	
	39.6%	地域コミュニティ活動	6.3%
専業主婦・主夫(n=417)	地域コミュニティ活動	特になし	清掃活動
	29.7%	23.7%	23.3%
無職(n=368)	地域コミュニティ活動	特になし	清掃活動
	29.3%	22.3%	20.7%
その他(n=53)	特になし	清掃活動	自主防災活動
	30.2%	22.6%	15.1%

注) 職業のうち、「農・漁業」は6サンプルと回答者数が少なく、クロス分析が統計的意義を持つ数字とまらないため、掲載していない。

(2) 今後地域で取り組みたいと思う活動

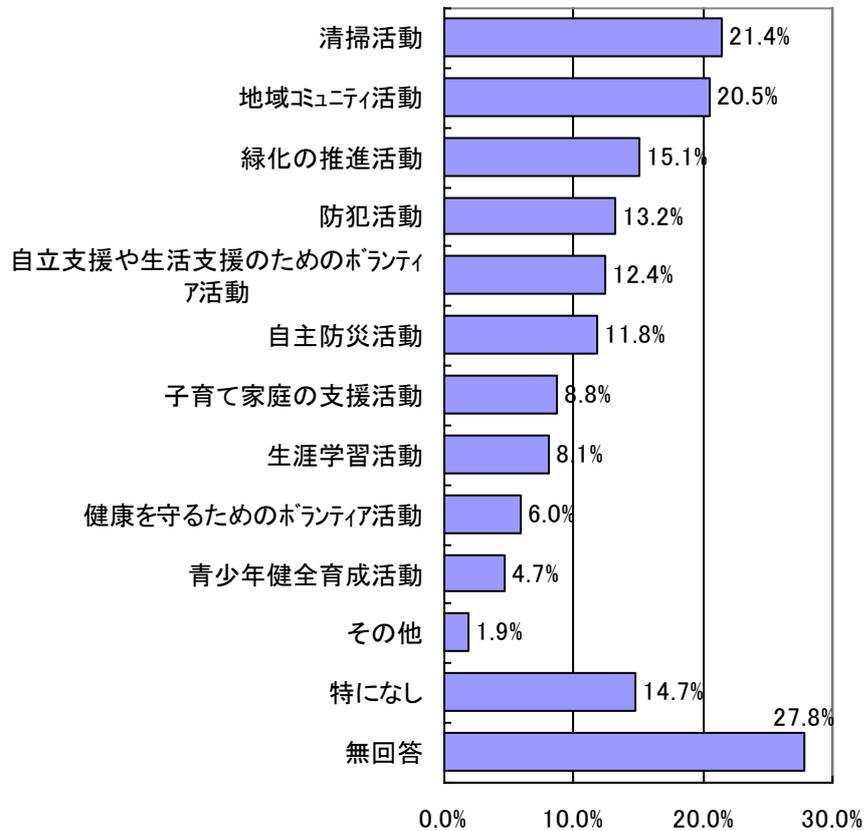
*現在と同様、「清掃活動」と「地域コミュニティ活動」が高い。

問 24 また、今後、地域で取り組みたいと思うものについて、下記の中からあてはまるものをすべて選び、回答欄②（今後）に○をつけてください。

- ・ 今後地域で取り組みたいと思う活動は、現在取り組んでいる活動と同様に、「清掃活動」(21.4%)と「地域コミュニティ活動」(20.5%)が高い。
- ・ 一方、「緑化の推進活動」(15.1%、現在の取組状況は 3.0%)や、「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」(12.4%、現在の取組状況は 3.0%)は、現在の取り組み状況に比べて今後の取り組み意向が高い。

図表III-140 今後、地域で取り組みたいと思う活動

(n=1913)



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と概ね同様の傾向である。

図表III-141 今後、地域で取り組みたいと思う活動（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	清掃活動 23.5%	地域コミュニティ活動 21.6%	特になし 17.2%
女性(n=997)	清掃活動 21.0%	地域コミュニティ活動 20.7%	緑化の推進活動 特になし 14.1%

② 年齢別

- ・ 40～44歳および50歳以上では、「清掃活動」と「地域コミュニティ活動」が上位2位となっており、回答者全体と同様の傾向である。
- ・ 一方、20～24歳、35～39歳では「特になし」が最も高く、これらの年齢階層では、今後についても地域活動への参加意向が低い。
- ・ 子育て世代に該当する30～34歳では、回答者全体では第7位であった「子育て家庭の支援活動」（24.2%）が第2位にあげられており、子育て支援に関する活動への関心が高い。
- ・ 第3位の項目をみると、15～19歳および30～44歳では「防犯活動」、15～19歳、60～64歳および70～74歳では「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」があげられている。

図表III-142 今後、地域で取り組みたいと思う活動（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	清掃活動	緑化の推進活動	自立支援や生活支援のためのボランティア活動
	37.0%	29.6%	防犯活動 地域コミュニティ活動 14.8%
20～24歳(n=58)	特になし	緑化の推進活動	
	27.6%	地域コミュニティ活動	22.4%
25～29歳(n=101)	清掃活動	特になし	地域コミュニティ活動
	21.8%	19.8%	16.8%
30～34歳(n=165)	清掃活動	子育て家庭の支援活動	防犯活動
	24.8%	24.2%	地域コミュニティ活動 21.2%
35～39歳(n=219)	特になし	清掃活動	防犯活動
	20.5%	19.2%	地域コミュニティ活動 17.8%
40～44歳(n=203)	清掃活動	地域コミュニティ活動	防犯活動
	21.7%	17.2%	特になし 16.7%
45～49歳(n=125)	清掃活動		地域コミュニティ活動
	特になし	20.8%	19.2%
50～54歳(n=88)	清掃活動	地域コミュニティ活動	特になし
	26.1%	23.9%	19.3%
55～59歳(n=122)	地域コミュニティ活動	清掃活動	緑化の推進活動
	22.1%	19.7%	17.2%
60～64歳(n=207)	地域コミュニティ活動	清掃活動	自立支援や生活支援のためのボランティア活動
	25.6%	25.1%	緑化の推進活動 20.8%
65～69歳(n=220)	清掃活動	地域コミュニティ活動	緑化の推進活動
	26.8%	25.0%	20.9%
70～74歳(n=183)	地域コミュニティ活動	清掃活動	自立支援や生活支援のためのボランティア活動
	25.1%	16.9%	12.0%
75歳以上(n=185)	清掃活動	地域コミュニティ活動	特になし
	13.0%	11.9%	9.7%

③ 地区別

- ・ 1位と2位の順位の入れ替えはあるが、南部①、西部①を除く全ての地区で、「清掃活動」と「地域コミュニティ活動」が上位2位にあげられている。
- ・ 南部①、西部①は、現状「特になし」が比較的高い地区であるが、今後についても「特になし」が第2位となっており、今後も取組意向が低い地区といえる。
- ・ 第3位の項目をみると、中部①・②、北部②では「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」が、北部①では「防犯活動」があげられている。

図表III-143 今後、地域で取り組みたいと思う活動（地区別）

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	清掃活動	特になし	地域コミュニティ活動
	23.4%	22.3%	17.0%
南部②(n=226)	地域コミュニティ活動	清掃活動	特になし
	18.1%	17.7%	15.9%
西部①(n=179)	清掃活動	緑化の推進活動	
	24.0%	特になし	19.0%
西部②(n=275)	地域コミュニティ活動	清掃活動	特になし
	20.7%	16.0%	15.3%
中部①(n=139)	地域コミュニティ活動	清掃活動	自立支援や生活支援のためのボランティア活動
	24.5%	23.0%	18.7%
中部②(n=128)	清掃活動		自立支援や生活支援のためのボランティア活動
	地域コミュニティ活動		18.8%
東部①(n=241)	地域コミュニティ活動	清掃活動	緑化の推進活動
	24.9%	22.0%	17.0%
東部②(n=295)	清掃活動	地域コミュニティ活動	緑化の推進活動
	24.4%	19.0%	16.9%
北部①(n=238)	清掃活動	地域コミュニティ活動	防犯活動
	24.8%	21.0%	15.5%
北部②(n=69)	清掃活動	地域コミュニティ活動	自立支援や生活支援のためのボランティア活動
	29.0%	27.5%	20.3%

④ 職業別

- ・ 各職業とも概ね、上位3位以内に「清掃活動」と「地域コミュニティ活動」があげられている。
- ・ 公務員および学生は、回答者全体の傾向と異なり、「緑化の推進活動」が最も高い。また、職業のその他では、「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」が最も高い。
- ・ パート・アルバイト・契約社員では「防犯活動」（17.9%）が、自営業・自由業では「自主防災活動」（19.1%）が第3位にあげられている。

図表III-144 今後、地域で取り組みたいと思う活動（職業別）

	1位	2位	3位
会社員(n=552)	清掃活動 22.8%	地域コミュニティ活動 19.7%	特になし 18.3%
公務員(n=62)	緑化の推進活動 29.0%	清掃活動 25.8%	特になし 22.6%
パート・アルバイト・契約社員(n=273)	地域コミュニティ活動 23.1%	清掃活動 21.2%	防犯活動 17.9%
自営業・自由業(n=115)	清掃活動 24.3%	地域コミュニティ活動 23.5%	自主防災活動 19.1%
学生(n=48)	緑化の推進活動 清掃活動 29.2%		地域コミュニティ活動 22.9%
専業主婦・主夫(n=417)	地域コミュニティ活動 22.5%	清掃活動 22.3%	緑化の推進活動 防犯活動 12.2%
無職(n=368)	地域コミュニティ活動 18.5%	清掃活動 17.4%	特になし 15.2%
その他(n=53)	自立支援や生活支援のためのボランティア活動 20.8%	清掃活動 特になし	15.1%

注) 職業のうち、「農・漁業」は6サンプルと回答者数が少なく、クロス分析が統計的意義を持つ数字としないため、掲載していない。

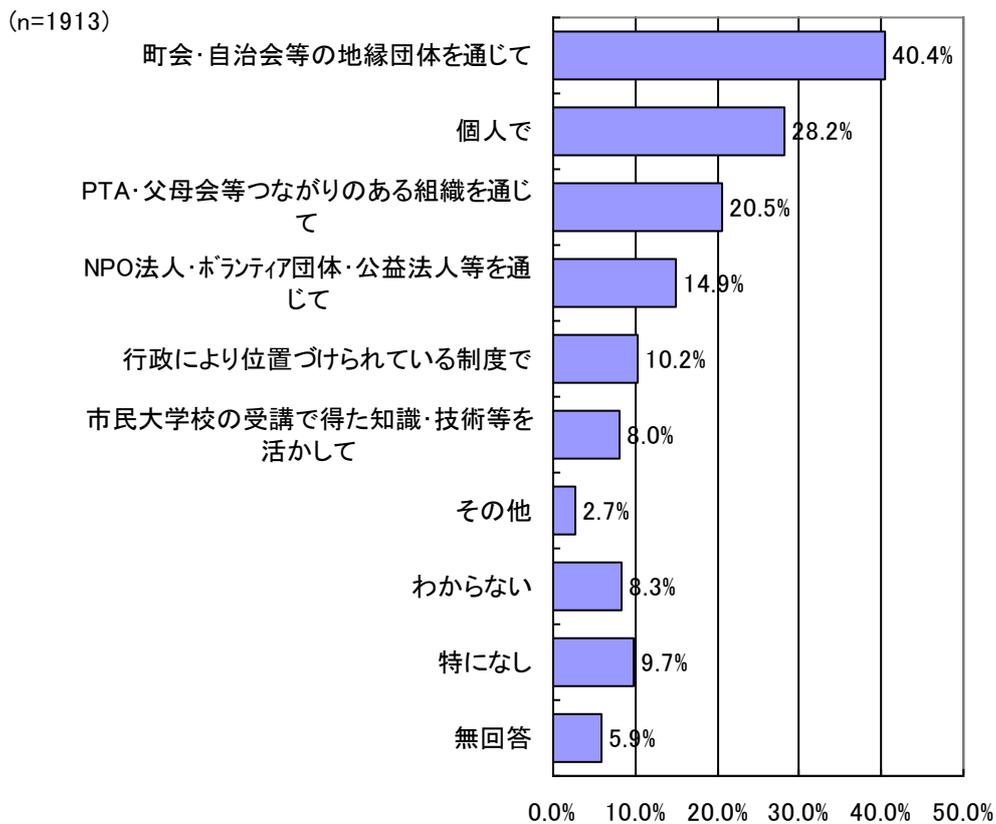
(3) 今後の地域活動への参加形態

* 「町会・自治会等の地縁団体を通じて」、もしくは「個人で」の希望が高い。

問 25 あなたが今後、様々な地域の活動に参加する場合、どのような形が参加しやすいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・ 今後の地域活動への参加形態は、「町会・自治会等の地縁団体を通じて」（40.4%）が最も高く、次いで「個人で」（28.2%）、「PTA・父母会等つながりのある組織を通じて」（20.5%）となっている。

図表III-145 今後の地域活動への参加形態



① 性別

- ・ 男女とも、回答者全体と同様の傾向である。
- ・ 女性では「PTA・父母会等つながりのある組織を通じて」（26.1％）の割合が男性（16.6％）に比べて約1割高いのに対して、男性は「個人で」（31.2％）が女性（26.2％）に比べてやや高い。

図表III-146 今後の地域活動への参加形態（性別）

	1位	2位	3位
男性(n=728)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 40.7%	個人で 31.2%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 16.6%
女性(n=997)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 40.3%	個人で 26.2%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 26.1%

② 年齢別

- ・ 20～24 歳および 30～44 歳では「PTA・父母会等つながりのある組織を通じて」が最も高く、保育園・幼稚園や学校での父母のつながりを通じた参加意向が強い。
- ・ 15～19 歳および 45 歳以上では、回答者全体と同様、「町会・自治会等の地縁団体を通じて」が最も高い。
- ・ 15～19 歳および 50～74 歳では「NPO 法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて」が第 3 位にあげられている。

図表 III-147 今後の地域活動への参加形態（年齢別）

	1位	2位	3位
15～19歳(n=27)	個人で 町会・自治会等の地縁団体を通じて 29.6%		NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 22.2%
20～24歳(n=58)	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 町会・自治会等の地縁団体を通じて 32.8%		個人で 29.3%
25～29歳(n=101)	個人で 30.7%	町会・自治会等の地縁団体を通じて 29.7%	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 27.7%
30～34歳(n=165)	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 44.2%	町会・自治会等の地縁団体を通じて 27.3%	個人で 21.2%
35～39歳(n=219)	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 42.5%	町会・自治会等の地縁団体を通じて 36.5%	個人で 26.0%
40～44歳(n=203)	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 41.9%	町会・自治会等の地縁団体を通じて 39.9%	個人で 23.6%
45～49歳(n=125)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 43.2%	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 25.6%	個人で 21.6%
50～54歳(n=88)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 47.7%	個人で 33.0%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 21.6%
55～59歳(n=122)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 46.7%	個人で 27.0%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 18.9%
60～64歳(n=207)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 44.0%	個人で 39.6%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 18.4%
65～69歳(n=220)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 48.2%	個人で 38.6%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 19.1%
70～74歳(n=183)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 47.5%	個人で 23.5%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 11.5%
75歳以上(n=185)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 36.8%	特になし 23.2%	個人で 22.2%

③ 地区別

- ・ 各地区とも、回答者全体と概ね同様の傾向となっている。
- ・ 南部①では「PTA・父母会等つながりのある組織を通じて」(30.9%)が第2位、西部①では「NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて」(17.3%)が第3位である。

図表III-148 地域活動への参加形態(地区別)

	1位	2位	3位
南部①(n=94)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 31.9%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 30.9%	個人で 28.7%
南部②(n=226)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 38.9%	個人で 27.0%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 20.4%
西部①(n=179)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 31.8%	個人で 26.8%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて NPO法人・ボランティア団 体・公益法人等を通じて 17.3%
西部②(n=275)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 37.8%	個人で 28.4%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 21.5%
中部①(n=139)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 43.2%	個人で 27.3%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 20.1%
中部②(n=128)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 41.4%	個人で 30.5%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 21.9%
東部①(n=241)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 43.2%	個人で 28.2%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 22.4%
東部②(n=295)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 42.0%	個人で 30.5%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 20.7%
北部①(n=238)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 48.3%	個人で 26.5%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 16.4%
北部②(n=69)	町会・自治会等の地縁 団体を通じて 46.4%	個人で 27.5%	PTA・父母会等つながり のある組織を通じて 20.3%

④ 職業別

- ・ 職業のその他を除き、全ての職業で「町会・自治会等の地縁団体を通じて」が最も高い。
- ・ 上位 2～3 位の項目は、順位の入替えはあるものの、各職業とも概ね回答者全体と同様である。
- ・ 学生および職業のその他では、「個人で」が最も高い。
- ・ 自営業・自由業および職業のその他では、「NPO 法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて」が第 3 位にあげられている。

図表III-149 地域活動への参加形態（職業別）

	1位	2位	3位
会社員(n=552)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 36.1%	個人で 27.0%	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 24.1%
公務員(n=62)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 37.1%	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 27.4%	個人で 25.8%
パート・アルバイト・契約社員(n=273)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 42.1%	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 25.6%	個人で 25.3%
自営業・自由業(n=115)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 43.5%	個人で 32.2%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 20.9%
学生(n=48)	個人で 町会・自治会等の地縁団体を通じて 31.3%		PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 29.2%
専業主婦・主夫(n=417)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 43.6%	PTA・父母会等つながりのある組織を通じて 27.8%	個人で 26.9%
無職(n=368)	町会・自治会等の地縁団体を通じて 44.3%	個人で 31.3%	特になし 16.0%
その他(n=53)	個人で 39.6%	町会・自治会等の地縁団体を通じて 35.8%	NPO法人・ボランティア団体・公益法人等を通じて 28.3%

注) 職業のうち、「農・漁業」は6サンプルと回答者数が少なく、クロス分析が統計的意義を持つ数字とまらないため、掲載していない。

< 卷末資料 >

- ・ アンケート調査票

I. はじめに、あなたご自身についておうかがいします。

F1からF8まで、それぞれあなたにあてはまる番号に○をつけてください。

F1. 性別	1. 男性	2. 女性		
F2. 年齢	1. 15～19歳 5. 35～39歳 9. 55～59歳 13. 75歳以上	2. 20～24歳 6. 40～44歳 10. 60～64歳	3. 25～29歳 7. 45～49歳 11. 65～69歳	4. 30～34歳 8. 50～54歳 12. 70～74歳
F3. ご職業	1. 会社員 4. 自営業・自由業 7. 専業主婦・主夫	2. 公務員 5. 農・漁業 8. 無職	3. パート・アルバイト・契約(派遣)社員 6. 学生 9. その他 ()	
F4. ご自宅 (居住地区)	地区	該当する町丁名		
	1. 南部①	本町3丁目、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町		
	2. 南部②	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台、本町(3丁目を除く)、南本町、海神、海神町、海神町東、海神町西、海神町南、南海神		
	3. 西部①	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山、二子町、本中山		
	4. 西部②	旭町、前貝塚町、行田町、行田、山手、北本町、丸山、藤原、上山町、馬込町		
	5. 中部①	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町、高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台		
	6. 中部②	高根台、芝山、新高根		
	7. 東部①	前原東、前原西、中野木、三山、田喜野井、習志野		
	8. 東部②	二宮、飯山満町、滝台町、滝台、薬円台、薬園台町、七林町、習志野台、西習志野		
	9. 北部①	二和東、二和西、三咲町、三咲、南三咲、八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台、松が丘、大穴町、大穴南、大穴北		
10. 北部②	小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町、坪井町			
F5. 世帯の構成	1. ひとり暮らし		2. 一世代世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	
	3. 二世帯世帯(親と子など)		4. 三世帯世帯以上(祖父母と親と子など)	
5. その他 ()				
F5-2 右記に該当する家族がおられる方は、あてはまる番号に○をつけてください		1. 家族に中学校卒業前の子どもがいる		
		2. 家族に65歳以上の高齢者がいる		
F6. 通勤・通学手段 (複数回答可)	1. 徒歩のみ 3. オートバイ 5. ハイヤー・タクシー 7. 路線バス 9. 通勤・通学はしていない	2. 自転車 4. 自家用車 6. 鉄道(JR・私鉄・地下鉄等) 8. その他 ()		

問3 問1で「3. あまり住みたくない」、「4. すぐにでも転出したい」と回答した方におうかがいします。

市外に移りたいというあなたの意向が変わるとしたら、どのようなことがきっかけになると思いますか。あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

1. 医療サービスや高齢者・障害者に対する福祉サービスが今以上に充実する
2. 保育などの子育て支援サービスが今以上に充実する
3. 豊かな自然環境が保全、継承される
4. 大気や水質などの地域環境が今以上によくなる
5. 治安の改善や、災害に対する危険性が低下し、生活の安全性が高まる
6. 満足できる住居が確保しやすくなる
7. 教育・文化環境が今以上によくなる
8. 魅力のある商業施設が整い、日常の買い物が便利になる
9. 市内の雇用環境が好転し、市内での就職先が今以上に増加する
10. 道路や公園等の都市基盤の整備がすすみ、生活環境が良くなる
11. 交通の便が今以上に良くなる
12. ご近所づきあいが活発になり、地域のつながりが今よりも良くなる
13. その他（具体的に： _____)

Ⅲ. まちのイメージについておうかがいします。

問4 あなたが思い浮かべる、船橋市の良いイメージはどれですか。次の中から、あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

※あなたがお住まいの地域に限らず、市全体についてのイメージをご回答ください。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 住み心地がよい | 7. 歴史や伝統を大事にしている |
| 2. 洗練されている | 8. 活気・にぎわいがある |
| 3. 子どもからお年寄りまで安心して暮らせる | 9. 都心に近く便利 |
| 4. 安らぎがある | 10. 落ち着きがある |
| 5. 生活に潤いがある | 11. 特になし |
| 6. 生きがいを実感できる | 12. その他（ _____) |
| | 13. わからない |

IV. 市政に対する満足度と、今後の取り組みの重要性についておうかがいします。

問 8 あなたが生活する上で、次のそれぞれの項目について、どのようにお感じになっていますか。
 A欄（現在の状況）、B欄（以前と比べて）のあてはまるところに1つずつ○をつけてください。
 ※B欄の「以前と比べて」は5年以前と比べて、それ以降に市内に住んだ方は転入当時と比べて。
 また、それぞれの項目について、今後その取り組みを進めることの重要度について、C欄（重要度）のあてはまるところに1つずつ○をつけてください。
 ※「特に重要」は、「他の施策を遅らせてでも優先的に取り組むべきと思うもの」を指します。
 なお、わからない場合には、空欄にしてください。

分野	番号	項目	A.現在の状況			B.以前と比べて			C.重要度		
			良い	ふつう	悪い	良くなった	変わらない	悪くなった	特に重要	重要	重要でない
	0	(例)		○				○		○	
I 健康・福祉	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境									
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境									
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス									
	4	障害者にとっての生活しやすさ									
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境									
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ									
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況									
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況									
	9	生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況									
II 自然環境・生活環境	10	自然と調和したまちづくりの状況									
	11	親しみのある水辺の整備状況									
	12	まちの中にみどりや公園が豊かにある状況									
	13	公害など環境汚染の少ない安全な生活環境									
	14	省資源・省エネルギーに配慮したまちづくりの状況									
	15	ごみの適切な処理や、減量・リサイクルの取り組み状況									
	16	下水道の整備環境									
	17	災害に対して十分な備えがある環境									
	18	犯罪が少なく安心して暮らせる住環境									
	19	消防体制・救急体制の状況									
	20	まちの美化の状況									
	21	市内における墓地の整備状況									
	22	良好な住まいの供給状況									

分野	番号	項目 ※A. B.については以下に示した状況について、「現在の状況」と「以前との比較」をお答えください。 ※Cについてはその状況を促進することについてお答えください ※わからない場合には、空欄にしてください。	A.現在の状況			B.以前と比べて			C. 重要度		
			良い	ふつう	悪い	良くなった	変わらない	悪くなった	特に重要	重要	重要でない
Ⅲ文化・教育・生涯学習	23	だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境									
	24	地域で芸術文化活動を楽しみ、参加できる環境									
	25	ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況									
	26	だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境									
	27	家庭における親・子の育ちを支える地域環境									
	28	主体的に学ぶ意欲や、豊かな人間性を育む学校教育環境									
	29	青少年の健全な育成を支える地域環境									
	30	多様な国籍の人との交流や共生の状況									
	31	世界平和に対する市民意識の状況									
Ⅳ産業振興	32	まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況									
	33	魅力的な商業施設等の集積の状況									
	34	地域工業の高度化や活性化の状況									
	35	元気で競争力のある中小企業が活動している状況									
	36	安心して働くことができる雇用・労働環境									
	37	市民に親しまれる都市型農業が発展している状況									
	38	活気があり安定的な漁業が行われている状況									
	39	消費者の利益がまもられている状況									
Ⅴまちづくり	40	良好な景観・街並みが保存されている状況									
	41	魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況									
	42	身近な道路の安全さや快適さ									
	43	都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況									
	44	鉄道・バスなど公共交通の利便性									
	45	バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況									
	46	各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出									
Ⅵ市民参加	47	市のまちづくりに参加・参画する場や機会の充実度									
	48	町会・自治会やボランティアなどコミュニティ活動の活発さ									
	49	あらゆる分野に男女が平等に参画し、協働できる環境									
	50	ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性									

V. 船橋市の将来に向けた、事業等の優先度についておうかがいします。

問 9 【健康維持・医療体制の充実】

健康維持・医療体制の充実に関する事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 運動不足の解消や栄養・禁煙指導などの**健康増進事業の充実**
2. 地域住民の食生活改善支援などの**各種栄養保健事業の充実**
3. 各種がん検診や特定健康診査などの充実による**病気の予防・早期発見**
4. 保健所を中心とした**公衆衛生行政の充実**（新型インフルエンザ対策・感染症予防等）
5. 在宅療養者・高齢者に対する保健・栄養・口腔指導や看護ケアなど**訪問指導の充実**
6. 地域密着の健康相談・講座や検診等の拠点となる**保健センターの整備**
7. 疾病に応じた適切な治療が受けられる**地域保健医療システムの充実**
8. 夜間・休日などにおける**救急医療体制の充実**
9. 市内で安心してお産ができる**周産期医療体制の充実**
10. 専門的高度医療の充実など**市立医療センターの機能の充実**
11. リハビリセンター・病院の施設整備など**地域におけるリハビリテーション体制の充実**
12. その他（具体的に： _____）
13. わからない

問 10 【子育て支援の充実】

子育て支援に関する事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 延長保育、休日保育、一時保育や、保育所施設の整備などによる**保育園サービスの拡大**
2. **病児・病後児に対する保育施設の整備**
3. 認可保育園や認証保育所等の保育施設の増設などによる**待機児童の解消**
4. 子育て相談を行う子育て支援センターの整備などによる**地域の子育て拠点の充実**
5. 子育て広場事業や、子育て支援サークルの支援による**子育て家庭の地域交流促進**
6. ファミリー・サポート・センターなどによる**仕事と子育ての両立支援策の充実**
7. 乳幼児医療の拡大などによる**経済的負担の軽減**
8. 放課後ルーム（児童クラブ）の整備などによる**放課後児童対策の充実**
9. 家庭・学校・地域・行政などの連携による**児童虐待防止への取り組み**
10. 児童ホーム（児童館）など、**子ども達がのびのびと遊べる環境の整備**
11. **ひとり親家庭**への経済的援助や、家事援助、就労支援などの充実
12. 障害児の療育施設整備や、療育相談の充実などによる**障害児対策の充実**
13. **小児医療と救急医療体制の充実**
14. その他（具体的に： _____）
15. わからない

問 11 【高齢者・障害者福祉の充実】

高齢者や障害者を支える福祉分野における事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 障害の早期発見や、リハビリテーション体制の充実などによる**障害予防事業の充実**
2. 障害者の外出支援や、スポーツ・レクリエーションへの参加促進など**社会交流の促進**
3. 高齢者の体力づくりや健康指導、生活機能チェックなど**介護予防事業の充実**
4. 高齢者の社会活動や地域活動への参加などによる**生きがいくりの充実**
5. シルバー人材センター、授産施設、福祉作業所など**高齢者・障害者の就労の場の確保**
6. 高齢者・障害者の在宅生活を支援する**在宅介護サービスや訪問介護、通所型施設の充実**
7. 高齢者・障害者の**入所型の介護福祉施設等の整備**
8. 認知症サポーターの育成やグループホームの整備など**認知症高齢者対策の充実**
9. 高齢者や障害者が利用する**ホームヘルパーなどの人材育成・質の向上**
10. 高齢者や障害者を支援する**ボランティア・NPOなどの育成、協力体制の構築**
11. 高齢者や障害者が自宅で生活するための**住宅改修等の支援**
12. **介護保険サービス**の手続の簡素化・利便性向上、給付対象の拡充など**使いやすさの向上**
13. その他（具体的に： _____)
14. わからない

問 12 【環境保全・資源の有効活用】

環境保全やごみの減量を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 河川・排水路の整備や、生物の生育環境の保護などによる**親しみのある水辺空間の創出**
2. 公園緑地の整備や、緑あふれる市街地の形成など**豊かな緑の保全・創出**
3. 歩道脇や公園の花植えなどの市民の**緑化活動の支援**
4. 大気・水質・土壌環境への負荷軽減や、騒音防止などによる**身近な生活環境の保全**
5. 太陽光発電やごみ発電・余熱利用、雨水の貯留などによる**エネルギー・資源の有効活用**
6. 資源の再利用など**市民・事業者に対するリサイクル活動の促進**
7. ごみの収集方法の工夫や、ごみ処理施設の整備などによる**清潔なまちづくり**
8. ポイ捨て禁止や屋外広告物の規制などによる**公共の場の美化の推進**
9. 環境家計簿の普及や市民・事業者への意識啓発などを通じた**環境にやさしい暮らしの促進**
10. 学校教育における**環境教育・環境学習の推進**
11. 環境保全や資源の有効活用に取り組む**環境ボランティアの育成と活動の支援**
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない

問 13 【防災体制の充実】

災害に強い安全・安心なまちづくりを進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 避難道路や防災拠点施設の整備など**避難対策の強化**
2. 防災倉庫や学校備蓄倉庫における**食糧・資機材の備蓄拡充**
3. 延焼火災を防ぐための**木造密集地区の解消**
4. **住宅の耐震化や不燃化促進**への取り組み
5. **学校施設・公共施設などの耐震化や不燃化促進**への取り組み
6. 台風や豪雨時の浸水被害の軽減を図るための**治水・都市基盤整備の促進**
7. 防災訓練や自主防災組織への支援など**地域防災力の強化**
8. 家庭における非常持出品の用意や災害発生時の心がけなど**各家庭への意識啓発の促進**
9. ハザードマップの普及など**市民への災害危険区域の周知**
10. 災害発生時における周辺自治体との**相互応援体制の整備**
11. 災害発生時におけるデパート、スーパー、コンビニなどとの**応援協力体制の整備**
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない

問 14 【防犯体制の充実】

犯罪の少ない安全・安心なまちづくりを進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 夜道の安全を守るための**防犯灯の増設**
2. 商業施設や繁華街などへの**防犯カメラの設置**
3. **警察官増員・交番の増設やパトロールの強化**
4. 事業所保有車両へのステッカー貼付など**事業者によるまちの見守り活動の支援**
5. 住民による防犯パトロールなど**自主防犯活動への支援**
6. **通学路の見守り活動（スクールガード）**への支援や、**学校施設の安全確保体制の強化**
7. 小・中学生への**携帯用防犯ブザーや、防犯笛の配布**
8. 児童が自ら危険を回避し、安全に行動する能力を身に付けるための**防犯教育の充実**
9. 地域別の犯罪発生状況や不審者情報など**犯罪発生情報の提供強化**
10. 広報活動や講習会などを通じた**市民の防犯に関する知識・意識の向上**
11. その他（具体的に： _____)
12. わからない

問 15 【学校教育・青少年健全育成活動の充実】

豊かな人間性を育む学校教育や青少年健全育成活動を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 基礎的・基本的な学習内容の定着や、多様な科目の導入など**学校教育の充実に向けた取組**
2. 豊かな心と自主性を育むための**学校での道徳教育、人権教育やボランティア体験の推進**
3. いじめや不登校などの問題に対処するカウンセラーや相談員など**相談・指導体制の充実**
4. 個々の生徒の発達に合わせた教育を行いやすい**中高一貫教育の推進**
5. 教職員研修や、校長の民間人材登用・教員の増員など**教員の質の向上に向けた取組**
6. 知識・技術を有する高齢者などの**地域人材を教科・部活動指導へ活用する取り組み促進**
7. ゆとりある教育環境を実現するための**少人数学級への取り組みの推進**
8. 経済的理由で進学が困難な者に対する**学費の減免や奨学金制度の充実**
9. **青少年の非行の早期発見や未然防止**を目的とした街頭指導や相談体制の充実強化
10. 地域での青少年団体活動、交流活動やボランティア活動など**青少年の社会参加促進**
11. その他（具体的に： _____)
12. わからない

問 16 【生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興】

生涯学習やスポーツ活動、芸術文化の振興を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 自主的な生涯学習・スポーツ活動を支援するための**情報提供の充実**
2. 多様な生涯学習ニーズに応える**学習機会・学習内容の充実**
3. 市民が気軽に参加できる**スポーツ教室やレクリエーション大会の開催支援**
4. 生涯にわたって運動に親しむ能力の育成のため、**学校での体育の授業や部活動の充実**
5. 市民だれもが利用できる**生涯学習施設の整備**
6. 学校開放など既存の身近な施設の活用による**生涯学習・スポーツ活動の場の確保**
7. 健康・体力づくりやスポーツを行うための**生涯スポーツ・レクリエーション施設の整備**
8. 生涯学習・スポーツ活動の**指導者となる人材の育成・確保**
9. 文化事業の実施、施設の整備、情報の提供などによる**市民の文化・芸術活動の支援**
10. 市内の歴史資料の収集・整備や体験学習への活用による**ふるさとの歴史学習機会の拡大**
11. 地域の祭りや年中行事など**郷土芸能の継承支援**
12. まちなみや文化財など**文化的価値のある財産の保存・継承**
13. その他（具体的に： _____)
14. わからない

問 17 【商工業・観光振興】

市内の商工業や観光振興を進めていく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 海や川などの自然や湾岸部の集客施設など**海を活かした観光の推進**
2. 集客イベントの支援や新たな観光コースの開発などによる**観光の活性化**
3. 主要駅周辺への魅力ある商業の誘致などによる**商業の活性化**
4. 身近な商店街などにおける歩行者空間、駐車場、街路灯などの**商店街環境の整備支援**
5. 地域工業の**高度化・高付加価値化への支援**
6. 住工混在地域にある工場の**工業適地（ハイテクパーク）への移転促進**
7. 中小企業に対する**技術力向上・新製品開発の支援**
8. 中小企業に対する**融資制度・経営相談の拡充**
9. 中小企業における**労働環境の向上や福利厚生の実施に対する支援**
10. 離職者や新卒者への就職斡旋などによる**雇用の促進**
11. 就労希望者に対する**職業能力訓練の実施**
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない

問 18 【農業・漁業の振興】

市内の農業や漁業を振興していく事業等の中で、あなたが重視すべきだと思うものはどれですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 優良農地の集積や、遊休農地の有効利用を図るための**農地の流動化の促進**
2. 農業センターにおける**先進的な農業技術の開発と普及促進**
3. 有機農業の普及促進や独自の安全基準の設定など**安全な農畜産物の生産支援**
4. 市内の農業を市民にとって身近なものとするための**地元農水産物等の直売所の整備**
5. 農業・漁業経営の向上のための**農場・漁場整備や生産加工施設の整備支援**
6. 農業・漁業経営の基盤強化のための**各種助成制度の実施**
7. 農業・漁業の後継者やリーダーとなる人材育成のための研修など**担い手確保対策の実施**
8. 学校給食や医療・福祉施設などにおける**地場食材の積極的活用の促進**
9. 農業・漁業体験や各種イベントの開催など**市民が農業・漁業にふれあう機会の創出**
10. その他（具体的に： _____)
11. わからない

問 19 【土地の適正利用】

船橋市の土地利用を考える上で、あなたが最も基本とすべきことはどのようなことだと思いますか。次の中から、あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

1. 積極的に市街地の拡大を図る
2. 必要に応じて市街地の拡大を図る
3. 駅前など拠点整備に重点を置き、土地の有効活用を図る
4. 木造住宅が密集している市街地の再整備に重点を置き、土地の有効活用を図る
5. 郊外の農地や樹林地の保全を図り、これ以上の市街地拡大は行わない
6. その他（具体的に： _____）
7. 現在の土地利用でよい

問 20 【将来の市街地の土地利用方策】

市街地における将来の土地利用の方策のあり方について、どのようにしていくべきだと思いますか。次の中から、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 市街地の土地利用規制を緩和することで、開発を促進する
2. 市街地の土地利用規制を強化することで、積極的に現在の住環境や自然環境などを保全する
3. 規制を強化すべき区域と緩和すべき区域に分けて、計画的に保全や開発を行う
4. 特に方策を講じる必要はない
5. わからない
6. その他（具体的に： _____）

問 21 【都市基盤整備】

市内の、今後の都市基盤整備において、あなたはどのようなところに重点的に投資することが必要と考えますか。次の中から、あてはまるもの2つ以内に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 県道などの主要道路の整備 | 8. 排水路の整備 |
| 2. 身近な生活道路の整備 | 9. 区画整理等の市街地整備 |
| 3. 鉄道の本数や路線網の整備 | 10. 公園・緑地・児童遊園等の整備 |
| 4. 鉄道駅のバリアフリー化 | 11. 緑や海、川などに親しめる場の創出 |
| 5. 路線バスの本数や路線網の整備 | 12. その他（ _____） |
| 6. 下水道の整備 | 13. わからない |
| 7. 河川の整備 | |

問 22 【施策の優先度】

あなたは今後、市としてはどのような施策に優先的に取り組むべきだと思いますか。次の中から重要と思われるものを順に3つまで選び、回答欄に番号を記入してください。

1. 保健・医療の充実	8. 芸術・文化活動の活性化
2. 子育て支援の充実	9. 学校教育の充実
3. 高齢者福祉の充実	10. 産業の振興
4. 障害者福祉の充実	11. 都市基盤整備の推進（道路・施設など）
5. 環境保全対策（自然環境・生活環境）の充実	12. 市民協働型まちづくりの推進
6. 防災・防犯対策の充実	13. その他（回答欄に具体的に記入）
7. 生涯学習・スポーツ活動の活性化	14. わからない

〔回答欄〕

	選択肢番号	「13.その他」の場合、具体的に記入
①最も優先すべき施策	()	
②2番目に優先すべき施策	()	
③3番目に優先すべき施策	()	

VI. 船橋市内における、施設の必要性についておうかがいします。

問 23 限りある財源の中では、施設の整備や維持が困難になると予想される中で、船橋市内において、①整備の必要性が高いと思われる施設と、②必要性が低い、または縮小することもやむを得ないと思う施設は、どれですか。それぞれ下表から5つまで選び、回答欄（次頁）にご記入ください。

〔選択肢〕

施設一覧		
1. 保育園	10. 病院等の医療施設	23. 交番
2. 子育て支援センター (子育て相談施設)	11. 保健センター	24. 体育館、運動場等のスポーツ施設
3. 放課後ルーム（児童クラブ）	12. 地方衛生研究所（インフルエンザ・食品等の検査施設）	25. 中小小売店・商店街
4. 児童ホーム（児童館）	13. 出張所・連絡所	26. 百貨店・スーパー等
5. 児童相談所	14. 緑地・公園・児童遊園	27. 農水産物等の直売所
6. 老人ホーム・デイサービスなどの介護保険施設	15. 小中学校	28. 市場等の食品の流通施設
7. 老人福祉センター・老人憩いの家などの高齢者生きがい施設	16. 高校・大学等の高等教育機関	29. 消費者センター（相談業務）
8. 障害者福祉施設	17. 歴史や芸術などの文化施設	30. バスのりば
9. 女性センター (DV相談等)	18. 公民館	31. 鉄道駅
	19. 図書館	32. 公営住宅
	20. 市民センター・集会所	33. その他（回答欄に具体的に記入）
	21. 町会自治会館	
	22. 駐輪場	

【①今後の整備の必要性が高いと思われる施設】

〔回答欄〕

- ⇒A列：船橋市内において、今後、整備の必要性が高い施設を 14 ページの表から 5つまで選び、番号をご記入ください。なお、「33. その他」の場合は、具体的な施設名称もA列にご記入ください。
- ⇒B列：A列で選んだ施設のうち、特にあなたのご近所（お住まいの地域）に必要性が高いと思うものについて、○をご記入ください。
- ⇒C列：必要性が高いと考える理由を、ご自由に記入ください。

	A	B	C
	船橋市内に、今後必要と思われるもの（施設番号を14ページより選択）	左記のうち、特にご近所に必要なもの（該当するものに○）	左記のように必要と考える理由（自由記述）
(回答例)	1	○	近所の保育園に待機児童が多いため
1			
2			
3			
4			
5			

【②今後、整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思われる施設】

〔回答欄〕

- ⇒D列：船橋市内において、今後、整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設を 14 ページの表から 5つまで選び、番号をご記入ください。なお、「33. その他」の場合は、具体的な施設名称もD列にご記入ください。
- ⇒E列：D列で選んだ施設について、その理由を下表の中からあてはまるものをすべて選び、番号をご記入ください。

	D	E	
	必要性が低いまたは縮小してもよいもの（施設番号を14ページより選択）	左記のように考える理由（下表より選択・複数可）	「5. その他」の場合、具体的に
(回答例)	24	1, 3	
1			
2			
3			
4			
5			

必要性が低い・縮小してもよいと考える理由（あてはまるものをすべて選択）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 利用機会の少ない施設だから | 4. 他市の施設が利用できるから |
| 2. すでに市内に十分足りているから | 5. その他（回答欄に具体的に記入） |
| 3. 整備・維持にお金がかかりすぎるから | |

Ⅶ. あなたご自身の地域活動の取り組みについておうかがいします。

- 問 24 あなたが日頃から地域で取り組んでいる活動について、下記の中から あてはまるものをすべて選び、回答欄①（現在）に○をつけてください。
 また、今後、地域で取り組みたいと思うものについて、下記の中から あてはまるものをすべて選び、回答欄②（今後）に○をつけてください。

活動内容	回答欄① (現在)	回答欄② (今後)
1. 子育てボランティアなど 子育て家庭の支援活動		
2. 食生活サポーターなど地域住民の 健康を守るためのボランティア活動		
3. 高齢者や障害者の 自立支援や生活支援のためのボランティア活動		
4. 歩道脇や公園の花壇の管理などの 緑化の推進活動		
5. 住まいの周辺や公道などの 清掃活動		
6. 防災訓練などの 自主防災活動		
7. 登下校時の見守り活動や夜間の見回りなどの 防犯活動		
8. 学びのコーディネーターや市民向け講座の講師などの 生涯学習活動		
9. 街中の見回りや青少年団体の指導などの 青少年健全育成活動		
10. 町会・自治会の行事に参加するなどの 地域コミュニティ活動		
11. その他（具体的に： _____）		
12. 特になし		

- 問 25 あなたが今後、様々な地域の活動に参加する場合、どのような形が参加しやすいと思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 個人で	
2. P T A ・ 父 母 会 等 、 生 活 の 中 で つ な が り の あ る 組 織 を 通 じ て	
3. 町会・自治会などの地縁団体を通じて	
4. N P O 法 人 、 ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 、 公 益 法 人 等 を 通 じ て	
5. 行政により位置づけられている制度で（自主防災組織・防犯パトロール隊など）	
6. 市民大学校（まちづくり学部）の受講により得た知識・技術などを活かして	
7. その他（具体的に： _____）	
8. わからない	
9. 特になし	

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

船橋市 新基本計画に係る市民アンケート調査 報告書

平成 22 年（2010 年）3 月発行

【発行】 〒273-8501 船橋市湊町 2-10-25

船橋市 企画調整課

電話：047-436-2053（ダイヤルイン）

メールアドレス：kikaku-kei@city.funabashi.chiba.jp

【協力】 〒108-8248 東京都港区港南 2-16-4

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

電話：03-6711-1242
